

CONTACT体験特集

UFO

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER

UFO/超能力/宇宙哲学
コンタクティー

contactee

UFOの正体と観測の仕方

AUTUMN
1990

UFO・異星人との遭遇体験記

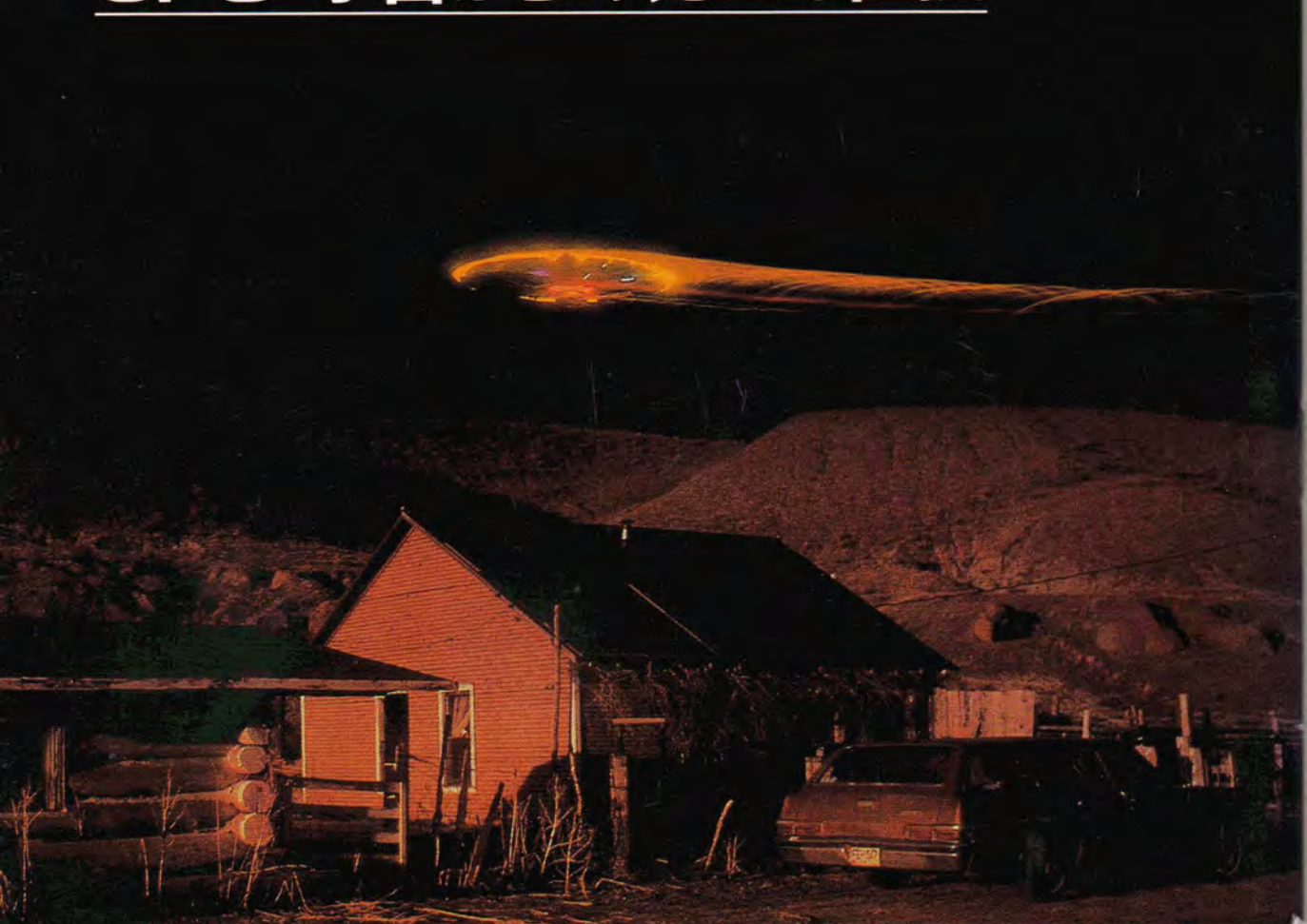
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法

西郷隆盛の最期を透視

アダムスキー秘書との対話

UFO-宇宙からの完全な証拠

110



〈巻頭言〉近世のアダムスキー	1
UFOの正体と観測の仕方	本誌編集部 2
UFO・異星人との遭遇体験記	藤本定雄 6
UFO写真展盛況	13
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法	久保田八郎 14
西郷隆盛の最期を透視	遠藤昭則 20
アダムスキー秘書との対話	向井 裕 24
GAP短信	29
科学-SCIENCE	30
アメリカGAP発足/(完)	31
UFO-宇宙からの完全な証拠(連載第12回)	ダニエル・ロス 34
〈投稿欄〉ユーコン広場	40
〈報告〉第1回南九州支部大会	42
第11回仙台・山形合同支部大会	43
第4回長野支部大会	44
〈予告〉第3回秋田・青森合同支部大会	45
英文版ユーコンNo.6／編集後記	46
〈予告〉1990年度日本GAP総会	47
本誌バックナンバー掲載記事目録	48
日本GAP全国月例研究会案内	50
〈広告〉新アダムスキー全集	51



◀ 金星からジョージ・アダムスキー
には送られた金星のシンボルマ
ーク。2個の対称形が、左側は宇宙
の安定原理(陽)、右側は母性原
理(陰)を意味する。円は宇宙を象
徴している。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた「生命の科学」の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

表紙写真

米モンタナ州のマイクル・サリヴァン撮影。
合成写真のように思われるが、詳細不詳。

古来、宇宙の姿は現代人が持つイメージとはほど遠く、太陽その他の星々は地球を中心として回転していると考えられていた。これを根底から覆したのがポーランドの天文学者ニコラス・コペルニクである。ラテン語でニコラス・コペルニクスという。

彼は天文学一筋に生きた人ではない。最初はクラカウ大学で神学と医学を学び、次に数学と天文学を学んだ。これらの学業は主としてイタリアで習得したが、帰国後はフラウエンブルクの寺院で聖職者として生涯をすごしている。

《巻頭言》 近世の アダムスキー



したがって科学と神学の両道を歩んだわけで、科学一辺倒の唯物論者ではない。

聖職者で科学的発明発見をした人は少なくない。遺伝学のいわゆるメンデルの法則を発見したグレゴール・ヨハン・メンデルもその一人で、彼は一八五六年に、勤めていた教会の小さな庭でエンドウを材料として遺伝の実験を始めたが、有名な法則を発見するまでに七年を要した。

こうした偉大な先駆者に共通する宿命は、同時代人に理解されないという

点にある。コペルニクスの場合は、一五三〇年頃に『天体の回転について』と題する著書の原稿が完成したらしいが、この中で有名な地動説を主張したために、教会の迫害を恐れて、すぐに出版しなかった。

当時のカトリック教会では天動説が絶対的な真理であり、太陽を始めとするあらゆる天体は地表の世界に従属するものと信じられていた。これに反論を唱える者には異端として破門から極刑までが待ち構えていた。

しかし友人達の熱心な激励によってコペルニクスは出版を決意したけれども、最初の校正刷が届いた時にはすでに重病で死の床にあった。

だが、このような大発見が見逃されて埋もれるはずはない。同調者は必ず現れる。ガリレオ・ガリレイがまず躍り出た。彼は数学と物理学で名声を博したが、もとオランダで発明された望遠鏡を改良して倍率を高めた上、これで木星の衛星、月の山や谷、太陽の黒点等を発見して、地動説に対する信念を強めた。

しかし当時の神学界を支配していたカビの生えたようなスコラ哲学の学者や聖職者達がガリレイを黙視するはずはなく、一六一六年には地動説を撤回せよとの命令が正式に法王庁から出た。これでへこたれるようなガリレイではない。一六三一年、またも『天文学対話』と題する著書を出して地動説を

煽り立てたからたまらない。ついに翌年宗教裁判にかけられて、地動説を捨てるかそれとも火あぶりの刑かという瀬戸際まで行き、恐ろしくなった彼は屈伏して地動説の誤りを証言し、誓約書を取られて釈放された。帰宅してから「それでも地球は動いているんだ」と呟いたというのは少々伝説じみているが、死後は葬儀も墓の建立も許されなかったというから、一六〇〇年代の法王庁というのは「地獄からの訪問者」の集まりみたいな所だ。

ガリレイが「あれは、ウソでした」と述べて助かったのはまだよい方で、地動説を最後まで支持して、ついに宗教裁判の結果、焼き殺されたのは、やはりもと聖職者であったジョルダノ・ブルーノである。

イタリア・ルネサンス期の大先覚者ブルーノは、コペルニクスの地動説ばかりではなく、無限の宇宙に無数の世界が生成消滅し、宇宙に絶対的中心は存在せず、万物はみな平等であるという説を打ち出したのだ（なんとという驚異的人物！）。こうして反スコラ哲学の論陣を張りながらヨーロッパ各地を歴訪し、一五九二年に帰国した所を逮捕され、七年に渡る宗教裁判でも自説を曲げず、ついに一六〇〇年二月、ローマ市内の「花の広場」で火刑に処せられた。「何か言い残すことはないか」と火付け役人から聞かれたブルーノは、「お前達のような虫ケラに言うことは

ない！」と罵声を浴びせて従容として死んでいったと伝えられている。

四年前『花の広場』に建つブルーノの銅像の頭や肩に多数の鳥がとまっていた光景を思い出す。在世中も友達の小鳥達だけだったのかもしれない。

近世のアダムスキーともいえるべき右の人々の業績は今や常識を通り越してすでに忘却の彼方へ去りつつある。今日ブルーノの名前などは誰も知らないが、宇宙が無限であり、万物が平等であるという思想は子供でも有している。

世界が日進月歩の勢いで発展すれば、昨日の大発見は明日の時代遅れとなる。しかし先駆的な説や主張が市民権を得るまでの道は遠い。「前途程遠し」。思いを雁山の暮の雲に馳す」という体の研究や活動は「豈GAPのみならんや」だが、我々の辞書には失望という文字はない。どうせここまでやってきたからには、あとには引けない」という悲壮感も持たぬ。あるのは信念のみ。

たぶん来世紀の中葉以降から太陽系の全惑星に人類が存在する事実が一般に知られるようになり、アダムスキーの名も世界的に浮上するだろう。そのように確信せざるを得ない理由もいろいろある。とにかく、ムキにならず、といって消極的にもならず、明るい希望を持って堂々と前進しよう。今は焼き殺される時代ではないから恐れる必要はない。

UFOs: What They Are and How To Contact Them.

〈本誌編集部〉

UFOの正体と観測の仕方

今世紀最大の謎といわれるUFO！妖しい光を放ち、想像を絶する速度で天空を飛翔し、ときに天女のごとく、ときに阿修羅のごとく出現するこの快光体は、第二次大戦終了後に急浮上した。

一九四七年六月二四日、米アイダホ州の実業家、ケネス・アーノルドが自家用機でワシントン州キヤスケード山脈の峰々の間を飛ぶ九個の不思議な物体を発見したのが目撃の嚆矢とされる。カリフォルニア州北部からカナダ西部にわたるこの大山脈の最高峰はレイニア山で、標高四三九〇メートルある。この辺りに墜落したと思われる商業機の搜索に飛んだアイダホ救難飛行隊のメンバーだった彼は、五〇〇〇ドルの



▲ケネス・アーノルド

報酬目当てに搜索にあたっていた。

結局、残骸は発見できなかったが、円盤型飛行物体の目撃により、彼は一躍世界的に有名になったのである。

「まるで水面上を飛び跳ねるソーサー（コーヒー台皿）のようであった」と記者団に語ったため、発明の才ある一記者が『Flying Saucer（空飛ぶコーヒー台皿）』という造語で発表したためにこの語が一般化した。これを日本のマスコミが『空飛ぶ円盤』という訳語で使った。「空飛ぶ円盤が出現した」という記事が終戦後、連日のように新聞に出たのを編者は記憶している。

その後、「空飛ぶ円盤」という語はUFOにとってかわった。目撃される不思議な物体は必ずしも円盤型とは限らないからだ。それで、より科学的な表現を求めて Unidentified Flying Object（未確認飛行物体）という語が昭和三〇年代頃から使用されるようになり、その頭文字をとってUFOと略称されている。これをユーフォーという人もあるが、正式にはユーエフオーという。編者が会った英米人達はユーエフオーと言っていた。しかしユ

ーフォーでも間違いいではない。どちらでもよいだろう。

だが、初期の頃からの日本人研究家は大体に「エンバン」と言う癖がある。編者もその一人で、「今日はエンバンが飛ぶかな」と言ったりする。球形や葉巻型物体でさえもエンバンで片付けることが多い。

過去世からのカルマ

さて、UFOだが、いまだに存在しないと思っている人が案外に多い。自分の目で見たことがなければ無理もないが、一度見たならば物凄いショックを受けて、たちまち絶対的な信者になるのが普通だ。「俺は見たのだから存在するのは間違いない！」と、かつての懐疑論者が否定論者に食ってかかる光景がよく展開する。見なくても信ずる者は幸いである」とイエスは言ったが、確かに全く見たことのないのに熱烈な関心を持つ人もいる。編者ももとはその一人だった。だから幸いな？人の部類に入ることになる。

同じような教育を受けながら、なぜある人はUFOを真つ向から否定し、

信ずる人を嘲笑する一方、ある人は未確認飛行物体に限りない憧れを抱くのか？

これは非常に複雑な問題で一言では言えない。クラシック音楽に関心のある人と全く無関心な人との差が生じる原因が不明であるのと同様だ。音楽の場合はある程度遺伝の問題が考えられるけれども、UFOに関しては遺伝を超えた別な要素があるようにも思われる。それは過去世からのカルマという問題なのだが、ここで詳述する余裕はない。解説しても理解できる人は少ないだろうというが如き不遜な考えは毛頭ないが、非常に誤解を招きやすい問題なので、軽々しくは述べられない。

アダムスキーの主張は正しい

それはさておき、アダムスキーの主張するところは、われわれの太陽系には実際には一二個の惑星があり、そのいずれにも人間が居住し、しかもどの惑星にも高度な文明が栄えているという。そして、いわゆるUFOなるものは、それらの惑星から地球へ探査や救援に來る超高度に発達した宇宙船だと





▲1974年にフランスの上空に出現したUFO。詳細は不明。

いうのである。地球は相つぐ戦禍と環境破壊により住みにくい場所になりつつある。これを良き方向へ向かわせるために彼らスペースビープルがひそかに救援活動をつづけている。

別な惑星の人間も地球人と全く体型は変わらない。違うのは科学と精神の分野でわれわれの想像を絶するほど進歩している。たとえば彼らはテレパシの能力が発達し、仲間同士では音声を発しないでテレパシーによる会話を行なう、等々。一般人には夢想もできないような説をとなえている。

詳細は新アダムスキー全集（中央アト出版社刊）をお読みになれば分かるが、とにかく従来のあるゆる学説を根底から覆すような内容を詳細に述べている。

一体、彼の言っていることは真実なのか？ これは多年論争的になってきた。そして惑星探査機の調査結果により地球以外の惑星に人間のような知的生命体が存在する可能性はないという結論に達した、かの感がある。

だが、編者がうるさいほど強調してきたのは、米ソとも別な惑星、特に金星に高度な文明が存在することを突きとめている、という事実である。しかし、これ以上は言えない。編者は根拠のないことを主張しているのではなく、正当な理由があるのだ。この世界では国家が行なう科学研究の裏に政治が介入することを忘れてはならない。

人工重力場をもつUFO

だからUFOが地球へ飛来するのだ。

この未確認飛行物体は科学的に超高度に発達した金属製の宇宙船であって、その内部には人工的に重力場を発生させる装置を有している。したがって推定時速二七〇〇キロであったとアーノルドが言うような物凄い速度で進行しているながら突然Uターンしても、中にいる人間は全然衝撃を感じない。これはUFO船体の人工重力場が内部の人間の細胞すべてを船体中心部へ引っ張っているからだ。ちょうど地球が凄いスピードで公転と自転をしながらも人間が何も感じないのと同様の原理に基づいて作られているのである。

現在の地球の航空機はこのような重力場がないために、急旋回すると人間はひどいGフォースを受けて壁に押しつけられる、急降下すると中の人間は一緒に落ちるために無重力状態となって機体内でフワフワと浮かぶ。だがUFOはそのようなことは一切なく、船体がどのような動きをしても内部は快適な居住空間になっているとアダムスキーは言っている。

これは事実であろう。なぜならこれまで編者が見たUFOの物凄い機動性と驚嘆すべき離れ業からみて、アダムスキーの科学的な説明が首肯できるからだ。

地球には沢山の異星人がいる

もう一つ見逃し得ないのは、前述の如くUFO人(別な惑星から来た人々)は素晴らしいテレパシーの能力を持つ上に、船体に装備された各種の装置により、地球上のあらゆる現象はおろか人間の性質までの確に見抜くことが可能であるという点である。したがって、地球人で特にテレパシー能力を持つ人には注目したがるという傾向がある。

地球には別な惑星から来た人がかなり住んでいるらしい。その人達は自分の正体を絶対に明かすことなしに、地球人の中に混ざって仕事や研究に従事している。そして一種のネットワークを持つており、地球人の特定の人達とひそかに接触しながら異星人達の活動に協力させている。こうした地球人をコンタクトマンまたはコンタクティーという。コンタクティー達は大体にテレパシーまたは遠隔透視あるいはオーラ透視等の能力を持つ超能力者である。これは他の地球人に知られずにひそかに接触する場合、異星人は接触場所を手紙や電話でなくテレパシクな方法で伝えるのでそれを感知する能力と、相手を異星人だと見抜く能力が要求されるからだ。

またコンタクティーとして選ばれる人は過去世からの特殊なカルマを持つ人であるらしいが、これも深遠な問題

なので、簡単に解説するわけにはゆかない。

しかし地球人コンタクティー達の仕事はかなりハードであつて、なかには耐え切れなくなつて辞退する人もあるようだ。だから異星人とのコンタクトを幻想的なロマンティックなものと思像している人は考えを改める必要がある。まず超能力を開発すること、夜間かなり遠方まで出向いて、朝方帰宅してから、何食わぬ顔で出勤できるほどの体力のあること、特に夜間のコンタクトで帰宅が朝になつても家人と衝突を起こさないこと、絶対に秘密を漏らさないこと等を考えると、ごく一部の人間だけに限られることが分かる。

それでも国内だけで相当数のコンタクティーがいて、ひそかに異星人と接触していると聞いている。若い人が多く、皆ながししかの超能力者である。しかし、いわゆる超能力者を持たない人でも空中を飛びUFOを目撃することとはできる。これはテレパシーで呼びかけるとよい。

テレパシーには二種類ある。想念波の送信と受信能力である。このうち受信が難しい。これは原理をよく理解して毎日丹念に練習をつづけると次第に能力が出てくるようになる。

一方、送信は比較的容易に行なうことができる。心の中で言葉をとなえて送信する先に発射するのだが、その場合は受信者のイメージを心中に描くと

よい。テレパシーの理論と練習法は新アダムスキー全集第二巻「超能力開発法」(中央アート出版社刊)に詳述してある。

テレパシーによる観測法

このテレパシー送信によるUFO呼び出しは編者が昔から行なっていた事で、過去多数のテレパシーコール観測を行なつて多大の成果をあげている。合計で延べ数百機のUFOを目撃したといつても信じない人が多いだろうがこれはけつして誇張ではない。この世の物とも思ふような凄まじいUFO現象を目撃したことも何度かある。そこでその方法を編者なりに述べることにしよう。

観測は昼でも夜でもよいが、夜間ならUFOはオレンジ色その他の色光を帯びて発見しやすいので、どちらかというと夜間がよい。場所はなるべく人気がないところを選ぶ。編者は大体に都外の山中へ入りこんで行なっている(東京には山がない)。もちろん冬は寒気がきびしいから冬山用の防寒服一式を抱えて行く。夏でも夜間は冷えるので防寒服は必要だ。下着のシャツには使い捨てカイロを腹と背中に各二個ずつ入れるポケットが付けてあり、モモヒキにも両膝の部分にカイロを各一個ずつ入れるポケットが付けてある。

その他、双眼鏡、カメラ、磁石、高

度計、特殊な時計その他の七つ道具を携行する。しかし最高の道具はテレパシクな直感力である。どこへ行けばよいか、何時頃からUFOが出てくるかをまず直感する必要があるからだ。

大体の見当がついたら、その場所へ行つて支度をし、テレパシーコールを行なう。「UFOよ出てこい」というような横柄な態度ではダメ。相手はわれわれよりもはるかに進歩した異星人であるから、極力謙虚な態度で呼びかける。編者が多年行なっている呼びかけの言葉は大体に次のとおりである。

「偉大な惑星からいらつしやいました宇宙の兄弟の皆様方。×××がお迎えに参りました。なにとぞ出現されまして、応答して下さい」

この他にも言葉を変えることはあるが、大体にこれが基本となつてゐる。

以上の呼びかけの言葉は声に出してもよく、心中でとなえてもよい。周囲に人がいない場合、つまり単独の観測の場合はかなり大きな声を出すことが多い。いづれにしてもこの呼びかけの言葉はテレパシクな想念波として上空のUFOに確実に届くのである。

ただし、その声に応じてかならずUFOが出現するとは限らない。一晩中呼びかけても全く出現しないこともあるし、観測を開始してまもなくオレンジ色の光体が飛ぶのを見て歓声をあげることもある。UFOの出現いかんはスペースビープル側の何らかの理由に

よるものらしい。

雨にたたられた テレバシーコールUFO観測会

そこで今年度から日本GAPは団体によるテレバシーコールUFO観測会を実施することにした。そして前号で予告したように去る六月九日夜、第一回の観測会を行なったのである。

当初は富士山二合目を予定しており、参加者はせいぜい四〇五〇名と予測していたところ、フタをあけてみると正規申込者はなんと二六〇名に達し、車も九〇台近くになるので、大いに驚くとともにGAP会員諸氏の熱意と信頼の深さに感銘を深めたが、こんなに大勢で押しかければ富士山二合目は危険であると判断して、急遽、場所を朝霧高原に変更し、この件は参加申込者全員に案内書を発送して通知した。

ところが前日まで好天だったのに九日から関東地方は入梅となり、午後六時に東京月例会終了後、ただちに出発

してまもなく雨が降りだして、現地に到着した頃は土砂降りとなった。

一時半頃にやっと雨がやんだので全員集合して観測を開始したが、空は依然として晴れず、暗雲低く垂れ込めて広大な草原は霧に包まれた状態で、観測には最悪の条件となった。

全員が手をつないで三重の輪になり、遠藤昭則、斎藤庄一両講師の指導のもとに一齐に上空に向かって呼びかけたけれども、UFOの目撃は実現せず、途中数度休憩して翌日三時まで観測を続行したが、結局、途中チラリと覗いた星空を数度見た程度で、さほどの成果があがらず、三時半に解散したのである。

これは呼びかけが不備だったのではなく、UFOというのは大体に昼なら青空、夜は星空の如く澄んだ天空でなければ見られないという編者の体験を裏付けたことになる。UFOは通常かなりの高空を飛ぶのであって、雲から下へ降下しないのが普通なのだ。



▲テレバシーコール観測会。
撮影/久保田八郎



◀久保田会長の挨拶と全員記念撮影。

撮影/松村芳之



こんな悪天候の日に限って観測会を実施したのが運のつきだったが、気象の変化ばかりはどうしようもない。次回は梅雨の前後を避けて、夏の王者・太平洋高気圧がどっかりとあぐらをかいた頃を狙いたい。それには八月上旬が最適だろう。また朝霧高原は事情あってUFO観測には不向きなので、今後は別な場所を検討したい。

何度でも観測をつづけることである。そうすればいつかは報われるだろう。個人で行なってもよく、少人数のグループでもよい。グループの場合は手をつないで輪を作りながら行なうと、放射波動が強化されることになる。

今回の観測会で多数の遠来の参加者が全くグチをこぼさず、むしろ良いレッスンになったと言って明るい表情で別れて行ったことは特筆にたいする。その高貴な精神を讃えたい。

My successful Encounters with UFOs and Space People
by Sadao Fujimoto

UFO・異星人との遭遇体験記

●藤本定雄

少年時代にUFOを目撃して以来、空中を飛ぶ不可思議な物体に熱烈な憧れを抱くようになり、大空にテレパシーで呼びつづけた筆者が語るUFO目撃体験と異星人との遭遇事件。この事実を少しでも多くの人に知ってもらいたいという筆者の真摯な談話をここに収録。本誌95号から連載した『私は別な惑星へ行ってきた』の主人公・春川正一氏の有力な証人でもある。

静岡市に住む藤本氏（仮名）は東京の私大を出た三七歳の会社員。冷静に淡々と語る氏に耳を傾けるのは編者とGAP本部の一役員。時は本年五月上旬のある夜。場所は静岡市内のある寿司屋。

最初のUFO目撃

私が最初にUFOを目撃したのは中学三年のときだったと思います。静岡市内の自宅の近くでした。親戚の子供とお菓子を買いに行つて、そのあと親戚の家に帰る途中、突然UFOを目撃

しました。その形はヒトデ型でした。なんとなく空を見ると浮いていたのです。民家の屋根の上でしたが、かなり低い位置でした。

それは一戸建ての家の屋根の上から三〇センチぐらいの所に浮いていて、私から物体までの距離は三メートルぐらいでした。大きさは五〇センチぐらいで、乳白色をしており、屋根の上の空間を左右にジグザグに飛んでいるのです。

そのときはそれが空飛ぶ円盤とは思いませんでした。親戚の子が「円盤じゃないかなあ」と叫んでいたのを覚えています。それを見たときは恐怖心はありませんでした。

それから約一年後に、やはり自宅の近くで貝の形をしたUFOが頭上一五〜一六メートル上空をフラフラしたような状態で動いていたのです。それを見たときは自分の目を疑いました。

集団でUFO観測を行なう

一九七五年の一二月二三日のことで

す。私はまだ大学へ行っていて、東京の飯田橋で牛乳配達をアルバイトでやっていた頃、そのあたりに下宿していたのです。

昼間でしたが下宿で『少年マガジン』という雑誌を見ていたら、最後のあたりの頁に円盤の記事が載っていました。急に興味がわいてきたんです。その最後の欄にミニコミ欄がありまして、UFOと宇宙考古学研究家のK氏の講演がN大理学部講堂であるという記事が目にとまって、友達と二人でそこへ行きました。

講演が終わったあと、運動場の近くに大きな池があったものですから、その池のまわりで五〇人ぐらいの人で手をつなぎながら輪を作つて、空を見ながら各自で念じました。

七時頃から始めて一時間たつても全くUFOが出ないものですから、約半数の人が講堂に入りました。一二月なのでかなり寒い日でした。残りの人達で観測をつづけていましたら、八時ちようどぐらゐのときに、まず五〜六人の人が銀色に光る流星型の円盤を見た

のです。

私は八時一五分にやはり流星型の円盤を見ました。そしてK氏にそのとき観測方法を教わりました。「UFOを見たいと思えば毎日時間をきめて観測しなさい。とにかく『見たい』という強い気持ちを起こすことが大切です」というパンフレットをもらったのです。

毎日観測をつづける

そこで私は翌日から夜の一〇時半というときにきめて観測を始めたのです。これは下宿でやりました。下宿の屋根の上に登つてやったのですが、最初の夜の一二月二四日は目撃できませんでした。

次の日の二五日には流星型の銀色に光るUFOが私のすぐ真上を飛びました。

そのときはどういう観測の仕方だったかといいますが、「飛んで来て下さい」という言葉を口に出さないで心の中で何回も繰り返しながら、ある星を見つめて思念をしつづけました。精神を集中して思念をつづけましたので非常に疲れましたけれども、苦痛は感じませんでした。

しかし「今日は見えないかなあ」と思つて、ふと横を見ましたら、私から二〜三メートル横を白銀色のUFOが飛んだのです。大きさは一メートル弱だったと思います。

つづいて二六日と二七日にも下宿の屋根に登って観測をつづけたのですがダメでした。

△藤本氏は古い日誌の記録を沢山持参してそれを参照しながら語る。発音明瞭にして言葉の乱れがほとんどない。頭の中で文章を作りながら話すのではなく、ごく自然に語っているようだ。

巨大なUFOが出現

二八日には観測を始めて三〇分ぐらいたったとき、今度は東の空からUFOが出現しました。二五日に目撃した円盤と同じぐらいだったと思います。

それからバンバンUFOを見るようになったんです。この頃になるとだんだんと想念の送り方のタイミングがつかめるようになります。UFOがやって来るときは「やって来るな」という予感がするようになります。でも目撃できないときは、今日は見れなくても明日は必ず見られるという自信がありました。

三〇日に静岡の自宅へ帰りまして、その夜もやはり観測を行ないました。この夜は妹と一緒に自宅の庭に出て空を見上げながら観測をしました。

そのとき出現したのは銀白色の物体でした。

この頃になると「見える」と思うようになってきたんです。

そして三一日の日ですが、この日は

だいたい色に光った長方形の物体が、これが大体五〇メートルぐらいの大きさだったんですが、突然空間に現れたんです。私から一五〇六メートルぐらいい上空ですが、すごく大きな物体でした。これは素晴らしい光景でした。

この物体は空中に停止したまま右端からゆっくりと消えてゆきました。その日は流星型のUFOを二回ほど見ました。そしてそのあとは毎日UFOを目撃していったのです。

楕円型のスカウトシップ?

今度は一九七四年の一月七日の日です。私の家に友人が来まして夜一〇時頃まで雑談していました。その友人は大田(仮名)という人で、ユーフォロジの活動家でした。

七時頃から二人で空に向かって観測していたところ、何も出現しなかった。で、部屋の中へ入ってふたたび雑談をつづけていました。

ちょうど一〇時頃、非常に外のことが気になったので、急いで外へ出ましたところ、ペランダから目撃したんですが、西の方角から楕円型のUFOが飛んで来たんです。

私から大体三〇メートルの位置にあり、そのUFOの大きさは五メートルぐらいいでした。それは木の陰にかくれて見えなくなりましたが、人が乗れるぐらいの大きさでした。これはカメ

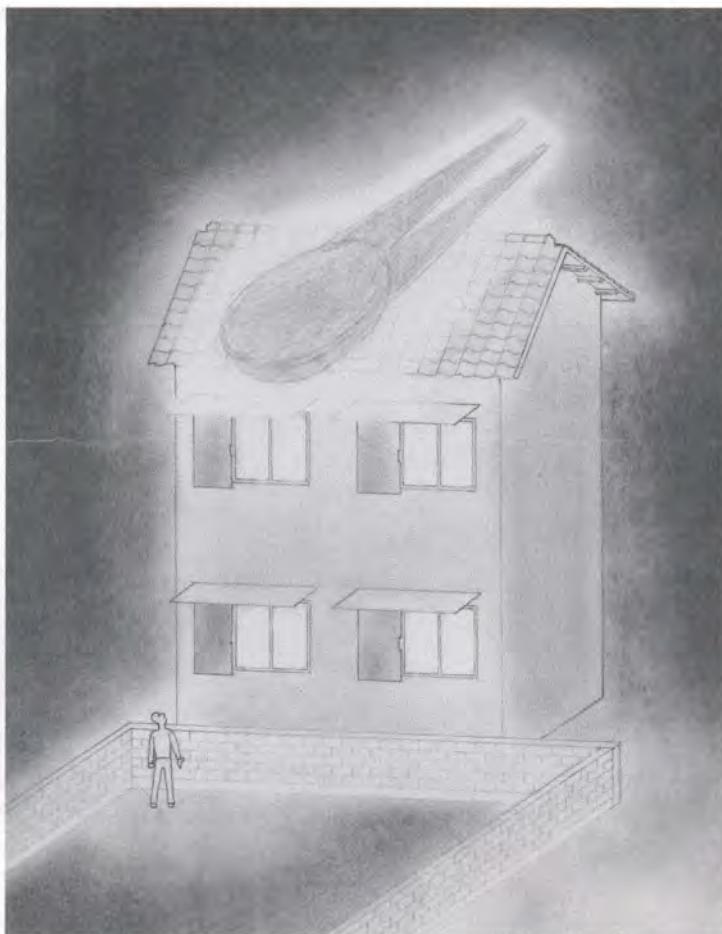
ラで写真に撮ったんですが、うまく写っていませんでした。

隣家の屋根からUFOが

その次の日は自宅でテレビを見ていましたが、どうもイライラして落ち着かなくなつて外へ出たんです。

裏庭へ出たところ大きなUFOが隣家の屋根から現れたんです。

▶右のイラストは74年1月8日の物体出現時を描いたもの(青木氏画)。下はそのアパートの写真。現在は建てかわっている。



その家は二階建てのアパートで、二階の屋根からUFOがスーッと顔を出した感じでした。大きさは五、六メートルぐらいで、かなり大きな物体でした。これは一月八日夜の九時半頃です。連夜のようにUFOが出現するものから感激して涙が出ました。物体の後方に出ているのは光ではなくて尾です。

これは本当にゆっくり私の頭上を通り過ぎて、むこうの山の方へ飛んで行きました。ほかの人も目撃したのではないかなあと思ったのですが、どういふわけか目撃者がいないんです。

初めてUFOの写真を撮る

今度は一月一〇日のことです。大学にいた頃、先輩が世田谷区の西太子堂という駅の近くに住んでいたものから遊びに行つたんです。その日、そのアパートから目撃したのが円型でした、大きさは一メートルぐらいで、かなりの至近距離をゆっくり発光しながらテレポートして行くのです。

それから一月二十八日まで毎日UFOを見ていました。その間のことは日誌に記録していませんでしたので省略しますが、二八日に素晴らしい光景を写真に撮りました。

西太子堂で八時半頃から急に気分が落ち着かなくなつて、ソワソワし始めたんです。大体私はカメラでUFO

の写真を撮りたいと思って、撮らせて下さいと空中に想念を送っていました。

それでその夜もUFOが出たものから写真を撮りました。一〇〇メートルぐらい向こうの西の方角から小さな丸い光点がテレポートしながら私の方へ向かって来るんです。

カメラは用意してあつて、トライエックスのフィルムを入れておいたんですが、「撮らせてもらえろという」直感があつたものだから、前日から準備していたわけです。

九時頃、窓をあけて見ましたら一〇〇メートルぐらい向こうからテレポートしながら飛んで来る物体があつたんです。そして私から四メートルぐらいの所に楕円型の、大きさ三メートルぐらいの物体が滞空しているんです。色は乳白色でした。空中に停止しているものですからすぐに写真を撮りました。その写真を撮つたあと、物体はまたも黒板に描かれたチョークの図を黒板ふきで消すかのように右端からサーツと消えてゆきました。

私がUFOを目撃するのは夜間だけで、昼間に見たことはほとんどありません。昼間に見られれば素晴らしいだろうと思うのですが、どういうわけか見ることが出来ないんです。これにも何かの理由があるのだらうと思います。が、私には分かりません。

次に二月中旬になるんですが、小判型のUFOで直型三メートルぐらいの

▼74年1月28日夜9時頃、筆者が撮影したUFO。左右下方に家の窓の明かりが見える。



物を至近距離で目撃させて頂きました。これはブロンプオンという音を出しており、昔の黄色いハダカ電球のような感じでした。

三月に入ると毎日UFOを目撃しましたが日誌には書いていません。

三月八日に私は三〇センチぐらいの球型の物体が二個で同時に同じ動きをするのを見ました。

テレパシー能力が身につく

三月一四日に先にお話ししましたK氏の自宅へ行ったこととです。突然、私の左の耳から右の耳へヒューツと何かが通り抜けたんです。頭の中を何かが通過するのを感じたんです。

それ以来、頭にテレパシーが入って来るようになりました。そして頭がだんだん重たくなるんです。

それで四月二九日にとぶんですが、この日は葉巻型のUFOを初めて都内で昼間に目撃しました。まっ黒な物体で、それが突然現れてきたんですが、それは五時二〇分頃のことと、まだそんなに暗くはなくて、友人と二人で目撃しました。

身体検査はされたくない

五月一八日には夜九時頃から観測を開始しましたが、このときは北海道の

某氏のように円盤に乗せられて、身体検査をされて記憶を消されたというような体験はしたくないので、そんなことはしたくありませんと上空に呼びかけました。私に対しては目撃とテレパシー通信だけにして下さい」とお願いしたんです。

そうしたら地上から一五〇メートル上空の所に、大きさが一〇円玉ぐらいの物体がフラフラ動いているんです。本当に、私を見つめているという感じがです。このときにはかなり沢山のUFOが飛びました。

五月一九日には私の頭上を貝型と私と呼んでいる物体が飛びました。これは八〇センチぐらいの大きさで、赤いランプと緑色のランプをつけた物体でしたが、無音のまま飛んで来たんです。突然出たものですから「そんなに突然出現して驚かせるようなことはやめて下さい」と呼びかけましたら、またUFOが沢山飛ぶものですから、分かってくれたんだなと思いました。

ですからUFOの目撃は毎日つづくんです。十数年毎日のように目撃するものですから、これを全部お話しすると三時間や四時間では到底話しきれません。ここでは主要な体験だけにしますのをご了承下さい。

私がいかに毎日のようにUFOを見るというのは、他の人とは違う人生を経験するような気がするんです。何か私が特殊な使命を帯びていて、彼ら

(異星人)とともに活動し、宇宙や地球の真実を多くの人に伝える使命があるような気がします。

万物には生命がある

その年の六月の中旬のある日です。私は夜寝ていて、夢なのか遠隔透視なのかよく分かりませんが、とにかく普通の夢ではなかったと思います。

土星型UFOが空中から降りてくるんです。着陸してから一人の男の人が出てきて、背広ネクタイ姿できちんとした格好で、髪を七三に分けています。その人が私に向かって「今からUFOに乗せてあげるから、そこにある物体に乗りなさい」と言うわけです。

それは一人乗りのUFOで、ハンドルもなく、七色の光が円形をなして回っています。すると男の人が「精神統一をしてその七色の光の回転を止めなさい。もししなければその物体は上がりません」と言います。

私は何回も練習したのですが、光が止まらないで回ってしまうんです。

何回か試しているうちに、うまくいって、船体がグッと浮かび上がりました。すると学生が自転車に乗って通学する光景を私が上空から見えています。

そこで異星人が「よく出来ました」と言って次のように語りました。「何でもそうですが、お皿やコップにさえも生命があります。ですから何でも大切に

にしないさい。使って捨ててはいけません」

以上のようなメッセージをもらいました。これは異星人の声が頭の中に響いてくるんです。夢の中で教えられたことではありません。コップでも割れた瞬間にコップ自体の生命がなくなりまうから、こわさないように大切にしないさいと言っていました。

平和祈念に込めてUFO出現

〈藤本氏の長い話は、紙面の都合により全部は掲載しきれない〉

一九七四年一〇月八日のことです。この日は世界中が平和になるようにという祈りの想を送っていました。そして私の多くの友を助けてあげて下さいという思念をしていたのです。

すると突然、五〇センチぐらいのUFOが現れて私の所から四メートルぐらいの空間に浮かびました。白銀色の物体です。片方の端に突起物のようなものがありました。世界が平和になるようにとの言葉をスローガンにしている宗教団体がありますが、それとは何の関係もありません。

初めて異星人に会う

私が初めて異星人に会ったときのことをお話ししましょう。ある日新静岡バスセンターという所で、仕事から帰

る途中七時四〇分頃にバスを待っていたんです。

そうしたら、そこに一人の男の人がいました。身長は一八〇センチぐらいで肩幅の広い男性の方です。眼鏡をかけて頭髮はちぎ毛でした。パーマをかけていたような感じでした。ネクタイは赤系統です。

それは春川正一氏が会ったのと同じ人なのです。名前はレミンダーというのです。

同じバスに乗ってきたんですが、その人は後部座席に座っていたものからです。私はテレパシーで呼びかけたんです。「あなたが上の（宇宙の）人なら、私が指定するバス停で降りて下さい」

ところが、私の思念が通じているのかどうか全然分らず、そのうち私の家の前にバス停があるものだから、そこで私は降りたんですが、降る前に後部座席のその人の方を見ましたところ、その人がニッコリ笑ったものですから、その夜は眠れなかったんです。あとで春川氏にこの件を話したら、結局、氏が合っていたレミンダーという異星人と同じ人であることが分かりました。この方はホーム惑星で学校の先生をしていたということです。見たところ三三〇四歳ぐらいでした。どこの惑星から来た人かは知りませんが、この人に会う前に緑色のUFOを目撃したんですが、これを目撃した翌

日は必ずスペーススปีブル（異星人）に会えるんです。このUFOは見かけ上三〇センチぐらいですが、春川氏に聞いたところ、これは水星のUFOだということでした。これを目撃した翌日は必ず彼らがやって来るんだと言っていました。たしかに緑色のUFOを見た翌日は彼らと接触できたんです。それから私は彼らに会うことになりました。

テレパシーで来る連絡

右に述べた人を最初に見かけたのは一九七六年の六月二八日のことです。場所は静岡市内です。しかし話をしませんでした。以後何度も会うわけですが、直接に話し会うのではなくて、彼らからのテレパシーが入ってくるんです。こちらから質問しても解答してくれません。一方的に彼らからテレパシーで話しかけてくるだけです。私の頭の中で彼らの声が響いてくるんです。まず私の体の中にエネルギーみたいなものが入ってきます。すると体がしびれてきます。そうするとテレパシーによる声がスッと入ってくるんです。当時東京にNという女性がいました。この方もコンタクテイで、異星人に会っています。このことは春川氏から紹介されて知りました。春川氏を多年助けたX君もこのことを知っています。X君もコンタクテイです。

へつづいて藤本氏は黒づくめの服装をした若い異星人としばしば出会った経緯を詳細に語る

不思議な女性の出現

その黒づくめの婦人と会わなくなつてから今度は別な婦人と出会うようになったのですが、これも春川氏に聞きました。やはり異星人だと教えてくれました。その間には何回かのコンタクトがあるんですが、到底全部は話されません。

五月の四日にその女性からテレパシーが入りまして「あなたは合格しました。私達の指示を待ちなさい」というメッセージが来たんです。それは私が寝ているときですが、突然また体にエネルギーみたいなものが入ってきて体がしびれてから、その声が聞こえました。声は後頭部から響いてきます。

今まで私が出会ったいろいろなスペーススปีブルの中には何人かの女性がいましが、一人、やはり全身黒づくめで身長一メートル八〇センチぐらいの大柄な女性がいましが。最初に出会ったレミンダー氏と同じようにがっちりとした体格で、顔は日本人とは違う東洋人のような顔でした。

その人は私が行く所へ必ず先に出現して待って受けているんです。私が急に方向を変えて別な場所へ行くと、もうすでにその女性がそこへ行って立っている、という調子です。

あるとき静岡市内の谷島屋書店の入口の所にその女性が会社員が持つような大きな茶封筒を持って立っていたんです。そこで私がテレパシーで呼びかけました。

「あなたが宇宙人であることは分かっています。私の意志がもし通じましたら、私の横に来て、ここにある本を右手で取って下さい。そうすれば私はあなたが異星人であることを心底から確信します」と言つて私は本の書名を指定しました。

そう思った瞬間、その人は入口から消えていて、アツと思う間もなく私の横に立っているんです。そのときはゾツとして冷汗が出ました。そしてその女性は私が指名した本を右手で取り上げたんです。もう全身がカツとなつて、とても話しかけられるような状態ではありませんでした。その女性が私の横を通った形跡は絶対にはないのでから

帽子までまっ黒で、全身黒づくめのスタイルですが、これはいわゆるブラックメンといわれる人達とは違っています。非常に高貴な雰囲気を持つ女性でした。

公園と書店での出会い

私のコンタクトの体験はまだ沢山ありますが、この時間内にはとても語りきれませんので、かなりとばして話します。

あるとき静岡市内の公園で彼ら（異



▲筆者が76年6月28日に会った異星人のレミンダー氏。イラストは筆者による。

星人)に会ったことがあります。駿府公園という徳川家康の銅像がある所です。ここで出会ったのですが、その日時についてはあらかじめ東京のコンタクトのNさんという先にお話した女性からの電話で知らされました。「指定の時刻にその場所へ行きなさい。ただし彼らに会っても話しかけてはいけません。これはあなたをテストするためです」というメッセージです。それでそこへ行きましたら確かに二人ほど来ていました。両方とも男性です。年齢は見たところ三五歳から四〇歳ぐらいです。でも私は話しかけませんでした。

中へ入って見ますと確かにいました。その人はやはり紙袋を持っていました。そして本を読んでいるんです。普通なら本の頁をめくりますが、その人はめくらないで、しかもまばたきせずにジッと本を見えています。私はそばへ寄って相手の顔をよく見ましたが、相手は私の方を絶対に見ようとはしません。だから私は相手の顔をのぞき込めるわけです。その人の両耳はとんがっていて、頭髮は七三に分けてネクタイをきちんとしめていました。三つぞろいの服を着ており、背はさほど高くありません。目はつり上がっていました。額の広い人です。その人の名前はベクターというのですが、これはあとで春川氏から聞いたことです。何の本を読んでいるのかなと思つてのぞき込んでみたら、あるUFOの本

でした。

レミンダーとかベクターというのは地球でのコードネームで、本名ではないようです。顔は日本人タイプではなくて、本当に宇宙から来た人という感じでした。ただしこの惑星から来たかは分かりません。

テレパシーで語り会う異星人

静岡県内に梅ヶ島という温泉があるんです。山の方にあるんですが、ある夜寝ようかなと思つたときにエネルギーが体に入つてテレパシーで男の声が響いてきました。「われわれはいま梅ヶ島の上空にいます。われわれが常に同志とともに語り会う場所は指示されています」というのですが、その場所は静岡駅の近くなのです。Nホテルのロビーだと言っていました。そのロビーでわれわれはいつも会うのだということでした。

翌日そこへ行ってみました。彼らはいませんでした。今はもう彼らの落ち合う場所が変わつていと思います。彼らが二三人で話し合うときには言葉を口に出して話すのではなく、テレパシーで語り合うということです。とにかく彼らの女性の声や男性の声がよくテレパシーで頭に入つて、いろいろ教えてくれるんですが、翌朝起きても全部を思い出せなくて、十分に日誌に書けないんです。

見守ってくれるUFO

去年(八九年)は毎日のようにUFOを目撃しましたが、すこかったのは一昨年の二月三日から一月一日にかけてのことです。星が動いてフラフラしながら飛んで来るわけです。私が声をかけて呼びかけたんです。早朝五時から六時頃にかけて光体が飛んで来ました。

そこで私は「あなた方は、上の方々ですか」と声をかけたら、その光体が停止して、ものすごく発光して輝いたんです。発光しながらまたゆつくりと飛ぶものですから、感動して涙が出ました。私のことを見守ってくれているのだなあと、「有難うございます」と何度もお礼を言いました。

その光体が弱まったときに、別な光体が出現して飛びました。かなりな遠方なのに私の意識が届くのかと思つてびっくりしました。

時が来るのを待ちなさい

ずっと以前のことで、宇宙の人はどこから来ているのか、なぜそうまで私にUFOを目撃させてくれるのか、春川氏に聞いてみたんです。すると春川氏は異星人からのメッセージを私に伝えてくれました。それは次のとおりです。

「私達はあなたを愛しています。しかし焦^{あせ}ってはいけません。時^{とき}を待って下さい。」

まず初めの心に（初心に）返って、もう一度自分に磨きをかけなさい。時が来れば私達の力なしで充分に活動ができます。手助けならいたしましょう。もう一度空を見上げて下さい。

私達に対する恐怖心は捨てて下さい。心の底から信じて下さい。あなたを待っているのです。」

以上の言葉を何度も読み返しましたが、いつ読んでも素晴らしいなあと感動します。

それで、右のメッセージに対してさらに私の方から質問し返しましたら、次のような回答がありました。

「**私自身のことについて** 自分を信じて物事を行なって下さい。誰もみな人間です。あなたも人間なのです。あなたは私達に見守られている人なのです。自分に信念があること、またその力を考えて下さい。」

「**時について** 待ちなさい。それしか言えないのです。」

コンタクトについて もうコンタクトはとくにプログラムされて行なわれています。安心して下さい。直接コンタクトについてですが、あなたが私達に会った後どうするかについて、こまかく考えて下さい。

個性と人格について 人にはそれぞれのパターンリティーがあります。教え

るということは、自分の考えの中に他人を入れてしまうのではなく、他人を見守ることです。」

大いなる光に包まれた地球を

以上の他にずいぶん多くの体験をしています。ここでは省略します。テレパシーも沢山受信しましたが、今世紀末に地球に大変動が発生するという人間に恐怖を与えるようなメッセージは全くありませんでした。すべてあなたに激励ばかりです。

私はこの十数年間毎日空を観測しています。毎夜一時間ぐらいずつですが、ほとんどUFOを目撃できます。ただし声を出して呼びかけますと近所の人に変に思いますから、なるべく声を出さないようにして思念で呼びかけますが、実際は声を出して呼びかけるほうが良いですね。

私の場合は毎日寝る前に空を観測しないと眠れないんです。雨の降るときはやりませんが、降らねば必ず家のベランダへ出ます。私が上空に向かって思念する言葉は次のとおりです。

「私は活動したいのです。この地球上が本当に平和になり、人種差別もなくなつて、大いなる光に包まれるような惑星になるためには、やはり自分自身がこの世に生まれてきた以上、あなた方とともに活動してゆきたいのです。あなた方に会って、あなた方から宇宙と地球の真実を教えて頂きたいのです。」

あなた方は私にとって師であり、父母でもあります。」

このように念じますと必ずUFOが出現します。この思念の言葉は十数年来毎日となえている言葉です。昨日もこのような言葉を念じて呼びかけましたらUFOが出現しました。もう涙が出てどうしようもありませんでした。至近距離で見たのですが、すごい光景でした。

私は頑張りたい

以上のような次第でして、去年はものすごく目撃しました。今年はどういうわけか四〇五回しか見ておりません。来たる六月九日の日本GAPによるテレパシーコールUFO観測会では必ず宇宙の人達が見守って下さって、多くの人達にUFOを目撃させてくれると思います。

再度繰り返ししますが、私がこの地球のために、宇宙のために、そして全人類のために何らかのお役に立てることを願うとともに、世界が平和になり、日本も平和になつて、人種差別もなく、争いもなく、殺人もなく、本当に誰もが自由平等に働ける世の中になるように、私は心から祈っています。

そして宇宙の人達とともに活動できる時が私自身にやってくるまで、私は絶えず右の事柄を祈りつづけます。

私が宇宙の人達に正式に会ったときには、この地球という惑星が本当に平

和を目指して宇宙に進出できるように、私は私なりに頑張つてゆきたいと思えます。

そして多くの人達に宇宙の愛がふりそそぐようになるまで私なりに努力するつもりです。

（藤本氏の話としては後日カセットテープ二本にあらためて詳細な体験が録音されて送られてきたが、右の記事は五月に静岡市内で直接聞いた談話を主体に編集したものである。）

春川正一氏の「私は別の惑星へ行ってきた！」は本誌95号より98号まで四回にわたつて連載したので、同氏の体験についてはすでに公開済である。

藤本氏の証言により、春川氏の体験が事実であつたことが判明するが、さらにX氏、女性のNさんら一連のグループが同一のスペースビープルとコンタクトしていた事実も浮き彫りにされることになる。

藤本氏の件についてはかなり以前から編者に若干の知識はあつたが、事情により容易に会えなかつた。しかし昨秋の日本GAP総会後、氏とひんぱんに文通するようになり、五月に会見が実現した。もっと早くこの記事を公開すれば、ああまで春川氏が否定論者の反感を買わなかつたろうと思うが、こうした問題にはとかく「時機と待機」がつきまとうので、時が来るまでは忍耐強く待たなければならぬ。編者。

UFO写真展盛況

●青森支部UFO写真展

去る四月一四、一五日の二日間におたつて青森市のサンロードで開催されたUFO写真展は予想外の大盛況を呈し、二日間ながら計一四五〇名の入場者があった。特に一五日は日曜日とあって、この日だけで一〇五〇名と圧倒的多数の参加者でにぎわった。アンケートによると、「この種の写真展をもっと多く開催してほしい」という声が多かったという。

このアンケート結果は興味深いので紹介すると次のとおり。

①UFOを信じますか (はい八五、いいえ三) ②UFOを見たことがありますか (はい二三、いいえ六二) ③宇宙人はいると思いますか (はい七九、いいえ二) ④宇宙人はどこから来ると思いますか (太陽系外二三、太陽系内一八、両方四一) ⑤宇宙人をどのようにイメージしていますか (小人型宇宙人三三、地球人型宇宙人二九、ロボット型宇宙人一〇、その他一四) ⑥宇宙人の飛来目的は何だと思えますか (地球観測五四、地球観光五、地球救済二〇、地球略奪一六) ⑦宇宙人はテレパシーで会話しているようですが、地球人もできると思えますか (はい六六、いいえ一九) 以上。

感想としては次のとおり。

「凄く楽しくそして分かり易く興味を引くものでした。大変有難うございました」「大変感動いたしました。どうも有難うございます」「アダムスキー型円盤は雑誌などでは見たことはありませんが写真に初めてなので良かった」「未知の世界に触れて感動」「信頼できる写真ばかりだと思ひ新鮮な感動を覚えます。未公開のものもあり、見て得をした感じです。有難うございます」「もつと沢山やってほしい」以上は一四日のアンケート結果で賛同派が圧倒的多数。一五日は次のとおり。

「最終日に間に合いましたが、展示などについて多くの人に見てもらおうようPRして欲しい。素晴らしいかった。」「金星人だと確信できるものがない」「貴重な資料を大変有難うございます」「勇気のいることです。よく催しました。これからもどんどんやって下さい」

以上の他に地球以外に生物はいないとか、ウソ臭いという否定的な感想も若干ある。しかしやはり賛同派が圧倒的に多いと青森支部代表・田村嘉彦氏が述べている。

●栃木支部UFO写真展

五月三、四、五日の三日間、宇都宮市の栃木会館の一階と二階のギャラリイで開催された。入場者は計一一四〇人あり、内容もアダムスキー関係の写真のほか、栃木支部所有のUFO写真パネル三十数点を加え、オリジナルUFOスライド上映コーナー、恒例のテ



▲写真タテ右側三点は青森、左側三点が栃木UFO写真展会場

レパシーコーナー、書籍コーナー等を設けて魅了した。

「これは完璧なUFO情報の提供とはいえないにしても、この写真展を見学し、テレパシーコーナーで体験した子供達が、将来宇宙的に開眼し、地球の未来を担うかもしれない。そうした可

能性を生み出すのが、こうしたUFO写真展であると思う。今後も外的に良き影響を与え得る方策を真剣に検討し、何らかの形でまたUFO写真展を開催したい」と栃木支部代表・渡辺克明氏は報告している。来たる八月には新潟支部がUFO写真展を開催する。

How To Produce Miracles through Practice of
G. Adamski's Cosmic Philosophy
by Hachiro Kubota

宇宙哲学で奇跡を起こして 安全に生きる方法

◀写真は南九州支部大会で講演中の筆者 撮影／鶴田寛明

久保田八郎 〈日本GAP会長〉

この記事は本年度南九州支部大会、仙台・山形合同支部大会、長野支部大会の各地支部大会で行なった講演をまとめたもの。大宇宙の万物を生かす中核は「宇宙の意識」であるというアダムスキーの宇宙哲学にもとづいて、万物と万人は「絶対善」なる存在であるという高次元な想念波動を放つことにより悪なるものを排除して奇跡を発生させる方法を具体的に解説した。単なる能力開発の段階にとどまらず、人間に宇宙的なフイーリングと視野を与える深遠な原理である。

不思議人生をすごす

ご承知のように私は多年ジョージ・アダムスキー問題を中心にいわゆるUFOと宇宙哲学の研究啓蒙活動をつづけてまいりました。最初にアダムスキーに手紙を出したのが昭和二十九年でしたから、以来三十六年になるわけです。

その後昭和三十六年にアダムスキーの要請によりまして、日本GAPなるものを設立しました。機関誌を「日本GAP ニュースレター」と題して創刊号を手書きのガリ版で手刷りで約二〇部印刷し、これを一五〜六人の方に無料で配布したのが最初です。

それ以来、今日まで約三〇年、ひたすらGAP活動をつづけてまいりましたが、その間、実にさまざまな事が身辺に発生しまして、人間の一代という

ものの複雑さを痛感している次第です。そして私自身にも不思議な事が沢山起こっています。大体に私は子供の頃から何かしら解決のつかない不思議な事や奇妙な事がいろいろとありました。といって心霊的な事ではないのです。現実の実際的な事柄です。

一例をあげますと、小学校の三年か四年頃だったと思います。ある夜、その頃住んでいた島根県の郷里の自宅裏庭に出て、東方約一キロの所にある高さ一〇〇メートルの住吉という山を見

ていました。すると、暗黒の山の中腹に突然、まん丸い大きな光がパッと照射されたのです。それは直径五〇メートルほどの巨大な光の円であって、そのために山腹が一瞬真昼のように明るく浮かび上がったのです。その光は一瞬照射されただけで、あとは元の暗黒に戻りました。

その後、この光の正体がどうしても理解できず、そのままになっていました。が、強烈な印象は今も残っています。どうやらこれは空中の円盤から照射されたサーチライトではないかという気がするのですが、物証がないために断言はできません。とにかく、これが私の身辺に発生してきた不思議な現象の始まりです。

不思議な現象というのはこればかりではありません。その後の人生を回想してみますと、私は危険な状態におち

いりそうになると、奇妙にそれをのがれるのです。そんなことが何度あったかしれません。「何物かに護られている！」というフイーリングが起こってきたのは、東京へ移住して、しばらくたってからのことです。

実例は多数ありますので、省略しますが、とにかく私の不思議人生はいまもなおつづいています。心霊的な人は守護霊がついているのだと言うかもしれませんが、私はそういうことは考えていません。もっと別な理由があると思うのですが、ここでは省略しましょう。

物凄いアダムスキー哲学

さて、本日のお話は宇宙哲学で奇跡を発生させる方法となっていますので、その線にそってお話ししましょう。

いわゆるアダムスキー哲学なるものは、彼の著書『宇宙哲学』『テレパシー開発法』『生命の科学』の三部作を総称したものです。これは従来、アダムスキー全集の中に加えられておりましたが、この四月より中央アースト出版社というところから新アダムスキー全集として改訂版が出版されています。

それで『テレパシー開発法』は題名を変えまして、今度は『超能力開発法』という題で全集の第二巻として五月中旬に出ていきます。そしてそのあとは『生命の科学』の改訂版が第三巻として六



月に出るのですが、そのために二月はあらためてこの二点の原書を読み直し、古い訳本の文章の改訂作業を行なったのです。

そのときに痛感しましたのは、こんな物凄い書物が世の中のどこにあるだろうかということでした。まさにこれらは天空の彼方から響いてくる神の声ともいべきもので、感動を通り越して茫然たる状態でした。昔、中江兆民はルソーの民約論を泣きながら読んだということですが、到底そんなどころではありません。

ということは、私は翻訳者として内容を熟知しているつもりでしたが、実際は私の魂でもって理解していなかったということになるのかもしれない。私があらためて気づいたのは、これらの書をととしてアダムスキーが力説している「人体を生かしている宇宙の意識なるものとマインド（心）との一体化」ということを、単なる観念論としてでなしに、できるだけシャープにとらえて、腹の底から実感しなければだめだということなのです。

これは外国語の勉強にもあてはまりません。英語の勉強をして語学力を身につけようとすれば、なんといつても、単語や例文を覚えること、つまり暗記することが先決です。特に英会話の習得になりますと、会話文をかたっぱしから暗記することが必要です。要するに外国語の習得というのは暗記以外の

何物でもないのです。

しかしウロ覚えではだめです。日本語同様に全身の六〇兆の細胞全部に英語の例文を染み込ませるほどに記憶するには、徹底的に反復して喋る練習をする必要があります。だから記憶という手順は重要なのです。英会話に限らず、学問の分野では何にせよ、記憶している人が勝つのです。

外国語は「習うより慣れることだ」とよく言われますが、慣れるという行為も要するに反復して自然に記憶しなければ痴呆症になるだけのことで、何も出来なくなってしまうのです。

そこで宇宙哲学に戻りますと、アダムスキーの書物をただ一度や二度読んで理解したというだけでは到底ものになりません。何十べんも読んで読んでも読みまくり、文章をほとんど記憶するほどの状態になることが第一です。

次に万物一体感が腹の底からわきおこるまでジツと黙想し、感覚をシャープに研ぎ澄まして、自分が万物か万物が自分か、という心境になるまで、フリーリングを限りなく高めていきます。このことを真剣になつて行なう必要があるのです。

テレパシーの呼びかけで花が
応答する

以上のことを自律訓練として真剣に行ないますと、自分自身に驚くべき変

化が生じてきます。それは、いわゆる知能を用いる推理力を超えた「何か」の作用なのであって、アダムスキーの言う外界からの印象または波動を受信するような次元の「何か」です。

そうなると本人はテレパシックスになったと言えるでしょう。つまりテレパシー能力が発現してきたわけです。これは必ずそうなるのです。

ですから基本段階として、まず何と言つても「万物一体感」を徹底的に起こすように開発訓練を行なう必要があります。どうもこの「万物一体感」なるものが凄く重要なことらしく、このフリーリングを起こすことがテレパシーその他の宇宙的能力開発の根本的な段階であるようです。

それはそうです。アダムスキーによれば、人体のみならず、生物、無生物のいかにかわからず、万物は宇宙の英知である共通の「宇宙の意識」によつて創造されているということですから、結局、万物は共通の基盤である「創造英知」によつて生かされていると言えます。

『生命の科学』には、人間がこのような一体感をもつて花に呼びかければ、花も応答すると説いています。こんなことはラルフ・エマーソン流の詩的な幻想だと思う人が多いかもしれませんが、実際にアダムスキーは存命中、カリフォルニア州ビスタの自宅裏の庭園で、コスモスの花群に呼びかけたら、

花達がいつせいにアダムスキーの方へ傾いて挨拶をし返したのを、高弟であったアリス・ポマロイ女史が数度目撃したと、数年前にアメリカで私に話してくれたことがあります。

ですから『生命の科学』はアダムスキーが自分の体験をもとにして書いたものであることが分かります。単なる観念論ではないわけです。

日本GAP東京本部役員の遠藤昭則君もこれに似たような体験、つまり花が応答するのを見たことがあると言っていました。

ところが私にもそのような体験が発生したのです。それは去る三月二〇日、都内新宿の秋山眞人氏の事務所を訪れて約四〇分間話したあと、徒歩で新宿駅まで出て、東口構内のアルプス広場へ入りました。非常に気分が高揚していましたので、何を見ても楽しくてしようなない心的状態でした。

広場を横切っているうちに、花屋さんがいるのが目につきました。そばへ寄つてみますと、大きな台の上に五つの鉢が置いてあり、そのどれも色とりどりの見事な薔薇の花が植えてあります。ほう、美しいなあ、と見とれてるうちに、ちよつと薔薇の花々に挨拶してみようと思つて、「やあ、薔薇の花さんたち、こんにちわ」と、声を出さずに心中でテレパシーでもつて呼びかけたのです。

とたんに、五つの鉢の薔薇全部がガ

サガサツと揺れるではありませんか。アレツと思ひ、これは電車が通過するときの地響きではないかと思つたのですが、その場所は電車の通る場所からかなり離れた所です。人が歩く足の響きでもありません。床には固い石の板ががちりと敷いてありますから、人間の歩行などにはビクともしないところです。風が吹くような場所でもありません。

そうすると、やはり私のテレパシーに薔薇の花が応答してくれたのでしうか。この因果関係を物理的に証明することが出来ないために、断言は出来ませんが、私としてはテレパシーによる花の応答であつたと思ひたいところです。

机上の空論ではダメ

アダムスキーの哲学書が単なる観念論や空論でないことは、この他の各種の実例でも分かるのですが、とにかく人間と万物との不可分の関係と、超能力的な分野に至る「宇宙的」とも言える理論を述べています。

そこで、この哲学を応用して奇跡的な現象を発生させる方法をこれからお話しすることにしませう。

奇跡を発生させるといひましても、いわゆるスプーン曲げその他の超能力を開発することと、そして望ましい物事を実現させることなど、各種の分野

があります。私がここでお伝えするのは、望ましい物事を実現させて、自分の人生を輝かしいものにするための方法です。

もちろんスプーン曲げも人間に潜在する超自然的な可能性を示唆し証明するものとして重要であります。私がここでお話しするのは、そうした意味での超能力ではなくて、だれもが比較的容易に応用できる奇跡を発生させる方法です。

まず第一に、私が昔から唱導している「ミラクルワード」を反復して唱える方法と、二番目にイメージを描く方法です。これについてはすでに皆さん方もよくご存じの事と思いますが、この問題はただの遊び的なものではなくて、自分の運命を根本的に変えてしまふほどの重要な要素を帯びていますから、やってみようと思う方は真剣に考へて、そしてきちんとした計画を立てて、誠実な態度で実行する必要があります。何をやるにしても、いい加減な態度では機能しません。

(1) ミラクルワード法

ミラクルワードというのは「奇跡を起こす言葉」という意味です。言葉というものは古来「言霊」といわれるほどに人間の運命にかかわるほどの響きを持つもので、一種の波動を放つものらしく、良い言葉を使用しつづければ

良き物事を引き寄せますし、悪い言葉ばかりを出しておれば、悪い物事を引き寄せます。この原理を応用して自分の望ましい物事を実現させるのです。

たとえば、生活上自動車はどうしても必要になつたのに、いまそれを買うお金がない。しかし自動車がなければ仕事にならない、という切迫した状態になつたとします。この場合、大抵の人はミラクルワードの原理を知らないために、「一〇〇万や一五〇万の金が入るわけがない。人間の望みは、なるようにしかならないのだ」と思つて最初から諦めてしまいます。これでは一〇〇年待つていてもお金はやつてきません。

お金を手に入れようと思へば、まず強烈な信念を具体化させるために言葉を唱えつづけるのです。どのような言葉を唱えればよいかといひますと、それは最初から肯定的なプラスの言葉でないとだめなのです。「自動車が欲しいなあ」という言葉では単なる願望をあらわしているだけです。これでは自動車がつてきません。「欲しいなあ」ではなくて、「もう自分の手に入っているのだ」という思い込みが重要なのです。思い込むことは実現するのです。「欲しいなあ」では思ひ込んでいません。

そこで、ミラクルワードとしては、「自動車はもう手に入っている!」という言葉でなくてはいけません。これに

類した言葉を適当に作り出して唱えてもかまいませんが、とにかくこうした肯定的な言葉を間断なく唱えつづけるのです。そうすれば、ある日、全く思ひがけない手段で自動車をかうお金が与えられることになるのです。

(2) ミラクルイメージ法

次に、ミラクルイメージを描く方法も有効です。これはミラクルワードを唱えつづけるとともに、すでに自動車が手に入つて、それを喜び勇んで自分で運転してドライブしている光景を心中にイメージとして鮮明に描きつづけるのです。私の体験ではミラクルワードよりもイメージ法がもっと効果的であるように思ひます。地球人はこうしたイメージを描く能力が非常に弱いということであるらしく、一瞬イメージを描いても、すぐに消えてしまうので、実現させることが出来ないのだと聞いています。

このイメージ法の応用は、終日のべつまくなしに行なうよりも、朝、昼、夜三回、各一五分づつ行なうほうが有効とされていひます。

以上の二種類の方法を応用して人間の内部に潜在する偉大な能力を開発する方法は、実は各種の能力開発機関で行なわれているのでして、私の専売特許ではありません。私の場合はアダムスキーの『生命の科学』に述べてある

イメージ法を發展させて応用しているにすぎません。

イメージどおりに実現した奇跡

こうした信念の力を応用する方法は世界各国でかなり研究されるようになり、日本でも指導機関が沢山あります。しかしアダムスキーは一九六四年に出した『生命の科学』ですでにイメージ法のことを述べているのですから、一大先駆者だったといえるでしょう。

私は昔から以上の二種類の方法を応用して奇跡的に願望を実現させた体験が沢山あります。一例をあげれば、私は昔、島根県の田舎に住んでいた頃、「いずれ東京へ出て行って出版社をやり、UFOの専門誌を出すのだ」という計画を立てて、すでにそれが実現して事務所の一角の社長用机に私が座り、社員を督励して楽しそうに仕事をやっている光景をイメージとして描きつけていました。

それは結局奇跡的に実現し、全くイメージどおりに都内の仕事場にいる私を発見することになったのですが、その現実の場面は私が田舎で心中に描いていた光景と気味わるいほどにそっくりでした。こうして私は日本最初のUFO専門誌を出すことになり、一応の目的を達成したのです。

一方、この出版事業に専念するかたわら日本GAPの仕事も別に行なっ

ておりました。GAPの機関誌はその頃『ニューズレター』と題していましたが、これも個人的に出しつづけていました。東京月例会のごときは昭和四四年秋以来、現在まで毎月都内でつづけていますから、今年の四月でもつづけて四八〇回続行したことになります。そういうわけで、私自身は超多忙の日を過ごしてきたのですけれども、六六歳の現在まで人がびっくりするほどの体力が保てたのも、やはりミラクルワードの力が作用したと思っています。私の場合は「私は健康、無限に健康、絶対健康!」というミラクルワードをよく唱えます。

宇宙の創造英知を認めることが先決

現在は信念の力を説いた本が氾濫しています。また第二次UFOブームの到来とともに、UFO関係や超能力関係の図書も書店に山積みされています。そのこと自体は社会の進歩を物語るものだろうと思いますが、どれを見ても重要な部分が欠落しているように思われます。それは「宇宙のパワー」または「創造英知」というべきものに言及した本がほとんど見当たらないということです。

むしろ逆にそのような事象を否定するような記述があったりして、人間の能力のみを絶対的な「力」とみなす傾向を多くの書物が示しています。たし

かに「大宇宙の創造主の英知」というようなものを信じなくてもスプーンを曲げることはできるのですから、超能力の開発に大宇宙のことなどは関係ないと思ってしまうのでしょうか、それならただの潜在能力の開発にとどまるだけで、自動車の運転能力の開発と同じレベルになってしまいます。

宇宙的なカルマを形成するための人間の生き方としては、単なる能力の開発の段階にとどまっていたは具合が悪いのです。もっと大宇宙の方向に目をカッと開き、無数の銀河系、恒星、惑星群に思いを馳せて、創造の驚異を感じ、そして大宇宙に存在すると思われ、それに対して限りない畏敬の念を起すことが先決です。

というわけは、アダムスキーも述べていますように、万物は偶然の産物ではなく、個々に目的を持って存在しているからです。今ここで生命論や物質論などを展開している余裕はありません。深遠きわまりない構造や存在物をみても、何か或る一つの英知が支配しているということを感じないわけにはゆきません。その絶対的なものを地球人はまだ認識していないという意味のことを「第二惑星からの地球訪問者」の中でマスターがアダムスキーに語っています。

そのような問題はいずれ来世紀で地球人の意識にのぼってくると思います

が、私は幸いアダムスキーの著書によって先取りしたので、それを生かさないという手はありませんね。

宇宙の意識は「絶対善」

そこで先程のミラクルワードとイメージ法の問題に返りますと、人間には無限の潜在能力が秘められているとよく言われています。そして各種の能力開発法が各地で唱えられていることは先にお話ししたとおりです。

しかしこの開発法を実践しても成功しない人や挫折する人が多いのも事実です。なぜか？ それは自分の内部に確固たる絶対的なものを持たないからです。せっかく開発法について手ほどきをうけながらも、一個人としての肉体人間としての力はたかが知れていると思ひ込んでいる人がほとんどです。そんなことではないのです！ 人間の持つ力は偉大なものであって、それは無限です。ただし体力ではなく、信念の力、もっと言い換えれば信念の力です。ただし人間が或る絶対的なものを基盤として、それと一体化して信念を発するならばです。

その絶対的なものとは何か？ それがアダムスキーが言うところの「宇宙の意識」です。

この「宇宙の意識」なるものは、宇宙全体に遍満すると考えられる創造パワーまたは英知を総称したもので、い

わば「神」というのと同義語ですが、「神」と言えば宗教的に響くためにアダムスキーはこの語を作ったと思われる。英語では Cosmic Consciousness といっています。したがって、これはこの頃よく言われる「宇宙意識」とは別物です。「人間が宇宙意識を持つようになった」と言う場合は、人間の側の意識を意味しますが、アダムスキーの言う「宇宙の意識」は宇宙全体を意識体とみて、万物を生かしている創造パワ―または英知を意味するのです。「の」の字があるのとないのとでは意味が完全に変わってしまいます。「宇宙の意識」は「神」というよりももっと適切な響きを帯びています。

この「宇宙の意識」というのは善悪を超越したもので、しかも万物を生成させる原動力ですから、「絶対善」とも言うべきものです。

これが万物を存在せしめているからには、万人と万物は「絶対善」です。悪というものは存在しません。

ここで重要な問題を持ち出しますと、地球人の最大の欠陥は「善悪」の二元論を持つことにあるのです。万物を善と悪に分けて見るというのは地球人最大の欠陥であって、このために地球の文明は精神的に容易に発展しないのですが、数千年もたてば地球の万人が善のみしか考えないようになるでしょう。こうしたプラスの想念を持ちつづけることも一つのミラクルワードです。

「絶対善」は悪を引きよせない

そこで少なくとも自分個人にとつて素晴らしいカルマの形成が行なわれる基盤が生じることになります。というのは、万物や万人を見るのに「絶対善」しか見ない、悪を認めないということになれば、波動が合わないために悪が自分の方へ寄つてこないことになるからです。そして善なるもののみが引き寄せられるのです。したがって本人には素晴らしい生活環境が展開してきます。ミラクルワードやイメージ法を応用する際に、この「絶対善」のフィーリングを基盤とするならば、鬼に金棒ですね。実践の失敗や挫折はあり得ません。

① 宇宙の意識は万物と万人を生かす。
② 宇宙の意識は絶対善である。
③ したがって万物と万人は絶対善である。

ということになります。この「絶対善」なるものは、ただ頭の先つちよだけで考える観念論ではだめで、全身のフィーリングでもって「感じる」のです。そのためには万物一体感を起こすことが最良です。

そうです。善人なのです！ ただしそれはゾロアスターが言うように「熱さない善人」です。絶対に悪人ではありません。

私は孟子の性善説の受け売りをしているのではありません。孟子も素晴らしいと思いますが、私の場合は、今年になってからアダムスキー全集の改訂版を出すことになって、あらためてその原書類と訳文とを対照させながら何度も読み進めて行くうちに、地球人が善悪の二極分割路線を行っていることが根本的に間違っているのだということに気づいて、それから絶対善の次元を認識することの重要性に到達したということなのです。

それからは目からウロコの落ちる思いがして、他人のいわゆる悪事が全く気にならなくなりましたね。そこでまた疑問が生じるかもしれませんが、「でも実際に悪事を働いて他人に迷惑をかける者を黙認し放置すれば、世の中はメチャメチャになるではないか」と。

そうです。そのとおりです。そこで、また一つの法則が出てきます。「悪事を働く者を黙認し放置するのがけつて真の愛ではない」という法則です。だから大昔、別な惑星では著にも棒にもかからぬ厄介者を殺すわけにはゆかないので、宇宙船に乗せて地球へ島流しにし、自分達の力で新環境を開拓するように面倒をみた『第

二惑星からの地球訪問者』に述べてあります。偉大な進化をとげたスペースビルも、悪事を働く者達を、なす術もなく放置していたわけではないことがこれで分かります。

そこで、わが地球でも、悪事を行なう人達を黙認するのが愛ではありません。人から、そこは適当な処置をとって本人に反省の機会をあたえるように仕向けるのが愛ということになります。

具体的にはどうすればよいのか。それは警察機構というものがありませんから、そこへ通報して、しかるべき処置をとって頂き、裁判という手順によって刑務所という別な惑星へ収容して反省させるということにすればよいのです。

ここで重要な問題があります。それは悪事を働いた人を警察に通報する際に、絶対に怒りの想念を起こさないで、むしろ「これによって本人が反省し、良き運命が開けますように」という祝福の想念を起こしながら事を行なうということです。これが真の愛です。

ブーメラン現象—カルマの法則

大体に人間が発する想念のうち、怒りや恨みの想念は相手のみならず自身に対してもひどい結果をもたらします。これについてはジョセフ・マーフィーの『あなたにも超能力がある』と題する本（産業能率大学出版部刊）

に次のような好例があけてあります。

「一婦人がかねて出入りしていた教会へ行かなくなったところ、それを恨んだ教会のメンバー達はその婦人に呪いの念を送るようになり、そのために婦人はひどく苦しんだ。そこでマリーに相談した結果、明るいプラスの想念を持つことができるようになり、呪っている人達を逆に笑いとばせるようになった。すると、教会のメンバー達のうち、五人がひどい病気にかかり、そのうちの一人は死んでしまった」

これをマリー博士は「ブーメラ現象」と呼んでいます。ブーメランというのはオーストラリアの原住民が昔使用していた狩猟用の器具で、木を組み合わせてL字型に作り、これを回転させながら飛ばします。もし獲物に当たれば、物理的な作用で弧を描いて自分の方へ帰ってきます。だから教会のメンバー達は自分達が放った恨みの想念がブーメランのように自分達に帰ってきたことによって、逆にひどい目にあつたというわけです。

これは一種のカルマの法則です。善を行えば善が返り、悪を行えば悪が返ります。こうした動・反動の作用は物理的なものと考えられますが、科学ではまだ説明できない段階です。

しかし、こうした実例が頻繁に発生する現象からみて、帰納的に一つの法則を発見することは可能です。そしてそれを応用すればよいのです。

誠実な実践が成功のカギ

アダムスキーのUFOに関する記事は、つまるところ人間の精神世界に関する重要なわからない問題を提供しています。このことに気づいて誠実に真剣に考えながら、自己の良きカルマの形成に何らかの自律訓練を実行するならば、それなりの素晴らしい結果が得られることを保証します。

ただし、以前にも申しましたように、書物に書いてあることを単に理解したということよりも、むしろ誠実に実行することの方が大切ですね。

言いかえれば、「まあ、とにかくやってみるか」という程度の曖昧な態度でなしに、シャープな感じ方でもって具体的な計画を立てて、文句なしにそれを実行するのがいいです。これは外国語の勉強と全く同じです。ときたま思ひ出したように英語の参考書をちよつと読んでみたり、テープをちよつと聴いたりしても何にもならないことは誰しもよく知っていることです。これと同じですね。

毎日一定時間の実修が必要

アダムスキー哲学を学んで実践するといつても、彼の三部作には日常に行なうべき自律訓練法がさほど具体的に述べてありませんから、つい単なる読

書に終わりがちですが、これはやはり自分で一定の訓練法を考案して実践するほうがよいのです。そうしないとピートニクの詩人ではないが「気がついて、いつのまにか俗世の感情の世界にいる自分を発見した」というようなことになりかねません。

そこで、どうするかといいますと、朝、昼、夜の三回に分けて一分ずつミラクルワード法かイメージ法を行なうとか、あるいは大宇宙の万物と自分が一体であるというフリーリングを起こす宇宙瞑想をすとかの自律訓練を行なうのです。人間の発達度や精神レベルは千差万物ですから、訓練法として万人共通の一定の規律はないわけで、そこはA氏の著書を読んで自分に適した方法を自分で考案して実践すればよいのです。これを毎日行なうと素晴らしい効果がでてくるでしょう。

要するに、自分自身を客観視し、大宇宙を海にたとえて、その中に溶けこんだ水滴としての自分を見るのです。こうした特殊な観法は必要なのであつて、一般人と同じようなレベルでのメンタリティー(ものの考え方)、すなわち、金、物欲、名誉欲、人間の住むのは地球だけ、その他、誰もが考えているようなマインド(心)だけによるエゴの世界を一步も出ないような想念で明け暮れしている限り、宇宙的カルマの形成はあり得ませんし、スペースビブルから認められることもないでし

よう。

しかし現実の世界は非常に複雑で、ともすれば俗想念の巨大な海に押し流されますから、よほど強固な信念と決意が必要です。自然のままに、つまりあるがままに生きればよいという安藤昌益の自然真営道的な考え方もありますが、これは難しい問題です。私としてはやはり「自分のための戒律」が必要のようです。

超能力開発練習法としては新アダムスキー全集第二巻『超能力開発法』には具体的な方法が述べてありますから、それを実行するとよいでしょう。万物との一体化のフリーリングを起こす練習法として樹木を見つめたり、広い水面を見たりする練習法、その他の方法が挙げられています。

あるいは鉢植えの草花を自室に常時置いて、それに向かってテレパシーで呼びかける練習をしてもよく、または犬や猫などのペットに無言で呼びかけるのも一方法です。私は昔、猫を相手にテレパシーの練習をしたものです。気の合った人間同士のテレパシー練習なら最高です。GAPで頒布しているESPカードは単独練習の場合、透視の練習に適しています。または『生命の科学』に述べてあるように自分の手を見つめる練習で素晴らしい透視能力を開発した人もいます。各自で自分に適した方法を選んで忍耐強くつづけてみて下さい。ご成功のほどを。

The Truth of the Death of Takamori Saigo
by Akinori Endo

西郷隆盛の最期を透視

●遠藤昭則

謎とされる大西郷の最後の様子を現地で綿密に調査し、超能力者・遠藤昭則が透視した興味深いレポート。



▲西郷隆盛

〈久保田〉 昨秋、日本GAP南九州支部代表の鶴田清則君から第一回支部大会を鹿児島で開催するので講演に来てくれという要請を受けた私は即座に快諾し、今年の大河ドラマ「翔ぶが如く」のブームの煽りもあって急に西郷研究を思い立った。鹿児島ではその関係の遺跡見学を行なうというので、予備知識として西郷南洲と西南戦争に関するインフォメーションを可能な限り頭詰め込もうと考えたのである。

といつても超多忙な身で、ともに書物など読んでいる暇はないのだが、

なんとかして超人的な読書力を發揮しよう、ひたすらに信念の力を応用し、まず司馬遼太郎氏の大河小説「翔ぶが如く」全一〇巻三〇〇〇頁を読破した。昼は多忙で読む余裕がなかったため、夜、ベッドに入ってから眠り込むまでの時間を利用して、一月上旬から始めて約一カ月で読んだ。

次に西郷と西南戦争、幕末と維新関係の史書約二〇冊をかたづけしから読みまくった。鹿児島市史も入手したかったが、明治初期の頃の歴史が出てくる巻は絶版だという。田原坂の激戦に関しては熊本県植木町史その他を取り寄せて研究した。こうして今年三月頃まではとりつかれたように南洲翁のイメージを追跡して過ごした。

別な惑星から転生してきた？

その結果、ある一つの強烈な印象が内部から湧き起こるようになってきた。この超偉大な人物は別な惑星から転生してきた人ではないかというテレビパシ

ックな印象である。この想念は日増しに高まって、確信めいたものに昇華したのである。

一月のある日、遠藤君になにげなくこのことを話したら同君も肯定した。そして「西郷隆盛には火星の色が見えます」と言う。つまり火星から転生してきたというわけだ。得たりとばかり「大久保利道はどうかかな？」と聞くと「あの人も水星がかかった火星の色です」と言う。島津斉彬公は？「この方は金星の色です」

期せずしてこの英傑三人は幕末の大動乱に揺れる日本を救うために別な惑星から転生してきたのであろうか。物的証拠がないために断言は控えるが、素晴らしい透視能力を持つ遠藤君の言を私は信じたい。私のフーリングも大体に合致していた。

西郷隆盛の最期の謎

西郷研究に没頭した結果、不可解な謎が三つ出てきた。(1)西郷のいわゆる征韓論なるものの真意は何か。(2)田原坂の激戦で七本柿木台場がわずか一個分隊の官軍により占領された理由。(3)西郷隆盛が最期をとげた城山岩崎谷の自決の状況である。右の内(1)と(2)は各種の文献で大体に判明したが、(3)に至っては諸説粉々、真相が分からない。ひどい内容の書物が多いのだ。たとえば西郷隆盛は戦争中、悠々と碁を打っていたとか、もつとひどいになると、

岩崎谷の洞窟中で軍服を着た南洲が碁を打つイラストを添えた本などもある。城山陥落の前、四名の同志と密謀して脱出した隊長の一人、野村忍助の口述記録によると、戦争中に西郷が碁を打つ姿を見たことはないという。野村は無謀な戦争を起こした桐野利秋を批判し、死ぬことを拒否して官軍の捕虜になり、戦争の実態を伝えた貴重な証人である。

今年、西郷ブームで南洲関係の本が雨後の筍のように出たが、それらは大体司馬氏の「翔ぶが如く」をネタ本にしているようだ。これは小説とはいえず、膨大な資料を駆使し、史実に即して書かれた内容であることに間違いはないだろう。だいいち大河小説としてこれほどに読ませる作品は希有である。

この内容によると、西郷の自決は明治一〇年九月二四日早朝、官軍の総攻撃が開始された後、洞窟を出てから行なわれた。岩崎谷の狭い道路を約四〇名の護衛に守られた西郷の一行がその坂を飛ぶように駆け降りてくるのを見たのは、尾根の中腹まで降りた官軍の中尉浅田信興である。彼は仰天した。一ちようの山駕籠が守られていたが、これを西郷のものとしてみた(以上は文芸春秋社版文庫本「翔ぶが如く」第一〇巻二四九頁)。つづいて次の記述がある。

「西郷は中央あたりにいた。その後方を、山駕籠に乗った別府晋助がつづい

ている。(中略)以下の西郷に対する言葉は、別府がいったとも言い、辺見(十郎太)がいったともいう。

『モウ ユハゴワスメカ(もうよくはございますまいか)』

ところが前を駆けている西郷が、大きな頭を左右に振って、

『マダマダ』といった。

西郷らが林を抜けたとき、はたして飛弾の密度が圧倒的に濃くなり、西郷の大きな体に二個の小銃弾が食いこんでしまった。西郷は突んのめるようにして倒れたが、すぐ体をおこし、後ろの別府晋介をかえりみて、

『晋ドン、モウココデヨカ』といった。

『御免なつて賜ふ』というや、別府の刀が白く一閃して西郷の首が地上に落ちた。(同二五〇～二五一頁)

別府晋介が西郷の介錯をしたとき、桐野利秋、池上四郎、辺見十郎太などは、路上に正座していたらしい(同書二五三頁)

この辺の状況は多くの西郷関係の記述の元になっているようだ。

現地を調査する

私と遠藤君が鹿児島市の南九州支部大会に出席のため日航機で飛んだのは四月二十八日の午後である。鹿児島空港に着が四時近い頃で、出迎えに来た同支部の副代表・曾我部勇人君の運転する車で市内に向かう。時間があるので城

山の岩崎谷の洞窟に寄ろうということになり、行ってみた。

意外に小さな洞穴が二つ並んでいる。右側の内部は畳四帖程度。左側のはもっと小さい。この付近の山中には側近達が見え隠れした洞穴が他にもあちこちあるらしい。案内掲示板によると、西郷は玉碎する前の五日間ここにこもっていたという。ここから岩崎谷の坂道を徒歩で下ってみた。付近は坂に沿って近代的な民家が立ち並び、往時のおもかげはない。

夕暮れが迫ったため、いったん引き揚げたが、もっと調査したいという欲求にかられた私は、翌日の大会の日の午前中、またも親切な曾我部君の車で遠藤君とともに再度岩崎谷を訪れた。今度は別な資料を頼りにして綿密に調べながら歩く。雄大な作品に活写されている舞台の現地を逍遙するのはことなく楽しいが、時間の制約があるために悠長にはしていられない。南洲の最期の地がどのあたりかと、目を皿のようにして歩き回る。

後日、遠藤君が現地を透視した結果を手記にしておいた。それは次のとおりである。

『遠藤』西郷隆盛はどのように行動していたのか。まず洞窟からの印象を見ることにした。

洞窟は一つあるが、両方とも何らの映像も私の心のスクリーンに現れてこ

なかつた。これは多くの人が戦争後にこの洞窟を何かの目的で使用したのだろうか。そのためにはつきりとした印象がこなかったのかも知れない。

しかし洞窟の前約五メートルまでの所には数十名の人が集まっているのが見えるので、やはりここに西郷軍がいたのだらうと思う。

ただし荒々しい人というのは少なく、みな背も高くなく、剣の流派はなにか自己流のようなものが混ざっている人が多く感じられる。

岩崎谷を透視しながら歩く

ここから私達が岩崎谷を降りてきてまず感じたことは、左側の崖に沢山の西郷軍が一時的に住んでいたということ。西郷が死ぬ前の五日間をすごした洞窟

撮影／久保田八郎



とである。これは強く感じた。

現在の鉄道線路が谷のトンネルから出てくる辺りに来ると(写真1の矢印)右側の山からとても嫌な強烈な灰色を感じた。これはここで官軍と西郷軍との最後の激戦が行なわれたためだろう。心のスクリーンにも山の上と途中に多くの人が見えていた。

私は灰色と言ったが、それはこの土地が記憶している波動を色として見たからである。その色が突波口となって映像が見えてくるのである。

最初の日にこまで来たとき、どうも西郷隆盛がここで銃に撃たれたという印象が湧き起こらなかった。彼の味方の多くの人が撃たれているのは感じるのだが、彼の印象が起こつてこないのである。

ひょっとしたら撃たれた場所を通り過ぎてしまったのかと思い、道路を逆戻りしたが、その感じはない。

二日目、前に下った辺りに来ると、坂道のもつと下の方が気になってきた(写真1、矢印2)。そこでさらに下り、前方を見ると遠くに青い標識板が見える。私は視力が二・〇なので遠方の物もよく見えるのだが(ちなみに、遠隔透視ができる人は目が悪いとよく言われるが、私はそんなことを全く信じていない。健康な目を持つ人こそ健康な透視ができると思うからである)。それは視力の限界を超えた所にあつた。でも不思議なことに、なぜかその文字が

分かるのだ。確か「西郷隆盛終焉の地」だったと思う。

そこまで歩いて行くと、左側に入った所に石碑が建っており、ここで西郷が没したという説明板がある。しかしこの石碑の位置よりも前の道路の方に真っ赤な色を感じた。これは、ここで西郷が亡くなったのではなくて、人々がとても動揺している様子を示している。

久保田先生は古い地図を見ながら、「確かこの辺りに島津邸があったはずだ」と言われた。

しばらく歩き回っているうちに、とうとうその位置が確認できたが、現在は別な姓の方が住んでおられた(写真2、矢印1)。

確かにここだ。この辺りに薄黄色を感じ(矢印2)。一日目はまだ来たばかりでこの土地に慣れていないので違和感があったが、今日はリラックスして見る事ができた。

こんなアスファルトを敷いた所からどうして過去の波動を感じることができのかわかるかもしれない。空間を透視するときには二点間に距離を感じないのと同様に、時間を透視するときには現在と過去との距離を感じなくなる。だから波動透視と呼ぶ方がよいかもしれない。

鹿児島に来る前から西郷隆盛が銃弾で撃たれる映像が見えていた(図1)。

弾が当たってよろよろとなるのだが、後ろには数名の味方が黒い影となって見える。そして右手に獣道のような細道も見える。

現地へ行って分かったのだが、踏切から少し行った所(写真3、矢印)を見ると、昔は細道があったのが見えてきた。これで東京で見えた映像と合ってきた。

次にもう少し下って、歩いてきた方を振り返ってみると、終焉の地の石碑のある所よりも上手の西郷記念館のはずれの所に何か独特の印象を感じる(図2)。それが何を意味するのかしばらくは分からなかったが、時間がたつにつれてようやく判明した。つまり西郷隆盛の最期の様子である。

隆盛最期の状況を透視

まず岩崎谷を駆け降りて来た西郷軍は、写真1、矢印1の所で山の上や途中にいた官軍の銃弾をあびて多くの者が倒れてゆく。

しかし西郷隆盛とその近くにいた人達はさらに下りつづけ、現在の西郷記念館の所まで来た。その位置で右後ろ側からの銃弾が二発あたり、西郷はよろめく。一発は右膝の上辺り、もう一発は右腹に見える。また横から見ると次のように見えるのだが、こういうことはあるのだろうか。つまり右背中の腰の辺りから右腿へと弾が貫通している映像なのである。しかし判然としな

い。とにかく彼はこれ以上歩くのは不可能に近い状態だった。しかし彼は歩いた。ほんの数メートル。それが現在石碑のある所の前である。後ろにいた人々は驚いて騒ぎだした(写真4、矢印)。西郷隆盛も、もうこれまでと、なんとか歩きながら、別府に介錯を頼んだ(写真4、矢印1)。

別府晋介は腰をよろよろさせながら近づき、刀を振り上げて(といつてもそれほど大きく刀を動かさずに)隆盛の首を斬った(写真四、矢印2)。

しかし首の骨の所で刀が止まったために、西郷はすでに絶命していたが、数人で大きな体を抱えて右側の細道へと運んだ。そしてそこで改めて首を斬ったのである。

あとで曾我部勇人氏に聞いたところ、数度刀を振りかざしてやつと首が斬れたという話が昔から伝わっているという。

(久保田注)小説類では別府晋介が首をはねるのを周囲で部下達が正座して見守ったとあるが、熾烈な弾丸雨飛のなかで、そんな芝居じみた悠長なことをやっていられないことは容易に想像がつく。だいたい別府も両足をやられて長く療養中の身であり、歩行困難であった。だから出撃に際しては部下の少年二人に山駕籠を担がせて、それに乗っていた。したがって体力の弱っていた別府が剛腕を発揮できなかったのも首肯できる。一刀のもとに首をはね

たというのは間違いであろう)

つづいて後方からの官軍によって数名がやられた。ニギビ顔の少年が一人離れているのが見える。

濠もあつた

久保田先生が「もしここがそうなら、もう少し下手に広い濠の跡があるはずだがなあ」と古い地図を見て言われた。そこでさらに下ってみた。

どうも地下に水が流れているような冷たい印象を向こうに感じる(写真5、矢印)。間違えては大変と、黙ってどんな歩いて行つた。

やはりあつた! (写真6)でも狭い。そこで写真7の矢印の所に立つて中を覗いてみた。なんと道路の下で急に広くなるように造られているではないか。そしてその先が広がってつづいていった(写真8)。

あとで谷の一番下まで来て(写真9)そこから曾我部氏の車で走ってみると、数百メートル先の踏切の所ではもっと幅の広い水路になっていた。確かに地図と同じである。

以上のようにいろいろと見てきたが、これらは私が西郷隆盛という偉大な人物に興味があったために、私の心のスクリーンによく見えてきたのだと思う。

〈久保田〉以上の遠藤君の透視のなかでもう一つ気になる部分がある。西郷の体にあつた二発の弾丸のうち、一



▲写真はすべて久保田撮影。イラストは遠藤による。

発は横から見ると、背中、腰の辺りから右腿へと弾が貫通しているという。これはすぐ後ろにいた『誰か』が銃をほとんど垂直にして撃ったとしか考えられない痕跡を示す。

これについては次のとおりである。

西郷の出撃の途中、側近ナンバーの桐野利秋が後ろから西郷を撃ったという言い伝えが昔からあった。この件は『翔ぶが如く』の中でも取り上げられているが、肯定的ではない。参考として簡単に記してあるにすぎない。

桐野は偶像である西郷が官軍の捕虜になることを極端に恐れていたフシがあったし、戦争中後半は西郷から相手にされない状態となっていた。こうした状況から複雑な感情の錯綜によって発作的かまたは計画的に西郷を撃ったと推測できる可能性が遠藤君の透視に

よって浮かび上がるのである。したがって桐野犯人説は無視できないことになるのだが、どんなものだろう。

こうした過去透視その他の超能力による調査を非科学的だといって一蹴する人がいるかもしれないが、現在では考古学その他の分野で超能力者の透視が応用されるようになっていく。

物証による実証主義も重要であるが、一方だけに固執して他を排斥するという狭量な精神では、結局、限定された結果しか得られないだろう。真実を見出すためには、あらゆる手段を講ずるべきであると思う。

今回は短時日の旅行で充分に史跡を見る余裕はなかったが（それは当然である）、いずれ日を改めて史跡見学の旅行を行い、鹿児島島の偉大な先覚者達を偲びたい。

図1

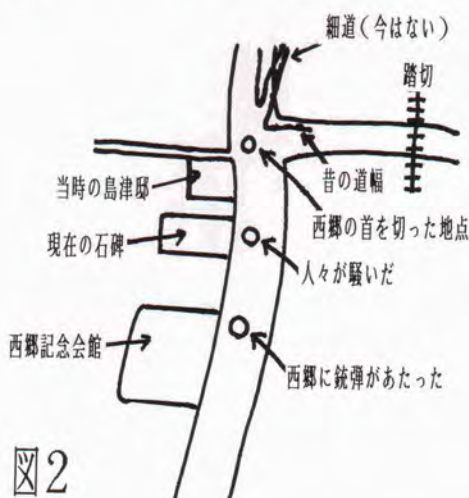


図2

A Talk with Adamski's Secretary
by Yutaka Mukai

アダムスキー秘書との対話 向井裕

本誌一〇五号より連載した「アダムスキーに会った日本人」の主人公・向井裕氏が、米カリフォルニア州ピスタのアダムスキー宅で会見後、秘書のジャネット・レナーさんと筆談で話した貴重な英文記録が残されていた。以下はきわめて興味深い内容。本文は久保田八郎訳。

ジャネット あなたは英語を読む勉強をしたときに、同時に会話を理解することを学ばなかったのですか。

向井 日本では英語の勉強は読むことと書くことだけです。話すことと聞くことはやりません。あなたは宇宙人に会いますか？

ジ 私は会っていません。彼らがいるような場所に私はいないのです。

向 あなたは宇宙人を一〇〇パーセント信じますか。

ジ 信じます。

向 あなたは日本へ行きたいですか。

ジ さあ……。でもあんな美しい国を見れば素敵でしょうね。テレビで日本に関する多くの場面を見ている。

向 今日私の人生で非常に幸せな日です。

ジ それはいいことです。今日ロサンゼルスへ引き返すのですか。

向 はい、数時間後に帰ります。

ジ あなたの言葉を私がタイプしたことを気にしないでね。いつだったか一人の若い日本人がここへ来たことがあります。彼も英語を聞くことも話すことも出来ませんでした。それで今日のように同じタイピングの方法を応用したのです。彼は英語を書くことだけが出来ました。

向 その若い男というのは誰だったのですか。

ジ 名前や住所を覚えていません。どこの州ですか。

ジ カリフォルニア州のどこかの開いたことのない町です。たぶん小さな町なのでしょう。

向 あなたはUFOを見たことがありますか。

ジ たびたび空を見上げて沢山見たことがあります。アダムスキー氏が言うていました「今は金星が接近している

ので、UFO群が近づいているのだ。しかし見ようとすれば、敏感になり、たびたび空を見上げないとだめだ」と。

向 素晴らしいUFOの話です。

して下さいませんか。

ジ アダムスキー氏がパロマー山に住んでいた頃、私たちは沢山のUFOを見ました。みんなで一三五機見ました。ある晴れた日の夕方、夕食後、屋外に座っていたのです。他の場所にいた人たちも見ています。UFO群はサンデ

イエゴの方へ飛んで行きました。こんなふうだね（と言ってジャネットさんはSの字型の図を描いている）。夏のこ

とで、たぶん一〇年ほど前のことです。非常に早く飛びました。こんな大集団を見たのは初めてです。

向 あなたのお友達は何時に見ましたか（という質問らしいが、相手はよく理解できなかったらしい）。

ジ 彼がそんなに多数の円盤を見たのは最初でした。初めに彼はその正体が分かりませんでした。彼は常にそのことを深く考えていたのです。あれほどに速く飛べる飛行機がこの世界にあるとは思わなかったのです。

向 「彼」とは誰のことですか。

ジ アダムスキーのことです。

向 おお、大変有難うございます。それは最も接近した目撃なのですか。

ジ 円盤群はたぶん約二〇〇メートル上空だったと思います。

向 そのときはただ一人だったのですか（この質問も相手にはよく分からなかったらしい）。

ジ 私はいつもパロマー山にいたわけではありません。夏になるとそこへ行

くのです。その他、春とクリスマスも私の休暇になります。だから私が山にいないときに彼らが（アダムスキーのグループが）何を見ていたかは分かりません。しかし、アダムスキーはしばしば空を観察して、望遠鏡で写真を撮り、彼の書物に載せるために数百枚の写真を撮りました。

向 あなたは大きな母船を見ましたか。

ジ はい、数度見ました。あるときはグレンデールの家に帰ったとき、ふと私の頭が空の方へ向いたのです。すると母船が約五分間空中に停止してから、閃光のようにまっすぐに上昇しました。

向 大きさは？

ジ 巨大な物体です。大きさを見積もるのはむづかしいのですが、アダムスキーの書物にあるような葉巻型でした。

アダムスキーが言うには、母船群は長さ約八キロまたはそれ以上もあるということです。

向 どこの惑星から来たのですか。

ジ どこから来たのか分かりません。あまり高度が高すぎて胴体の惑星のマークが見えなかったのです。

向 アダムスキーはその母船について何を言っていましたか。

ジ 何も言いませんでした。私はただそれを見たと言っただけです。多くの人もそのときに心をすましておれば、それを見ようという衝動が起こって、UFOを見るのです。

向 それはいつ見るのですか。見れる



▲上の写真はアダムスキーがパロマー山を降りてから晩年をすごしたカリフォルニア州ピスタの家(奥の方)。一見小さく見えるが内部はかなり広い。
 ▲左は大広間で故アリス・ウェルズ女史と語り合う編者(久保田)。この部屋でアダムスキーは月例会を開催して多くの人を指導した。向井裕氏もここでアダムスキーと会見した。右奥のドアから向こうの小部屋は事務室になっていた。(一九七五年一月撮影)

季節があるのですか。

ジ こちらでは、いつの季節でも同じことです。

向 何度見たのですか。

ジ そのときの一度だけです。何年か後にサンフェルナンド溪谷で夕食前の六時半に別な母船を見ました。巨大な赤とオレンジ色に輝く物体が空中にいました。私は一〇分間じっと立ち止まって見ていましたが、アダムスキー氏も見ました。私たちは彼の義妹の家にいたのですが、その家をちよど離れようとしたときでした。美しい光景でした。

向 アダムスキー氏は土星へ行きましたが、あなたはそれを信じますか。なぜ信ずるのですか。

ジ それは彼が世界の教師であるからです(イエスや他の教師のようにね)。正しく生きるために人間が学ばねばならぬことを教えるために、たぶん彼はこの高度な援助を得る権利を持ったのでしょう。たぶん彼は(自分が感じているかまたは知っている事柄にたいして)自分の運命を遂行するために身を捧げた人たなのでしょう。それは人々に教えることなのです。

向 彼が土星から帰ったときに何かを持ち帰りましたか。

ジ 私は知りません。彼が次のように言うのを聞いたことがあります。「かりに私が別な惑星から何かを持って帰ったとしても、他人にそれを証明するこ

とはできない。人間、というものは、自分が見たことのないものを信じようとはしないんだ。」

向 世界の多くの人々は、どのようにすれば信ずることができるのですか。

ジ 人間はこの内部のフィーリングでもって内部からわきおこる感知力に従う必要があります。それは何が正しくて何が間違っているかを本人に感じさせる一種の直感力です。私たちの内部の真自我は知っているものであって、それが感知力を与えるのです。

向 私が日本へ帰りましたら、家族や友人たちに話すつもりです。それで私はUFOやアダムスキー氏やその仲間の人たちについて確信を持ちたいのです。

ジ あなたは彼の書物を読みましたか。三冊読みました。

ジ それならあなたは『宇宙船の内部』を読んだでしょう。(注「これは日本語版新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」第二部に収録」) 私たちが哲学を好むならば、あの書物の中の哲学は理解できるはずで、プラザーズと偉大なマスターの言っている事が理解できるでしょう。

向 そのとおりです！ 今日私は部屋の窓からUFOを見ることができま

ジ この事務室にUFOの写真類がかけてあります。私たちは、確実に見れるとは言えません。UFOは見た

と思った瞬間に近くにいないかもしれせん。見たいと思っても来てくれないのです。ある日、私が庭で雑草を取っていたら、一人の婦人訪問者が来ました。彼女は空を見上げて叫んだのです。それで私も二機のUFOを見ました。私の頭は雑草にしかなかったのも、もし私が一人だったらちやうどそのときに見えなかったかもしれません。

向 アメリカ政府はアダムスキー氏を援助していますか。

ジ もし政府が彼のUFOフィルムを一般に公開するならば、テレビでそれを見る人々たちを納得させるために大きな援助になるでしょう。

向 サイレンスグループはアダムスキー氏を援助してはいないのですか。

ジ そうです。彼らはアダムスキー氏に対抗しており、氏を黙らせようとしています。彼らは真実に対抗し、トラブルを起こすことに関心があるのです。向 サイレンスグループが彼の部屋の

中に入ってきたことがありますか。

ジ 私には分かりません。彼なら見分けるでしょう。彼に関していろいろな事を書いた人があり、それによりまずと、誰にも立証できない恐ろしい物事があったということです。

向 アダムスキー氏はテレビに何度出ましたか。

ジ 彼はサンディエゴのテレビに出て何度か講演をやりました。またロサンゼルスでは自分の書物につい

て語りました。また彼がワシントン市にいたときにはテレビとラジオの両方に出演した。ニューヨークにいたときにはラジオの夜間番組で数時間話しました。

向 新聞に出たことがありますか。

ジ きつと新聞にも書かれたと思います。彼はオーストラリアとニュージーランドにいたときに書かれた記事を集めた大きなスクラップブックを持っていました。それは彼の部屋の中に保存してありましたが、私はもう長く見ていません。

私がここへ来たときはあらゆる郵便物の返事を書いたり、その他の雑務で大変多忙なものですから、そんなことを知るための時間はほとんどないのです。私たちはいつも仕事の表面には出ないのです。

私はアダムスキー氏が朝起きる前の早朝の涼しいときに庭で働きます。アリス(訳注「故アリス・ウェルズ女史」)は日課の仕事や記帳の仕事をします。

アダムスキー氏が起きると、朝食の後に私たちは手紙類の処理にとりかかります。もし手紙類が一月も前に来たものならば、再度読み返す必要があります。ときどき仲間なしに私たちは三

〇から五〇通の手紙を書くことがあります(訳注「これらの手伝い人が返事を書くときは必ずアダムスキーが口述するのをタイプライターで打っていたとアリス・ウェルズ女史が訳者に語っ

たことがある)。

昼食の後、アダムスキーは休息します。それは疲れる仕事なのです。それから彼はさらに手紙の返事にかかるか、または庭を歩き回って状況を見たりします。彼は屋外で仕事をするのが好きです。これは頭を使う仕事から気分を変えるためです。

向 あなたは若い人たちは何をすればよいとお考えですか。

ジ 私は若い人々たちを知りません。

向 たとえば若い人たちはモラルまたは平和的な考え方を持ったり行なったりするべきですか。

ジ そうです。

向 平和的な生き方とはどのようなものですか。彼の食事、食べ方、飲み方のなかにそれが含まれていますか(というような意味らしい)。

ジ 大抵は心の平和が大切です。それから食物は私たちの体を助けます。もし私たちの内部の心が平和でなければ、特に腹を立てているときには、食物は体の害になります。そのために病気になるでしょう。

向 もし食物が悪ければ、人間の心は本人をひどく悪くするのですか。

ジ 食物が新鮮でなければ――。

向 違います。私が言うのは正しい自然の食物のことです。

ジ 食物が熟していれば当然自然のままであるでしょう。熟していれば食べますが、そうでなければ食べません。

潜在脳力を開発し、願望実現を早める奇跡の音楽

アメリカで
話題騒然のスピリ
チュアル音楽ライブラリー
ついに日本でも独占販売開始

この音楽を聴きだしてから 願望が次々と実現し始めた

アメリカで各界から熱
狂的注目を欲びる常識
を超えた奇跡の音楽

「スピリチュアル・ミュージック」、
「ニューエイジ・ミュージック」と呼
ばれる不思議な音楽が遂に日本へも
上陸しました。このスピリチュアル
音楽に関しては、日本でもニューサ
イエンス関係の書籍や一般の雑誌、
新聞ではしばしば紹介されているの
既にご存知の方も多いことでしょう。
今から十数年前にウエストコースト
（米国西海岸）で湧き起こった、意識
と物質を同一の次元でとらえようと



●記憶力・集中力・創造力などの潜
在能力が曲を聴くことにより自然に
開発される。

●一二年の長期にわたって、これ
らの曲を愛好していると、超能力者、
ヒーラー（心霊治療家）の典型的脳波
であるアルファ波とシータ波が
同時高レベル波形とよく似た脳波が
あらわれるようになり、その結果、鋭
い直観力——これがさらに高まると
未知予知や読心力などの超能力——
の持主になる。

●夜、寝る前に聴くと熟睡でき、疲
れが翌日にあまり残らず、朝の目さ
めがとてもさわやかになる。又、小
さな事にクヨクヨしなくなる、包容

するニューサイエンス運動、エコー
ジ思想等のニューエイジ革命の嵐
の中から生まれ出たスピリチュアル
音楽——。

この音楽の特徴をまとめると、

●作曲家・演奏者達が皆、30代前半か
ら半ばと若く、瞑想愛好家の上、幽
体離脱や超常現象を日常的に経験す
るなど、きわめて霊的意識が高い。
●今までの音楽のように単に曲を聴
いて楽しむという点だけではなく、
むしろ音楽的に非常に魅力に富ん
だ曲が多く充分に楽しめるという、
意識を高め、潜在意識を刺激するとい
う、「意識・無意識への作用」という事
に重点をおいて曲がつけられている。

力がつく、他人に寛容になり対人関
係がスムーズにゆくようになる等々
の人格向上効果が見られる。

●潜在意識が活性化されることによ
り、円滑現象（願望がスムーズに実
現される、自分の思い通りの方向へ
物事が進んでゆく等の現象）が起き
るようになる。

これだけでは、まだとても説明し
きれないくらい驚くべき効果を持
ったスピリチュアル音楽は、その多
様な機能が、早くからアメリカの教
育界・医学界・宗教界・実業界など
各界から熱い注目を浴び、数々の実
験・科学的基礎研究が今日まで行な
われていきます。

アメリカでは脳力開発
に、願望実現にと幅広く
活用されている。

アメリカでは、これらのスピリチ
ュアル音楽の科学的・神秘的・主
義的側面からの経験データに基づい
て、応用面での研究・実験もさかんに
行なわれています。現在のところ最も
利用が進んでいるのは教育の分野で、
サジェストベディア（超高速学習法）
のバックミュージックとしてさかん
にこのスピリチュアル音楽が利用さ
れています。又、能力開発、霊性開
発を目的とした瞑想教室では、スピ
リチュアル音楽はもう空気同然の必
需品で、大脳の潜在脳力をめざめさ
せるのに著しい効果のあることが何
千人の生徒達を使った実験でも実証
されています。

又、成功を夢みるビジネス界のエ
リートの間でもスピリチュアル音楽
はたいへんな人気で、脳力開発に、
ストレスコントロールに、又、願望
の早期実現のために、
いろいろな使い方を
されています。



◇「スピリチュアル・ヒットUSA」ライブラリーの中の1曲ご紹介◇
曲名：TEMPLE IN THE FOREST

作曲演奏：DAVID NAEGELE

曲の内容：アコースティックピアノ、シンセサイザー、エレクトリック
ピアノ、自然音で潜在意識の波動をあらゆる森のリズムが形づく
られる中を、「オーム」の神聖なマントラのバイブレーションが限り
なく広がってゆく様子を表現している。

瞑想用に、又直観力・創造力開発に最適の曲の1つ。

米国のスピリチュアル
音楽ベストヒット48曲
・24巻を一堂に集大成
アメリカンライブラリー社では今
アメリカで最も人気の高いスピリチ
ュアル音楽のヒット曲48曲、テープ
24巻の独占販売権を獲得し、「スピ
リチュアル・ヒットUSA」として

★想像以上の効果にびっくり!!★
はじめのころは「何かおもしろい音
楽がよっという感じで、でも聞いて
いると心が落ちついてくるし、まあ車
の中で聞くときはまあ静かとい曲
くらしい印象しかなかったのですが、
しばらくして色んな異常に気づきは
じめました。低血圧で朝は目さ手だ
つたのが、すごく寝がめがよくなっ
て午前中の仕事のバリエーションが
多くなり、仕事上の判断が正確になり
前と比べて、仕事をやらなくなったか
と、それに比べはるかに、女の子（特
に美人）と話をするととても変なと
ころで緊張してしまつて話があつた
しつたして、どうも恋手、手だつた
んですが、それが最近しつ前ましく

な気分がなくなり、ほんとに音楽
にストレーンに話があつたようにな
つたこと。おかげで、会社の女の
子がみんなボクの恋人に見えちゃう
ほど。何か会社へ行くのが楽しくなり
ました。ほんと、もちろん例の音楽は
毎日かかす聞いてます。次のデー
ブが楽しみです。埼玉県 山口浩和
最近、人とのつきあいが信じられな
いくらいうまくいきました。
広島県 船越照政
さうなつたらしいなあと感じていた
ことがもう立続けに二度も現実のも
のになつてしまいました。
東京都 高岡隆春

日本の皆様には頒布会方式で通信販売
いたしております。
「スピリチュアル・ヒットUSA」の頒
布システムを説明しますと、初回か
ら12ヶ月にわたって、毎月カセット
テープ2巻が届けられ、支払いは毎
回五、六〇〇円の送料三〇〇円、初
回、二回目以降を問わず、商品到着後
5日間の無料試験期間がありますか
ら、万が一、曲が気に入らなければ自由
に返品できます。（二巻のうち二巻の
みの購入の場合は代金は半額の二、
八〇〇円プラス送料）又、途中で購入
をストップしたい場合は、所定のハ
ガキ又は電話で通知すれば、その時
点で購入を止められます。
商品は、2週間前後で到着します。
瞑想ガイド、願望実現マニュアル
、脳力開発マニュアルがついていま
すので、それぞれの目的に応じて
これらのマニュアルをご利用下さい。
第一回目の試験のお申込みは、
〒107 東京都港区南青山1-26-14
アメリカンライブラリー社 U.F. 係
電話 東京03(479)5864
までハガキで電話で、住所・氏名・
年令・職業・電話番号を明記の上、
「スピリチュアル・ヒットUSA」
試験希望とお申込み下さい。

アダムスキー氏は万物にたいして控えてバランスをとるべきだと教えています。

向 あなたは他の惑星の食べ方や飲み方の理論を知っていますか。

ジ 他の惑星ではあまり沢山は食べないようです。このことはアダムスキー氏が母船に乗ったときの体験を伝えています。異星人はいくらかの肉、沢山の魚、多くの野菜、自然のままの果汁などを食べますが、食べすぎることはありません。彼らは人体を完全に保っています。

向 私は病気の治療をしています。たとえば小児麻痺を治すことができました。(食べたり飲んだりせずに)そして聖書にあるように祈るのです。あなたは私の急速治療と祈りが(正しい、という意味?)と思いますか。

ジ 私はまだそんなに急速に治るほどの病気になったことはありません。しかし病気であるうがあるまいが、祈りというのはいくつもの信念の力を持つ必要があるからです。緊急のときだけでなしに、本当の援助の手を差し伸べてくれる創造主にたいしていつも信念を送るべきです。なぜなら創造主は肉体を作り、それを組み立てる方法を知っているからです。

私たちが創造主のみ手の中に感謝の想念を置くならば、そして信念の力と祈りとをもってすれば、それは偉大な

助けになります。

向 素晴らしい!

ジ あなたは医師ですか。

向 違います。

これは私にとって重要なことですが、まず第一に神と心と感覚がありますが、私は二番目のものを忘れません。それは物質、つまり「物」であり、食物です。

ジ 食物は肉体を健康に保つのに必要です。肉体を痛めてはいけません。アメリカ人は食べすぎます。食物が充分にあると、美味しくやめられなくなるのです。食事が目の前にあると、続く限り食べつづけます。そこで胃が痛み、太り過ぎになるのです。

向 全くそのとおりですね。そのようになる原因は食物が自然のものでなくなつたからです。自然の動物は食べすぎません。私は日本ではいつも玄米かパンです。私の栄養食治療の理論の重要な点は、自分の体を自分でコントロールしなければならぬ、ということです。

したがって、私たちは宇宙の法則を知っています。その法則は陰と陽、上と下、であると思います。宇宙の万物は陰陽、男女、老若、高下、緩急、などであると思います。食物においては陰陽の法則があります。ご存じですか。**向** あなたが名づけているような法則については全然聞いたことはありません。

向 私が名づけたものではありません。

東洋では非常に古い時代からあるのです。約五〇〇〇年昔に中国で行なわれた理論です。

ジ 全包的ですね。

向 アダムスキー氏はいま疲れていると思いますか。

ジ 彼はこうした日曜日の会合ではいつも疲れるのです。しかし彼は仕事が好きですし、大変な知識を持っていますから、それを人に伝えたがるのです。したがって彼は仕事をやる時というものを知りません。一つのアイデアが出てくれば、また二つのアイデアが出てきます。そういうふうにとどまることがないのです。

あなたをご援助しようと努力したことは楽しい事でした。何かが明確になつて助けになればと願っています。

訳注 以上で向井裕氏とジャネット・レナーさんとの筆談による質疑応答は終わる。この対談は本誌一〇五、一〇六号に連載した「アダムスキーに会った唯一の日本人」と題する記事の続編ともいうべきもので、昭和三十九年八月単身で渡米した向井氏が一日、カリフォルニア州ビスタのアダムスキー氏宅を訪問し、ア氏と会談した際にア氏の言葉をタイプライターで口述筆記したジャネット・レナーさんと、奥の間にさらに対談した際の筆談録である。

このとき向井氏がなまじつかに英語をしゃべらずに筆談を行なったのが良かった。録音機を携行しなかったために、素晴らしい記録文書として残されたからである。

それにしても長時間、ジャネット・レナーさんが活字体文字で丁寧な英文を書いて氏の質問に答え続けた忍耐力と親切さに驚くほかはない。また向井氏の質問の英文も文法の誤りをものともせずに何かを把握しようと必死になつて書いた形跡がある。

ともあれ、この質疑応答により、当時アダムスキーのヘルパーたちが献身的に活動していたことと、彼女らもアダムスキー哲学を完璧に理解し実践していた実情を彷彿させるのである。

また、向井氏が英文による筆談記録を公開されたことは、別な意味でわめて意義深いものがある。多くの日本人研究家が海外で通訳を通して取材した事を自分の語学力を駆使したかのように見せかけた記事を書く例が多い実情から見ると、失礼ながら当時英会話力が充分でなかったと思われる(今は達人であろうが)氏が現地まで出向いて筆談で立ち向かった姿勢は一種の快挙といえよう。熾烈な知識欲が奔流となつて溢れ出たこの対談録は貴重な記録であり、書物だけの研究でなく現地の取材が根本的に重要であることを痛感するとともに外国語の重要性を改めて認識させられる資料である。

★新アダムスキー全集大好評

今春四月より刊行が開始された新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』が大好評裡に迎えられたあとに続く第二弾として第二巻『超能力開発法』が五月に発売された。これは旧版の『テレパシー開発法』を改題し訳文を改訂して読みやすくしたものの。六月には『二一世紀・生命の科学』が発行され、以後ほとんど毎月各巻が順次刊行される。詳細については本号51頁の広告を参照し、不明な点は出版社（中央アート出版社）へ直接照会されたい。

★各地支部大会終了

本年度各地支部大会のうち、第一回南九州支部大会、第一回仙台・山形合同支部大会、第四回長野支部大会はそれぞれ大成功をもって終了した。詳細報告は本号42頁から三頁にわたって掲載されている。これで秋田支部大会を残すのみとなった。

★秋田支部大会を開催予定

来たる一月三日に秋田市の秋田県社会福祉会館で盛大に開催されて有終の美を飾るので多数出席されたい。詳細は本号45頁。

★UFO写真展

※なお来年度支部大会の先陣として第一二回山形・仙台合同支部大会を五月の三連休に山形市で開催すると山形支部より申し込みがありました。

展は次の各支部が健闘して多大の成果をあげた。

(1)青森支部UFO写真展
青森市のサンロード青森にて四月一日より一五日まで二日間、入場者数一四〇五〇名。

(2)栃木支部UFO写真展
宇都宮市の栃木会館にて五月三日より五日まで三日間、入場者数一一四〇名。

以上の詳細は本号13頁に掲載。

★新潟支部主催UFO写真展
来たる八月一日より一四日まで四日間、新潟駅前のデパート『プラカ新潟』『ゆーとびあ』ホールにて開催の予定。多数出席して援助されたい。

★テレパシーコールUFO観測会
予告どおりUFO観測会を去る六月九日に静岡県富士宮市の朝霧高原で実施。当日は土砂降りの雨という最悪の気象条件下を全国から集合した多数の会員で熱心に観測を続けたけれども、成果が上がらず、翌朝三時半に解散した。今回は集合しやすい場所を検討して盛大に開催したい。日時は未定。

★今年度日本GAP総会
今年度年次総会は来たる九月二四日午後一時より東京銀座七丁目の『銀座ガスホール』で実施するので多数出席されたい。詳細は本号47頁。

★会長、デンマークで講演予定
日本GAP久保田会長は今年一〇月一七日、デンマーク、コルディングの

ホテル『スカンティコン』大ホールで開催されるデンマークGAP大会に主賓講演者として招待を受け、一四日、随行者三名とともに出発する。大会は一七日夜行なわれ、会長はアダムスキー問題と日本GAPの活動状況について二時間半、スライドを使用しながら英語で講演し、これをデンマークGAPの創立者で会長の盟友ハンス・ピーターセン氏がデンマーク語に通訳する。残り三〇分は質疑応答にあてる。帰国は二〇日の予定。随行者清水正、佐塚崇子、田中信代の三氏。

★東京月例会、八月度会場と日時を変更

今年八月度のみは定会場たる東京文化会館側の都合により会場を皇居北の丸公園内『科学技術館』六階第一会議室に変更、日時も八月のみ第一土曜日

の四日に変える。時間は午後一時半より六時まで。九月は年次総会開催月であるが、月例会も従来どおり上野公園内『東京文化会館』で第二土曜日の八日に開催。以上お間違いないように注意されたい。

★特別維持会員制

日本GAPは特別維持会員制度を設けている。これは久保田会長の八面六臂のGAP関係大活動により本職の文筆家としての仕事を手抜きになるため健全な生活運営を援助しようという趣旨にもとづいて本部役員により創設されたもの。維持会員には東京本部通信や本誌に掲載されない会長のエッセイなどが贈られる。参加希望者はGAP本部宛ハガキで申し込まれた。案内書と振り込み用紙をお送りする。



〔国内有力紙に掲載された科学記事を抜粋紹介。各記事末尾のカッコ数字は掲載年月日を示す。〕

磁石に吸いつくプラスチック

工業技術院科学技術研究所（茨城県つくば市）は、磁石に吸いつくプラスチックを簡単に効率よく製造することに成功した。原料となるのは、水道パイプに使われているポリ塩化ビニールなどの高分子で、磁性は常温でも失われず、コピーの材料や磁気遮蔽材料などへの応用が可能だと言っている。

軽くて強いプラスチックに磁性を持たせることができれば用途はさらに広がる。このため米国IBMやソ連科学アカデミーでも研究が行なわれていたが、磁性が低かったり、製造効率が悪いなど実用に耐えるものではできていない。

同研究所機能表面化学部の村田和久研究官は、触媒技術を応用。ポリ塩化ビニールなどの高分子化合物に活性炭を一〇対一の割合で混ぜ合わせ、一〇〇〇度で二四時間加熱するだけで高磁性高分子化合物を作ること成功。

この化合物は、原料六グラムから一・二グラムと高効率にとれるほか、磁性も鉄などの金属に比較すれば弱いものの、これまでには作られたものよりも強く、常温でもその性質を失わない、などの利点がある（2・3・30毎）。

月の表、裏、極を徹底探査計画

日本の本格的な惑星探査の第一歩として、文部省宇宙科学研究所（神奈川県相模原市）の理学委員会が四月五日、一九九五年度に月探査を実施することに決めた。六月の評議会で正式決定する。これまで提案されていた月、金星、彗星の三つの探査計画の中から選ばれたもので、

月の周りを回る探査機と、月面に打ち込まれるユニークな観測機器を用いて月の裏側や極地方まで観測し、月の内部の構造などを探る。米国のアポロ計画でも行なわれなかった観測だけに、海外からも注目されている。

理学委員会がまとめた原案によると、探査機は二、三日かけて月に到達、まず長楕円軌道に乗り、最終的には準極軌道に乗る。探査機が長楕円軌道にある間に、ペネトレーターと呼ばれるペンシル型の観測機器（直径一二センチ、長さ八〇センチ、重さ約一三キロ）を月の表、裏、極の三カ所に打ち込む。

ペネトレーターには地震計、熱流量計などを搭載、月で起きている地震の観測や、月の内部から出てくるエネルギーなどの観測を行ない、エネルギーのもとになっている元素や、地殻の厚さ、核の大きさなど内部構造を探索。月の周りを回る探査機にはデータ・リレー用の装置などを積み込む。探査機もペネトレーターも一年間観測を続け、データを地球に送る。

最も身近な天体である月は二〇年前の米国のアポロ計画で探査されたものの、この時は有人だったため、さまざまな制約があった。今回の日本の計画は一度に複数の場所に観測機器を設置でき、探査にかかるコストも抑えられるのがメリットだ（4・6毎）。

低温核融合肯定実験発表相づく

論議が続いている低温核融合に的を絞った初の国際会議が三月二九日から米ユタ州ソルトレイクシティのホテルで始まり、初日から「核融合が原因と考えられる大量発熱が観察された」とする実験

結果が相次いで発表された。

この会議は昨年三月、同地のユタ大研究者らが衝撃的な発表をしてからほぼ一年後に開かれるもの。米国、イタリア、日本などから肯定派を中心に約二〇〇人が出席した。

火付け役となったユタ大低温核融合研究所のスタンレー・ボンズ教授は発熱反応とその分析手法を初めて詳細に説明。最近の実験でも発熱量は少なめ見積もっても入力エネルギーの四〇倍で、化学反応の発熱レベルの百―千倍に達するとした。実験への批判に対しては厳密な統計的手法を駆使していることを強調し、長大な論文を近く発表することを明らかにした。

また、米カリフォルニア州のスタンフォード研究所（SRI）の研究者は約六〇気圧の重水素ガスを使った電気化学実験で数十万ジュールにのぼる余剰エネルギーが生まれたと報告。オークリッジ国立研究所（米テネシー州）の دونالد・ハッチソン博士はボンズ教授らの手法を用い、二ワットから九ワットの余剰出力が一五〇〇時間にわたって発生し、総出力は五百万ジュール以上にのぼったと発表した（3・30読タ）。

騒音は動脈硬化の原因？

激しい騒音に長時間さらされると、動脈硬化を進行させるコレステロールなどが血管の内壁に目立つて多く沈着することとを、日本医大第二内科・赫（てらし）彰郎教授の福生吉裕講師、神原礼文医師らがウサギの実験で初めて突き止めた。騒音が動脈硬化に結びつく可能性を示したこの研究結果は、自動車などの騒音に囲まれた現代人の生活環境に警鐘を鳴らすことになりそうだ。

動脈硬化は、血管の内壁に悪玉コレステロールのLDL（低比重リポたんぱく）などの脂質が沈着して、血管が弾力を失ったり内径が狭くなる病気。食生活の欧米化や運動不足などがもたらす現代病で悪化すると心筋梗塞などを引き起こす。

神原さんはウサギ一六匹で実験を行なった。うつ八匹は、六〇〇ヘルツ、一二〇デシベルという低音域でものすごく圧迫感のある音を二週間聞かせ続け、残りの八匹は静かな環境においた。いずれも高コレステロール食で育て、さらに騒音群、静寂群の各八匹の半分には抗ストレス剤も投与した。

実験終了後にウサギの大動脈壁を染色し、脂質が沈着して動脈硬化になっている部分の面積を調べた。騒音群で抗ストレス剤を投与しなかった四匹は、調べた内壁のうち六二匹の面積に脂質沈着があったのに対し、静寂群で非投与の四匹は四〇パーセントで、騒音群の方が五割以上も脂質沈着の面積が広がった。

血液中の成分分析では、騒音群の方がLDLはやや多く、動脈硬化との関係が同様に疑われている中性脂肪は二倍以上に増えていた。また、騒音群では血液を固まらせる働き的小血小板凝集能と血圧が上昇し、コレステロールが血管壁に付きやすくなっていた。臓器を見ると、騒音群で副腎が肥大し胸腺が小さくなっており、騒音により体がストレスを受けたことが裏づけられた。

実験でウサギがさらされた騒音は、人間だと一分間も耐えられないほどのものだったが、騒音が動脈硬化の一つの原因になることを実証できた（4・7毎タ）。

アメリカGAP発足!

坂本貢一訳
(完)

スカンディナヴィア旅行

パムと私は、年始め(一九八九年)から、六月に予定していたスカンディナヴィア地方への旅行計画を進めていた。その地方を訪れることが、私の長年の夢の一つだったのである。

ある日私は、デンマークの二人の友人に手紙を書いた。近年文通によって知り合ったデンマークGAPの友人達である。

滞在中にぜひお目にかかりたいと書き送ったのだが、彼らの返事は、この上なくうれしい誤算だった。

私はただ会えればいいと考えていたのだが、彼らは、それぞれの私邸に私達を招待してくれたうえに、デンマークに滞在のバケーション・プランまで念入りに立ててくれたのである。

さらに、コルディング(kolding)で開かれる予定の大きなGAP集会での講演を打診して来た。

私はもちろん、彼らの提案をすべてよろこんで承知した。

一九八九年六月一七日、パムと私はコペンハーゲンに飛び、市内のホテルで一夜を過ごしたあと、次の日早朝、国内便で西デンマークに向かった。

ハンス・ピーターセン氏

地方の小さな飛行場に下りると、そこには、ハンス・ピーターセン氏(退役空軍少佐、夫妻の姿があった。それからの三日間を、私達は彼らとともに彼ら所有のサマーハウス(夏期用別荘)で過ごすことになっていたのである。私はこの時を、今か今かと待ちこがれていた。

ピーターセン氏は、これまでの一八カ月間、私の本をデンマーク中に広めるべく、大変な労力を費やしてくれていたのである。彼は、王室、報道機関、教会、大学、軍隊、政党、科学者、著名人、国会図書館、出版社等の多くの個人や団体に、私の本を数多く送ってくれていた。

下に彼の二枚の写真を掲載したが、上が若い頃の写真で、一九五九年、彼がまだ空軍大尉だったころのものである。彼が指差している地図には、当時デンマーク国内でUFOが目撃された地点にピンがさされている。それらはすべて二〜三カ月のうちに目撃されたものばかりで、中には着陸した例もあったという。

一九五七年、彼は、科学的なUFO

研究団体である「スカンディナヴィアンUFO協会(SUFOI)」を設立し、またたく間に一〇〇〇人以上の会員を集めている。

そして、彼がジョージ・アダムスキーと初めて接触したのは、一九五八年の春のことだった。以後彼は、アダムスキーにとつて最も信頼出来るコワーカールの一人として、精神的な活動をつづけることになった。

一九六三年にジョージ・アダムスキーが彼を訪ね一〇日間を過ごしたのが、私達が今回邪魔した彼のこのサマーハウスである。

その滞在中にアダムスキーは、このサマーハウスからほんのわずかに離れたところで、ある金星人からローマ法王ヨハネ二三世宛の小さな小包を受け取っている。その小包はその後、彼がローマに向けて旅立つときまで、この家の戸棚の中に無造作に置かれていたという。

次の年の一九六四年、ハンス・ピーターセン氏はデンマークGAPを設立し、ニューズレター「UFOコンタクト」の出版を始めた。そしてそれは現在でも、やや小さめの英語版とともに出版されつづけている。

一九八〇年になると、海外の(特にヨーロッパ全土の)人々の情報交換活動がより多忙を極めてきたため、彼は国内のGAP活動を同僚の手に委ね、国際GAP活動を推進すべく、海外とのネットワーク(「リサーチ・アンド・コンタクト・ネットワーク」)作りに専念することにした。

ハンス・ピーターセン氏は、この分野の開拓者の一人であるとともに、現在においても世界の名だたるUFO研究家の一人として、大きな名声を博している人物である。

彼のサマーハウスに滞在中、私達夫婦は、有名な古城や自然の景観を彼の案内で十分に堪能することができた。



さらに、それにもまして素晴らしかったのが彼との会話である。彼は素晴らしい記憶の持主であるとともに、深遠なる議論の達人だった。特にこの分野（宇宙とUFO）のことになると、アダムスキー存命中の出来事から現在の状況に至るまでを完璧に知り尽くした上で、夫人ともども見事なまでの議論を展開したものである。

日本GAPを指揮する久保田八郎氏と同様、このハンス・ビーターセン氏もまた、ジョージ・アダムスキーがコワーカーとして個人的に選出した数少ない人々の一人なのである。

彼のサマーハウスに滞在中、私達四人は、連日夜がふけるのも忘れて語り合った。その間、野外で談笑中に、澄み切った夜空を飛行する二機の宇宙船が目撃している。

彼と語り合いながら、私は、彼と私には多くの共通点があることを発見していた。その一つが、自分の本心を包み隠さず言葉で表現するということである。これはかつては、すべての人間にとって当たり前のことであったが、現在そういう人間は極めて少なくなっ

てしまった。

さらに、彼もまた私同様、愚かな者たち（道を誤った一部の自称専門家たち）を決して喜んで容認したりはしないタイプの人間だった。

デンマークGAPの集い

六月二一日、私達は車でコルディングのホテル・スカンティコンに向かった。デンマークGAPの大会会場である。

ホテルで私達を迎えてくれたのは、現在デンマークGAPのリーダーを務める『UFOコンタクト』の編集責任者である、イブ・ラウルント氏だった。それが初対面ではあったが、私達は、過去二年間頻りに文通を交わしてきた旧知の間柄だった。

彼の尽力により、素晴らしい会場設定から、進行、前宣伝、新聞社への手配まで、その日の大会を盛り上げるための完璧な準備が成されていた。

大会（夜間開催）に先立って素晴らしいディナーパーティーが開かれたが、その席には、デンマークGAPのメンバーに混じって、ベルギーのアンドレ・ファン・ルーイ、西ドイツのマルティン・ブッシュマンといった国外の研究者たちの顔も見られた。そこで活発な会話と料理を堪能しつつ、充実した一時を過ごしたあとで、私達はいよいよ会場に向かった。

イブ・ラウルント氏の格調高い挨拶につづいて壇上になった私は、集まった多くの人々を前にして、ジョージ・アダムスキーとUFO、宇宙に関する真実を力の限り訴えた。ハンス・ビーターセン氏の通訳により、聴衆は私の話を極めて良く理解してくれたようである。

休憩時間の後には、やはりハンスの通訳により、スライド映写と質疑応答が行なわれた。特にスライド映写の場面では、ハンスが所有する月面の地球外宇宙船の存在と異星人活動の証拠を示す素晴らしい写真群も、彼自身の手によって紹介された。

その夜の大会は、私を含め多くの人々の意識を高揚させて、成功裏に終了した。イブ・ラウルント氏をはじめ、その大会を企画・進行してくれた多くの人々に深く感謝する次第である。

この大会は水曜の夜に行なわれたため、大会終了とともに人々は名残惜しそうに、明日の仕事のため家路に着いた。

イブ・ラウルント

この大会のあと、バムと私は車でコペンハーゲンに向かい、そこで車を借りて、以後、ノルウェー、スウェーデンをくまなく見て回った。

そして船で再びデンマークに戻り、デンマーク国内をさらに観光して回ったあと、最後の三日間は、ルンデに住むイブ・ラウルント氏のお宅で過ごさせていただいた。この訪問もまた、私達夫婦が心待ちにしていたものであり、当然のことながら、今回の旅の大きなハイライトの一つである。

ラウルント夫妻もまたビーターセン夫妻と同様、私達を手厚く迎えてくれた。ラウルント夫人の料理の腕前は相

当なもので、並べられた伝統的なデンマーク料理の数々に、私達は感激して舌づみを打ったものである。そこに滞在中私達は、かの有名な町リーベをはじめ様々な景勝地に案内され、素晴らしい思い出を作ることが出来た。

そしてもちろん、私達は様々な会話を延々と交わしたが、それを通じて、デンマークGAPのリーダーとして、また『UFOコンタクト』の編集責任者として、彼がこれまでになし遂げた業績の偉大さをあらためて認識した次第である。

彼はニューズレターとはまた別に、私の本の内容をデンマークの読者達に紹介するため、『近隣惑星群における生命存在の事実』という題の特別な出版物も発行していた。

世界GAP大会の開催に向けて

ラウルント氏との最後の議論は、世界中のGAP活動家が一堂に会した盛大な集会を、定期的に、出来れば毎年でも開催できないものだろうか、というものだった。

それが近い将来現実となることを、私は強く信じている。

日本GAP、およびデンマークGAPは、すでに素晴らしい活動をつづけて来ており、今や、我々アメリカGAPもそれに追従すべく産声を上げた。各国のGAPがより親密な協同関係を築き上げることを願うものである（完）。

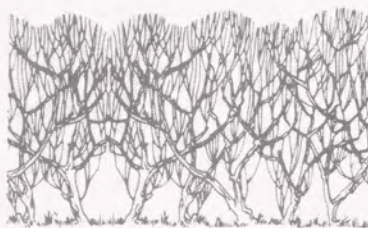
●デンマークGAP大会

◀一九八九年六月二日、デンマーク、コルディングのホテル「スカンディコン」で開催されたデンマークGAP大会。上は大会に先立って行なわれた夕食会。右列手前がイブ・ラウルント氏、その右隣りがダニエル・ロス氏。下は同ホテル大ホールで講演中のダニエル・ロス氏。

撮影／バメラ・ロス



◀デンマークGAP会長イブ・ラウルント氏。ルンデの自宅前にて。



UFOs and the Complete Evidence from Space
by Daniel Ross Translated by Hachiro Kubota

UFO 宇宙からの 完全な証拠

金星、火星、月に関する真相
●ダニエル・ロス／久保田八郎訳

連載第12回

第10章 金星—我らの姉妹惑星

極秘にされた解説結果

金星の雲で包まれた大気圏がその惑星の空なのである。この雲の構成は何かの大気レベルまたは地域に見られる固形の毛布のようなものではない。そこには少数の雲の層があり、それらは密度と外観が異なるのであって、やがて金星の地表上空四八キロの高度で突

然の切れ目が出る。

この空は可視光として現れる太陽の電磁スペクトルを遮断しないが、地球の大気よりも効果的に各種の宇宙線をさえぎるのである。

その地表上空一六キロの高度にまで伸びているのは、対流圏と呼ばれる大気の底の層で、金星の大気のかたまりの九〇パーセントはこの地域に含まれており、地球の大気に見られるのと同

じ酸素と窒素を含んでいる。二酸化炭素は金星の大気にきわめて少量しかない。

この地域では普通の気候に見られる雲や風などが活発に発生しており、地球と同じような気候を生ぜしめている。表面の温度と気圧も地球のそれに似ている。金星の自転周期も地球のそれに似ており、地球の二四時間に比べて長さは一日が二六時間である。

アメリカとソ連の宇宙開発関係最高責任者は、一九八〇年に先立って金星に着陸した探査機から以上の情報のすべてがまたは殆どを確定した。直接に入ってくる信号と記録が解説されて極秘にされたが、一方、ごくわずかな情報だけがレギュラーのプロジェクト科学者団に伝えられた。金星大気の外側近くでとらえた観測機による期待どおりの記録類とともに伝えられたのである。

科学者達に正確に伝えられた記録データの殆どは、金星表面の諸状態について見当はずれなものだった。対流圏の底の位置におけるパラメーター（訳注：関数に含まれる定数または変数の一種）は着陸した探査機によって確定されたにすぎない。気圧と表面温度に関する真実の発見事は絶対に公表されなかった。こうした諸状態に関する偽りの解説結果が探査機の打ち上げごとに公表され、代わって既成の概念に正しく適合する声明が出された。これは

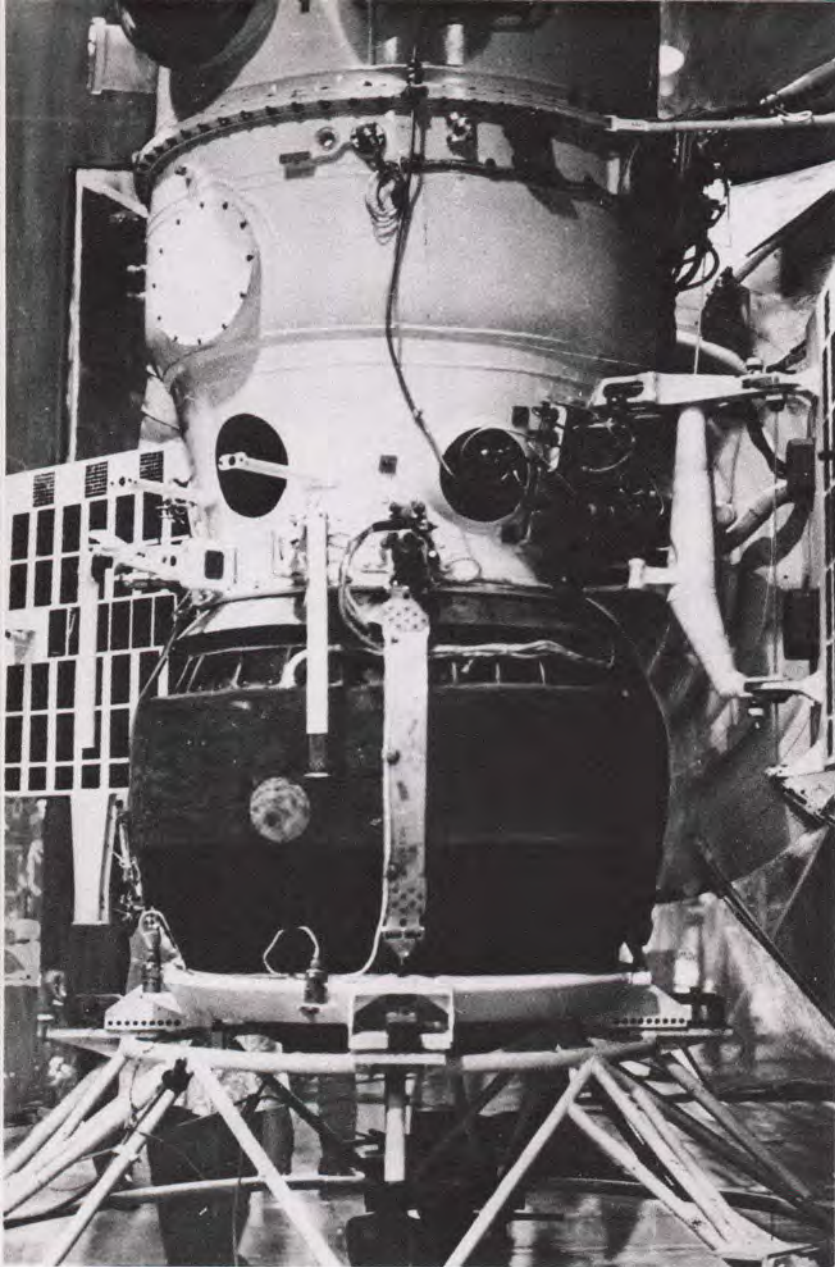
最初からあらかじめ作られていたものである。

トップの高官達も、着陸した探査機からどのような記録を望もうとも、右以外の方法では得られないことを認めている。他の誰もこれらの秘密の信号を伝えられたことはなく、ジェット推進研究所のプロジェクト科学者さえも知ってはいない。これらの科学者は各種の声明、中継ぎされ修正された情報（二次的なもの）、期待どおりのデータ取るに足らぬ記録類、あらかじめ確定された解説結果、コンピュータによる分析等の混ぜ合わせたものを受け取るのだ。それは概してパッケージ・プログラムである。

一九七五年以来、ソ連は六個の探査機を金星に打ち上げたし、アメリカは二個発射した。この章のあとの部分ではこれらの探査機に関する情報をコメントとともに掲げたい。詳細を調べるために多数の科学記事や新聞切り抜きを参照した。しばしば科学関係の文筆家は自分の書く報告を客観的に述べているように見えるが、金星の気圧と温度の矛盾に気づくようになるまではどんなに論じても本当の価値を殆ど与えることはない。

ソ連の金星探査機の正確な情報

一九七五年六月以来、ソ連は二個の宇宙船を金星に打ち上げた。四カ月後、



▲ソ連の金星探査機ベネラ4号の自動ステーション。写真提供APN

二個とも金星を回る軌道に乗り、両方とも地表へ着陸探査体を降ろした。ベネラ9号、ベネラ10号と名づけられたこの探査体は、二二〇〇キロ離れて軟着陸し、金星表面の最初の二枚の写真が撮られて地球へ送り返された。両探査体とも金星表面で約一時間作動したと報告されている。

二個の着陸地点は或る地域の北東と南東の境目で、地球のレーダー研究により、現在はベータ地域であったとき

れている。

送信された写真のいずれも各着陸地点が日光を「浴びて」いる光景を示していた。

アメリカの科学者、特に金星の理論的な（密度）大気があまりにも暗すぎて何も見えない上に、かりに着陸体が自分の照明装置を運んだとしても、撮影されるいかなる写真もひどく歪められて、地平線はあたかも大きな碗の中心から見渡すかのごとくに上方に向かっ

て曲がって見えるだろうと信じてつづけていた学者達に大打撃を与えた。しかしこんな理論はベネラの写真によって証明されたように違っていたのである。また金星探査機は、金星の風景は風と熱の浸食によって引き起こされた砂漠であろうという説も打ち破った。或る地域で鮮明に見られたのは、鋭くとがって角張った若く見える岩石である。ソ連の探査機打ち上げ責任者であるボリス・ネボクロノフは次のように述

べている。

「この写真は金星に関する我々の概念のすべてを再考させるものだ」

二個の着陸体から得られたガンマ線の分光結果によって、岩石だらけの地表はカリウム、トリウム、ウラニウムを含んでいることが示された。これは玄武岩の岩石を構成するものである。このデータからソ連当局は、金星の表面は地球の地殻と構成が似ていると述べている。

また彼らは、太陽風を伴う金星の上層大気の相互作用に関する多量の情報を得たと言い、また金星の雲の覆いは宇宙船に乗った観測者の目には「かすかな霧」として見えるだけだろうと、付け加えている。最終的な評価では、人間は金星の雲の真下にある物を発見するための入口まで来ているということになった。

一九七八年、アメリカの宇宙開発は二個のバイオニア宇宙船でもって金星の謎を解明する最初の本当の機会を得た（これはアメリカにとって最後の機会でもあった。というのは、これに続く探査機の打ち上げは行なわれないからだ）。

バイオニア計画の探査機は金星の電離層をつらぬいて地表に激突するように作られていた。技術の欠如のためにソ連の軟着陸の成功を許したアメリカは、探査機を地表に激突するように設計したので、そのためにカメラを搭載

していなかった。アメリカの希望は、金星の雲の下から二、三の観測器による記録を得ることが基盤となっていた。

金星の環境について何かの理解を得ようというこの限られた試みでもってさえ、いかなる結果が出たにしても、実際には事実に基づくものにはならないだろう。というのは一九七八年までは金星に関するドグマティックな諸説が科学界内で頑固な信条になっていたからである。

いかなるタイプのデータといえどもオーソドックスな見解の枠内で解釈された。われわれは彼らの報告を吟味するときに、このことを心に留めねばならない。そして（再度言う必要があるだろうか？）金星の表面温度と気圧に関するどのような解説結果といえども、コントロールされている職員によって厳重に護られており、その職員達が記録用におきまりの偽データを出すのである。

科学者が出すつまらない声明

二機のバイオニア宇宙船はその目的に関して完全に異なる機能を有していた。バイオニア1号はオービターであり、二月四日に金星に接近してから六四〇〇キロの距離でその惑星を回る軌道に乗った。

バイオニア2号は着陸探査機を運んでいたために輸送「バス」と呼ばれた。

それは五日遅れの二月九日に金星に到達している。

バイオニア1号は遠い軌道から数百枚の写真を送り返し、そのために科学者は大気上層部の雲の流れを調べることができた。写真類は変化する雲のパターンを詳細に写し出しており、金星の雲は約四日間での惑星を一周することを確認した。その後、ある時点でバイオニア1号は地球からの指令信号によって、うんと低い軌道に乗るように向けられた。レーダーによる金星の広汎な地図を作成するために、この段階の探査は数カ月つづいた。

ときどきこのオービターは金星に四二キロも接近したことがある。低い軌道に乗りながら、バイオニア1号は金星の地表近くの空中に雷光が発生するのを検出している。これは地球の大気中に見られる嵐の雷光に似ていた。（このことは同じ月に金星表面に着陸したソ連の探査機によっても確認されている。この探査機の記録によると、この雷光は地表上空五キロないし一〇キロの高度で起こっていることを示した。探査機は大きな音響をも記録したが、これはソ連の宇宙科学権威者によってカミナリと解釈されている）

一九七九年二月、バイオニア・オービター1号はベータとして知られる地域を調査するためにある軌道に乗せられた。これは一九七五年にソ連の探査機がすでに着陸した場所であり、着陸

船はこの地域が火山岩で成り立っていることを示した。

一方バイオニア1号の観測装置による最初の記録は硫黄を検出し、この地域上空の大気上層部には硫化物の小滴があることを示した。唯一の問題点は、これにより科学者が金星の大気をすぐに有害な硫化物に満ちた大気だと決めつけてしまったことにある。このために金星の大気全体がそんなものだという印象を与えてしまい、つづく五年間はおおやけの報告も有毒な大気という強いイメージを伝えつづけたのである。

ついに一九八四年二月、NASAのエイムズ研究センターが出した研究結果により、金星のベータ地域の一火山が、セントヘレナ山よりも強い力で一九七八年に爆発し、金星の大気に硫黄を高く吹き上げたのだと発表した。この爆発はバイオニア1号がこうした構成物質を検出した真実の理由であった。五年間も金星のその地域の高空で硫化物の集中がしだいに衰えたとなさAは公表したのである。

この調査研究の結果、これは地球の火山活動に全くよく似たものだということになった。その場合、膨大な量の硫化物を含むガスが爆発中に大気中に放射され、つづいて数年間にゆつくりと拡散するのである。

以上のことから、一九七九年の初期の結果に関して学べきレッスンがある。これは完全な状況を把握しないで

科学者がいかに物事を急速に結論づけてしまい、それが長い年月の間に大衆の心に間違ったイメージを無責任に植えつけるかということの生きた実例である。

科学者というものは、われわれが現在まで探査機から送り返された情報の内、ほんのわずかな情報だけしか受け取っていないということを認めることができないらしい。しかも彼ら科学者もほんのわずかな情報だけを頼りにして、つまらない声明を出しつづけているのだ。

この態度は彼らの職業に似合っていると思う。科学界で自分の地位を確保するためには、彼らは絶えず論文を発表しなければならぬ（そしてコンセンサスに忠実であらねばならない）。だからこそ人々は科学関係の書物で多数の学説にでくわすのだ。ただしその多くは読まれないけれども——。もちろん私も自分の研究のために多くのこうしたタイプの科学記事を読まねばならない。実際、それは人をうらやましがるような仕事ではなかったが、人々の意見がどのようにして形成されるか、その起源、すなわち情報源は何か、というようなことを知るためには必要であった。

自転周期のカギとなった大溪谷

バイオニア1号によるレーダー地図

作製は一九七九年に完成した。そして金星地表の高地と低地の地理学的な立体地図がNASAの科学者によって描かれた。これはソナー（水中音波探知機）によって地球の海底の広範囲な地形の特徴を特定する作業と似ているだろう。海底の山や谷が、こうした特徴を物理的に見ることなしにソナーによって突き止められるのだが、これはパイオニアが金星の広汎な地表の特徴を地図化するのと似ている。

金星上の著しい発見の一つは、赤道付近の一四四〇キロの長さを持つ大溪谷である。これは五キロ前後の深さと二四〇キロの幅があると見積もられた。その大きさは地球の中部太平洋海溝や火星のヴァレス・マリネウスと呼ばれる地帯に匹敵するものである。

これより三年前、カリフォルニア州ゴールドストーンから地上基地のレーダー探索により、この大溪谷はすでに発見されていたらしい。この探索に関する新聞記事は私は持っているが、次に掲げるのは一九七六年に出たジェット推進研究所の報告の抜粋である。

「金星で見られる最も驚くべき特徴はその惑星の赤道に沿って存在する巨大な海溝のような溪谷である。その長さは一三六〇キロ、幅は一四五キロ、深さは一・六キロ以上もある。この大溪谷は火星のヴァレス・マリネウスや地球の東アフリカの割れ目地形に著しく似ている」

しかしながらパイオニア・オービターによる地形図作成にあたった科学者達は、前記の二種類の探索によって異なる二つの大溪谷が発見されたのだという絶対的な確信を持っていると表明した。というのは彼らの宇宙探査機は、それ以前のレーダーによる「表側」の探索を行なっているあいだ、金星の目に見えない「裏側」を探索していたからだというのだ。

金星の自転が極端に遅いという説によれば、地球と金星が太陽と一列に並んで互いに最も接近したときは、金星の同一面が常に見えており、その持続期間中は同じ「表側」が見えつづけるという。したがって地球からのレーダーによる探索中は、金星の「裏側」は見えないはずである、とNASAの科学者は言う。

私はファイルから二種類の報告を取り出して、パイオニア・オービターによる金星の完全なレーダー地図をチェックしてみた。この金星のグラフィック立体図はサイエンス・ニューズ・マガジン誌の一九八〇年九月一日号に掲載されたものである。

結局これで次のことが分かった。実際にはゴールドストーンのレーダーによる探索もパイオニアの探索も同一の大溪谷を発見したのだ。そしてもっと重要なのは、それが同一の溪谷であったために、（間違った）「遅い自転」説に対して大打撃を与えたのだ。

われわれは金星の本当の自転時間を知らなければ自分がどの「側」を実際に見ているのかは全く分からない。だからこそパイオニア担当の科学者連は最初に別々の大溪谷を発見したと思っただのだ。だが実際に、もしその大溪谷がパイオニアのいわゆる裏側に正しく位置していたとすれば、ゴールドストーンのレーダー科学者連も一九七六年の短期観測期間中に金星の両面を見ることが出来たということになるだろう。これは二四三日の自転説に従えば不可能なことである。

問題の一四四〇キロもある大溪谷の位置をチェックしたいと思う人にとって、それはサイエンス・ニューズ誌のカラー立体図の経度一七〇度、南緯二〇度の位置にあり、ダリ・チャズマと命名されているのが分かる。ゴールドストーンとパイオニアの両方のレーダーによる探索は大溪谷の位置を詳細に伝えているので、地図上の他の特徴ある地形と混同してはならない。

パイオニアの報告は大溪谷が赤道の南約二〇度の地域にざっと東西に走っていると伝えている。一方、先に行なわれたゴールドストーンの報告は大溪谷が赤道付近にあると言い、さらに南に向かってシャープな形をした幅の広い円形の特徴を示すことを発見したと称して、その位置を突き止めた。これは（パイオニアの）グラフ上でアルテミス・チャズマと名づけられている。

以上の二種類の探索によって同一の大溪谷が発見されたことが明白になったとき、古い自転説はただちに科学者連によって疑問視されるようになった。しかし私は、大溪谷の位置に関する初期の誤りが根本的に間違った自転説のためであったことを、どこで科学者が認めたかは知らない。その矛盾は都合よく忘れられたのだ。

宇宙線が電子部品に影響を与えたか？

パイオニア・オービター1号の問題を結論づけるに際して、その一九七八年の宇宙探査計画の他の半分を吟味してみよう。

パイオニア2号は二月九日に金星へ到着した。この宇宙船は接近するにつれて五種類の機構を作動させるように計画されていた。金星大気突入して調査するためである。

報告によれば、長さ二・四メートルのドラム缶型輸送用「バス」は予想どおり大気突入後すぐに燃えたが、他の四種類の探査機器は約二〇〇キロの高さから五秒後に金星地表にそれぞれ着陸したという。各機器の着陸地点は広く離れてしまい、そのうちの一つだけが地表からデータを送信することができた。報告された。全部の観測機器が急速な降下中にながしかの観測結果を送り返したが、サンディエゴの新聞によると、五種類の観測機のすべて

が完全に作動した」という。技術と軌道修正は完全に行なわれたけれども「科学的な解釈」は同じ高尚な記述とどうしても一致しないのである。

パイオニア2号が金星に到達したとき、金星は地球から五四四〇万キロ離れていた。輸送バスは大きくて重い二個の分光計とガス色層分析計を積んでいた。二分間の下降中に四八〇キロから一二〇キロにわたる大気を急速に分析するためである。一個の分光計は大気の成分の密度を測定し、他の機械は金星の電離層内の物理化学的作用を特定するように作られていた。

電離層内の作用は太陽風の影響と関連がある。太陽風は太陽から放射される各種のガスの流れであり、荷電粒子でもって諸惑星を直撃する。ガス色層分析計はたぶん一二〇キロ付近の金星大気の中間点からとったと思われる記録を伝えた。

金星大気に入力する際に輸送バスから分離した四個のパイオニア観測機器は、五五分間の突入期間に全部生き残ったらしい。その内の最も大きな機械は降下の一部でパラシュートを用いて金星の昼の側の赤道付近に着陸したが、着陸と同時に電波通信は途絶えた。

他の三個の装置は小さくて同一の構造になっていた。パラシュートを用いなかったが、それらも五五分後に地表に激突したといわれる。その一個は北半球の極地帯付近に着陸した。二番目

の装置は昼の側の南半球に降下し、三番目は夜の側の南半球に着陸した。

四個の観測機器のすべてが大気の構造、雲の分子、熱分布等を測定するための科学的な装置を搭載していた。

分速三・二キロという急速な突入のあいだに、いかに正確な観測記録が得られるかは推測の問題である。しかしNASAの科学者連はそのデータを急速に分析し、雲、風、その他の「特徴」について公表した。彼らはその観測記録類が全くの正確なものではなかったかもしれないことを認めた。観測機器類を直撃する宇宙線が各装置の電子部品に影響を与えたと思われるからだ。

報道陣に最初の報告を伝えた後、この探査に関する最後の結論は、すべてのデータが分析されるまで出されないだろうと科学者団は述べている。

四個の観測機器は激突後は機能を果たさないものと思われていた。しかし一個の装置が機能したという事実は、NASAによれば驚くべき発達であった。NASAによれば昼の側の小さな観測機は、着陸後六八分間強い信号を送信しつづけたという。この「発達」は彼らの最新の（そしてしばしば繰り返された）金星地表状態に関する主張に正当性を与えたいらしい。他の三個の観測機は激突時に死んだと報告されている。

欺瞞宣伝に「役買ったヒューズ社」

パイオニア探査機を設計製作したのはヒューズ航空機会社である。同社は自社のため的大がかりな促進広告用としてこの探査プロジェクトを利用し、次のような大見出しを出した。

「探査は果たして不可能か？ これはヒューズ社のためではない」

同社の広告どおりの仕事は、金星の焦熱の温度、押しつぶすような気圧、硫化物の雲などに耐え得る宇宙探査機を建造することにあつた。そこで探査機は一平方インチにつき一四〇〇ポンドの圧力に堪え得る特殊なチタンの胴体を持つ耐圧船として建造されたのである。この圧力は地球の海の九〇〇メートルの深さにおける水圧に等しい。

もちろんこれはNASAのプロジェクト職員を含むあらゆる人が信じるように仕向けられた事である。NASAはこのような要求をしつこく主張したのだ。しかもそれは上層の雲の下で探査するように計画された唯一の米国製金星探査機なので、誰もNASAの技術者がこの設計を要求したと思うだろう。しかし彼らは貧弱な設計明細を出しておきながら金星地表に関して例のごとき数字を公表することができのだからうか。

実際はそんな事を解決するのに多くの感覚を必要としないのだ。探査機の

成功は設計しすぎの部分によって邪魔されることはないだろう。実際にはヒューズ航空機会社と連携したNASAの計画に対して見落としてはならない「おまけ」があつたのである。

金星の大気を生き抜くための部品類を製作するのに自社の技術をうるさく宣伝したヒューズ社の促進広告は、金星に関して大衆に誤った観念を植えつけるのに絶大な役割を果たしたところだろう。

ソ連は金星の知的生命体を知っていたか？

しかしここで金星着陸船によるソ連の成功を考慮することは全く暴露的であるかもしれない。一九六七のベネラ4号にさかのぼるソ連の初期の探査機は、アメリカのような頑丈な設計明細でもって作られたものではない。しかもそれらは金星地表に到着後、いくらかの情報を送信することが出来たのだ。

ソ連はNASAよりも一一年も早くもろもろの業績をあげ始めたとき、特殊な過剰設計のチタンの船体などを必要とはしなかったのである。たしかに、もしあのように苛酷な条件が金星表面に実際に存在するものならば、ソ連のはるかにもろい探査機は瞬時にして機能しなくなるだろう。そうになると、なぜNASAは特殊なチタン製探査機を契約し、促進したのだろうか。人の反

対を無視するようなこの問題の核心は、「計画を遂行せよ」であつたと思われる。

パイオニア2号が金星に到着してから二週間後に、ソ連のさらに二機の探査機が軟着陸して、金星表面に関する知識をかなり広げた、とニュースが伝えた。ベネラ11号は九五分間にわたつて情報を送り返したし、ベネラ12号は一一〇分間送信した。どちらの着陸船も写真撮影装置を搭載していたが、しかし写真類はソ連政府によつて公開されていない。

ベネラ11号も12号もヴラディミール・レーニンとソ連国旗の浅い浮き彫りの額を運んでいる。NASAが公表したように、もし金星の九〇倍もの気圧と高温、それに腐食するような環境の中に入れば、あらゆるものが完全に破壊されるといふのに、ソ連がこのように慎重に準備された金のかかる余分の物を送り込めば、センスのないことになるだろう。それはあたかも偉大な画家に美しい絵を描かせて金を払い、あとで焼却炉にその絵を投げ入れてしまふようなものだ。

結局、ソ連の探査機に特別な額類を搭載したのは、次のような結論を強力に示唆しているのだ。

「ソ連の宇宙開発計画の裏には、こうした人工品が長期間保たれることと、彼らの着陸船は金星上の知的生命体によつて発見されるだろう、という真実の

信念が存在しているからである」

学説第一主義の米科学界

アメリカの惑星探査が完全に停止していたあいだ、ソ連は金星の調査を続行した。ソ連人は地球へ来るUFOのホーム惑星を探求しようという動機に間違いなく駆られていたのだ。

一九八二年三月、別なソ連の惑星探査がベネラ13号と14号によつて金星への旅を完了した。それらの各着陸船は二時間以上も信号を送り返した。(これで金星に着陸したソ連の探査機は合計一二機になる。あとの八機はすべて軟着陸している)

この13号と14号はいずれも金星地表の土を集めて分析する装置を積んでいたし、また各着陸船はカラー写真を撮影できる一対のカメラを搭載していた。報告によれば多数の写真が撮られたというが、アメリカの科学者には予備的な発見物に関する大ざっぱな報告と共になつた一枚の写真が公開されたにすぎない。

真実の決定的データが不足していることは、アメリカの科学者にとつて問題にはならない。彼らは常に多量の理論を急いで公表したが、スポンサー付きの(ついでに費用の支払われた)学会に出席し、宇宙科学開発の「最新の報告に従つて、自分達の長く抱いていた信念を再度論じたいのである。」

惑星の環境に関する科学論文を注意深く分析してみると、結局、学説第一主義にもとづいていることが分かる。うすつべらな筋道の立たない「新発見」が組み入れられているのだ。これは知識のない人にはきわめて権威があるかのように見えるが、知識のある宇宙研究家には退屈な立証できないたわごとにすぎない。

科学的見地からすれば、われわれの宇宙関係情報は一周して元にもどつたのである。金星への探査機は、一九六二年のマリナー2号から一九八二年のベネラ14号に至る二〇年間に、さまざまな注意を喚起してきた。わが地球上空のUFOは、一九四七年から一九八七年までの四〇年間に永続的な注意を浴びてきた。しかも彼らはまだここにいるのだ。

宇宙の発見事や惑星の情報の背後にひそむ真相を自分で究めるのは個人にまかされている。

次のことが理解されねばならない。権威者は真相をばかすための多くの理由を持つていなければならない。そのすべては別な惑星の生命の存在を否定する学説を支えることが政治的、経済的に都合がよいという考え方に関連している、ということだ。いかにそれが間違つていようと、科学的に一致していなくても、だ。

われわれが何も隠すべき事がなくなつたときに新しいリーダーシップをになう世代を迎えるまで、そして過去の学説のつまつたカバンと完全に訣別しようとする新しい世代の科学者達を迎えるまでは、宇宙の諸状態を充分に理解するのに必要な知識を確保する方法はないかもしれない。

金星は地球と同じ環境?

金星に関して否定的な間違つたイメージが流れ、あまりにもしばしば繰り返されてきたために、それが大衆の思考パターンの中に「認められた事実」となつたからには、この章の中で少なくとももう一度金星に関する真実の記述を繰り返すべきであると感じる。そしてもし口外することが自由であるならば、政府の惑星探査に関係のある人達は以下の情報をきわめて容易に確認できるだろう。

金星の大気の上層部は大空である。この雲の多い状態は大気レベルまたは層の中に見られるような濃密な毛布ではない。この大空は可視光として現れる太陽の電磁スペクトルをさえぎらないが、地球の大気よりもっと効果的に有害な宇宙線を遮断しているのである。金星の地表に最も近いところに生命を維持する対流圏がある。金星の大気の九〇パーセントはこの地域に含まれている。これは地球の対流圏に見られる酸素と窒素から成る大気の構成と同じである。(46頁へ続く)

Letters

ユーコン広場



素晴らしい南九州
支部大会

鹿児島市 曾我部くみ子

南九州支部大会が開催されてから
早いもので一カ月目に入ろうとして
います。薩摩会として発足しました
のが昭和六二年の二月六日でした。
それから約二年五カ月を経て第一回
南九州支部大会開催の運びとなりま
した。みんなで協力して一つの事を
成し遂げてゆくということに、すご
く意義を感じました。

久保田先生と遠藤さんの講演を
この鹿児島で拝聴出来たことは
本当に夢のようです。「翔ぶが如く」
の放映も重なってということもある
でしょうが、西郷さんの話題も豊富
に語られて、とても興味深いもので
した。夕食会、二次会、市内観光も
とても楽しいひとときでした。ゆつ
たりとした気分が過ぎることが出来
て幸せそのものでした。

GAPの会合に出席したときには
いつも高い波動に包まれて、いつも
の自分とは全く違います。ふだんも
この良い状態を保つことが出来れば
と思います。

今日、五月二〇日(日)のこちら
の月例会はとっても活気に満ちてい
ました。オーラ透視の練習などはす
ごく楽しい気分が出来ました。これ
からも一生懸命頑張りたいと思いま
す。お礼の方が遅くなりましたが、
今回の支部大会におきましては本当

投稿歓迎字数を問わず。匿名発
表可なるも住所氏名明記のこと。

にありがとうございました。今まで
と変わらなくよろしくご指導のほど
をお願い致します。

キーホルダーを

岡山市 金政健智郎

アダムスキー氏の思想や哲学に触
れて、少しずつながら私なりに理解
するほどに氏の哲学や思想の深さ
というものをとても強く感じていま
す。そしてこの思想は私たちを大変親切
に、しかも美しい言葉でもって、あ
る一定方向へと導いてくれているの
ですね。もし思想に射距離という
ものがあるとすれば、氏の思想の到
達地点は――?

そしてこの中心へ向かっての射程
の正確さと深さには自分の無知を思
い知らずです。ですから同時にす
っともつと知りたと思うわけです。
そしてこの思想は「知識の貯蔵庫の
錠をあけるカギ」とも呼べるもので
しょうね。当然、このカギでもって
ドアをあけて中を覗いてみたいと
思っています。

さてさてここまで書いて悶いたこ
とがあります。それは「カギ」とい
う部分のことについてですが、この
「カギ」と聞いてキーホルダーを思い
浮かべるのは変でしょうか。そう、
GAPグッズとしてGAP特製キー
ホルダーを作って欲しいと考えた僕

はどこか変でしょうか。

毎号毎号UFO contacts誌に見
る美しいデザインには「久保田美学」
とも呼べるものでつらぬかれている
ようです。このセンスでGAPシ
ンボルマークなどがついた素敵なキ
ーホルダーを作って欲しいのです
が――

このキーホルダーには私達の地上
の生活にとても役立っている幾つか
のキーと、目には見えないけれども
偉大な力と英知を持った「天国への
ドア」をあけるもう一つのカギが
付くことになるでしょう。

この世に比類のない書物

米ニューヨーク市

ティビッドウィッツ邦子

いつもUFO contactsを楽し
読ませていただいております。その
後はお元気で過ごさしめるよう当方
もうれしく思います。

久保田様の訳されたアダムスキー
全集は、読めば読むほど内容の深さ
に圧倒され、この世にこれ以上の本
はないのではなにかと思われま
す。本当にこの本を我々に紹介され
たの意義には測り知れないものがあ
るのではないかと思います。本当に
ありがとうございます。

テレパシーでUFOを見る私

東京 松葉佳子

私は東京月例会出席三度目の今日、
五月一日、日本GAPに入会致し
ました。今年一月一日、一本の電
話で、長い年月をこの道一筋に活
躍なさっている久保田先生とGAP
の存在を友達から聞きました。
それと同時にアダムスキー全集を

私は読みつづけて、いまでの人生
の中でこんなに夢になった覚えが
ないほどに時間のたつのも忘れて、
驚きの連続で、本誌、友達との電話
等、読むもの、聞く物、見る物、聞
く事のすべてにこの数カ月を過ごし、
あまり夢中になって本を読みあさ
つたため、ある日、右目の上まぶたが
真っ赤に腫れ上がり、眼科に駆け込
みました。

その後少し冷静になったところで
友達の家で初めてUFOを見たので
す。本当に素晴らしい体験をしまし
た。

三月の春休み、朝からUFOのこ
とが頭から離れません。書物ととも
に私の頭の中で少しずつ宇宙問題、
アダムスキー哲学、GAPでの皆様
の活躍がジワリジワリとこの初心者
の体のすみずみに浸透するのが分か
りました。さまざまな事を教えられ、
伝えられ、知らされ、自分の体の中
に栄養素となつて、宇宙の意識と調
和する姿勢に努力してみたいと思
つたのです。

月に一度の月例会が待ち遠しく、
友達にもアダムスキー全集を読むこ
との意義を伝え、もつと知り
たい、見たい、聞きたいという欲求
は日を追うごとにまじまじとあ
りました。

四月六日、午後七時二〇分、玄関
のドアをあけ、テレパシーでUFO
を呼び寄せてみようと思つてしま
した。空のよく見えるところに立ちま
した。回りを少しウロウロしました
が、でもなんとなく木の陰に立ち、
東の空を見ていると、桜の花の隙間
からオレンジの強いビームが私の目
の高さの所で、「ここだよ」と言わぬ
ばかりに光っているのです!

本当にびくつきして、思わず子供
の名前を呼びました。ジッと動かな
いオレンジのビームは、ゆつくりと
左の方に移動しました。胸は早鐘の
ように鳴り、私は思わず左の方向に
駆け出しながら、「あれは何だろう?
もう一度見たい」と思ったそのとき
オレンジのビームがまた左から右の
方にユラユラという感じで飛んでき
ました。私の驚きは言葉では言えま
せん。

次いで七日、八日と三夜つづけて
UFOを見ました。だんだんと確信
が出来て友達にも話したくなりました。
見たこともないUFOを見た
と集まった友達は、それぞれ自分の
目で見ても、春休みはお互いに家庭に
いながら庭に出たりして、このUFO
の観察は現在もつづけています。
清き水が流れるように私達の周囲
はUFOの美しき、未知の物に對す
るあこがれ、知らなかつた事に対す
る驚きとともに、宇宙の果てしない
もろろの問題に久保田先生達の今
までの努力がどんなにか苦勞のこ
とであつたでしょうにと、さまざま
に頭の中を駆けめぐりました。

そしてこの五月のゴールデンウイ
ークには私の広島の実家が両親の金
婚式のため、姉妹たちが集まること
になりました。広島に向かう途中、
両親の金婚式に金星からのUFOを
呼びたいと願つたのです。広島の実
家は山あいにもまれた、本当に静か
な山村にあります。

四月二十九日午後七時半、一〇分ほ
どテレパシー送信をしました。な
んだか「こんな所に?」というなん
ともいえない気持ちになつて家の中
にさつさと入ってしまいました。

翌三〇日、誰にも黙って別棟に上つて二階の部屋の窓をあけ、「広島県三和町の山の中にいます松葉です。姿を見せて下さい」と呼びかけました。二、三度呼びかけた後、私は子供と私の寝具を二組して考えました。今日はUFOが出るまでゆつくりと気持ち落ち着けて呼びかけてみよう。東京の空でも来て下さるUFOに、この山の中ならもっと出やすいのでは？と思ったのです。「窓の所に立ち、静かに両親の金婚式をやります。一目あなたちの姿を見せて下さい」と心をこめて送信しました。この間、一〇分か一分くらい。

来たのです！ 南の山の中腹に銀色に光るUFOが姿を見せました。東京で見るときよりも数倍大きく、暗い夜空にときりつき、あざやかに銀色の光は輝いています。

三回くらい点滅を確かめて私は二階から声を限りて両親を呼びました。階段をかけ下りながら、「UFOよ、UFOが来たのよ、見て、早く早く」と言いながら庭にみんなで飛び出て行きました。両親の足もとを心配する前に、私はこの光り輝くUFOをどうして両親に見せてあげたかったのです。

私達は、一八〇度見渡せる広い空の下でピカピカと凄くきれいに光るUFOを見てると、南の空から大きく私達の立っている左の方向にぐんぐんと回りこんで来たのです。大きな杉の木の上に点滅しながら消えなくなったとき、二機、三機、四機目が一列に並んで私達の頭上をゆつくりゆつくり飛んで行くのです。私は驚喜しました。両親に「UFO

Oよ、音が全然しないでしょう。これがUFOなのよ」と一生懸命に説明しながら、これは金星から来たのよ」と言いますと、父は「あつ、あつちでも光っている。こつちにも出た」と言っています。でも私は、はつきりと何機出ているのか数えるのも忙しく、母も子供もそれぞれ一、二、三・・・と数えているけれど、広い空にピカピカと点滅を繰り返して、西の方向に一機、二機と消えて行く有様を両親がしつかりと見たといっています。私は喜びのあまり思わず涙が出てきました。

そして最後に母船がきたのです。同じ方向から音もなく、いかにも悠然と「大きいんだよ」といわねばかりに浮かんでいます。はつきりと赤とグリーンに光とともに、赤が光ると反射で真ん中が黄色のX印のようなものが光りながら、私達の真上を無音のまま静かに通り過ぎて行きました。最後の母船が西の山のけがれに入って見えなくなるまで、私達四人は感激したまま立ちつくしていました。

UFOの去ったあとには小さな星がキラキラと輝き、何事もなかったかのように静寂な山の空気はそよよもしないで、私達の興奮を和らげるように家の周りは静まりかえっています。家に入るなり時計を見ました。八時二十五分。UFOが出たのが八時頃だと母が申しします。

両親はこの土地に長く住み、そして初めてUFOを見たのです。銀色に光る宇宙からの飛来物を生きているうちに見られるなんて、どんなに幸せなことか、私は詰めこんだ知識を一生懸命に両親に話しました。私

は両親への何よりの贈り物と、この夜ほど感激したことはありません（筆者注）筆者は翌日の夜もテレビパシ―で呼びかけて同じような物体が出現するのを両親とともに目撃している。詳細は省略。

アダムスキーに関する素晴らしい話を伝えて下さった友達にも感謝し、大変なお仕事に人生をかけていらっしゃる久保田先生を思い、いつまでもお元気で今後の活躍を願い、心からの感謝をお伝えしたいと思ひます。ありがとうございます。

UFO観測会に感謝

松山市 小武家浩一

先日テレビパシ―コールUFO観測会では大変楽しい時を過ごさせていただき、まことにありがとうございます。このような企画をしていただいた久保田先生に感謝致しますとともに、悪天候のなかをご尽力いただいたGAP東京本部の役員の方々、車のない私どもを引率していただいた篠さん、マイクロバスを運転していただいた清水正氏ともう一人の方に心より感謝致しております。それにしても、あの悪天候の中をあつた時間帯にそれだけの人が集まってこれられるとは、GAP会員の方々の熱心さに全く感心させられました。

久保田先生はじめ東京支部の皆様方の今後のご活躍を心より祈り申し上げます。

よい勉強になった観測会

東京 三田早苗

先日はUFO観測会においてお世話になりました。ありがとうございます。

した。特にひどい雨の中を受付の準備から観測会終了までをお世話くださった本部役員の皆様には心からお礼を申し上げます。久保田先生におかれとも会員の無事故を願ったり、当日の観測会の段取りなどを考えたりで、本当にお疲れになったことと思います。お陰さまで大変充実した時を味わえてうれしく思います。

いろいろ勉強になりました。せっかく会場で全身を目にしたつもりでその波動をキャッチする心構えを教えていただいたのに実践できず、心を落ち着けて観測することができず、集団の中にいながらマインドをコントロールすることの難しさを知りました。つい好奇心の目で空を仰いでいました。

往復の車中で、北海道から沖縄まで全国から参加された方々が、今回の観測に対する心構えとGAPという集団に対する期待感など、皆思い思いに語り合う姿にキーンと胸が締めつけられました。

スペースビープルに呼びかけている際そうでした。こんなにここで大勢集まり、スペースプラザからのご指導を願っている姿で空を仰いでいるということを知るにつけ、「ああ、地球人は本当の愛に飢えているんだな」というか、「真実を求めてやまない地球人の姿」とでもいいました。何か妙に切なくなってしまう。久保田先生の存在の大きさを思い知った日でもありました。

でも私にできる範囲においては怠けずいつも向上したいという心と一緒に、これからも頑張つてゆこうと思っています。同時にどんなときでも心に余裕が保てるようにコン

トロール法を身につけて、その余裕から生まれてくる笑顔で私の周囲の人々に安心と幸福感を味わっていただけになるまで勉強してゆきたいとひそかに決意しています。今後ともよろしく願ひ致します。

内部のフィードバックを待つ

千葉 岡部智成

先日は観測会にて大変お世話になりました。観測に出たのは久しぶりでした。

さて、今回の観測で得られた成果ですが、遠藤さん、斎藤さんの指導に従って呼びかけているあいだ、また休息のあいだ、ずいぶんいろいろな印象が起きました。上空に意識を向けて送信するのも大切ですが、その後はむしろ自分の内部に目を向けて、わきおこるフィードバックを静かに待つことが重要であることを学びました。観測会ではどうしても空にばかり心がいきますが、その後はやる気持ちはグッと押さえて、自分の中にあるような感じが起くるか、そしてそれを静かに「見てみる」ことがいかに大事であるかが分かりました。その方が結局は大きな空をキョロキョロ眺め回すよりも、もっと確かな方法であることを知りました。強い関心をもつてしかも静かに構えていれば、円盤が来るときには肉体的（視覚等）は自然に反応して、また今回は大勢でしたので、UFOだけでなく私達自身の姿をも観察できました。

とにかく今回は先生のお言葉どおり、忍耐が肝心なことを再認識しました。私にはよい勉強になりました。今後とも何度か観測会を開催されまうようお願い致します。

第1回南九州支部大会

鹿児島県のシンボル桜島と紺碧の錦江湾を背景に設計された白亜の「鹿児島市民文化ホール」において四月二十九日に第一回の大会が開催された。

第一回ながら三〇名に達する皆さん方が九州各県から参加して下さり、大盛況であった。やはり地方会員にとっての支部大会は、両先生に接する絶好の機会なのである。

曾我部副代表の司会で大会が始まる。つづいて久保田先生の『宇宙哲学と奇跡発生法』と題する講演の中で先生自身の不思議な体験と経歴を交えながら、分かりやすく実例をあげて話された。人生において奇跡を起こすにはAⅡ技術的なテクニックとして次の事が必要である。(1)ミラクルワードを唱

えつづけること。(2)実現したイメージを強烈に鮮明に描きつづける。

BⅡアダムスキー哲学では万物は絶対に善である。なぜなら万物の中に宇宙の意識が存在するからである。以上の事を確信することにより、自分の人生に良い物事を引き寄せることができる。と力説され、AⅡともに「絶対に諦めない」強い意志を必要とすると話された。

このような内容は平素から解説講義のテープや本等で幾度となく紹介されているが、やはり身近に拝聴すると、あらためて話の重要性が身にしみてくる。

今回は特に鹿児島の生んだ大西郷の宇宙的思想についても触れられ、アダムスキー哲学との共通性を再確認し、一二〇年前の郷土の大先輩の偉大さを

実感した。また明治維新で活躍した西郷南州をはじめ偉人英雄などについて遠藤氏が透視された結果、やはりスペースプログラムに基づく内容であること等を話された。

つづいて東京本部役員の遠藤昭則氏によるテレビシー開発指導が行なわれた。東京の月例研究会と同じ内容で、具体的に直接指導を受けて非常に大きな励みになった。質疑応答も最後まで熱心につづいた。

大会終了後、サンロイヤルホテルの『藤の間』で夕食会が行なわれ、薩摩の焼酎を酌み交わしながら歓談の輪が広がり、親睦を深めた。

翌三〇日の観光も快晴に恵まれた。桜島は今年すでに四〇数回の噴火を繰り返し、当日も小規模の噴火のため全身灰まみれになったが、一同元氣よく

桜島の奇観を見物した後、島津藩別邸の『磯庭園』を見た。

今回は第一回大会のため、不慣れなことも手伝って、充分に行き届かなかったと思うが、大成功に終わったことは鹿児島の会員の励みとなった。これで新たな展開の可能性も見えてきた。今後さらに大会をつづけたい。両先生と参加された皆様方、有難うございました。(鶴田清則)

▲写真は上から①久保田会長の講演。②遠藤講師の指導。③夕食会(右端鶴田支部代表)。④大正三年の大噴火で埋まった桜島の鳥居。⑤噴火する桜島をバックに展望台にて。撮影/鶴田清則



第11回仙台・山形合同支部大会

日本GAP仙台・山形合同支部大会も回を重ねること一回となった。過去一〇回の大会も、それぞれ思い出があるが、今回の大会は忘れ得ぬ素晴らしい大会となった。

五月四日、仙台市の片平市民センターには予想を上回る出席者が詰めかけていた。総勢四七名。過去、最高の出席者である。天候はあいにくの曇空。今年は東北地方全般にこの時期としては珍しいほど雨が多い。

午後一時、柴田文子さんの司会で開会され、いよいよ日本GAP会長・久保田八郎先生のご講演が始まった。

奇跡を起こすミラクルワールドとイメージ法の実践と実例。「誠実に楽しく」生きる重要性等々、深遠な内容を明快

にお話しされた。なんといつても『絶対善』の話は圧巻だった。

講演後の自己紹介の際、ある女性会員のほうが「絶対善のお話を聞いて怖いものがなくなりました」と感激を隠せない表情で感想を述べられた。これから宇宙哲学を学ぼうという方、またはもっと研究を深めたいという方は、とにかく直接先生のお話を聞く事を私はお勧めしたい。

また、現在、超能力やUFO問題についてさまざまな情報が乱れ飛び、一体何が本当なのか分からないような状態になっている。何を基準にすればよいのかという問題で、久保田先生はアダムスキーの書物を基準にすることの重要性を強調された。

休憩後、遠藤昭則氏によるテレビジョン開発指導が行なわれた。地方の我々

にとつて本物の超能力者から指導を受けられる貴重な体験となった。

質疑応答では久保田先生と遠藤氏が多数の質問に答えられ、また医学的な質問に対しては群馬から出席された会員の原ドクターに特に回答を願った。

定刻五時に大成功裡に大会が終了した。午後六時からは場所をワシントンホテルのオリープの間に移し、和気あいあいたる雰囲気の中で、佐藤春雄氏の素晴らしい民謡、お楽しみ福引きなどで親睦を深めた。

翌日は松島の国宝「瑞巖寺」、仙台市博物館などを周遊し、歴史散歩に繰り出した。時折、小雨がパラつく天候だったが、このため逆に入りが緩和され、車の渋滞が少なくて、円滑に計画が進行した。

宇宙の大講演を頂いた久保田先生、

撮影／松村芳之



遠藤氏、その他の方々に心から感謝の意を表する次第である。

来年度は場所を変えて山形市で開催する計画をすすめている。今年と同じ五月の三連休を利用すべく、すでにGAP本部へ申し込んである。立派な大会を開くつもりなので、またも多数ご出席の程を今からお願いしておきたい。

(笠原弘可)



第四回長野支部大会

第四回長野支部大会は快晴に恵まれた六月四日に、松本郊外の名高い浅間温泉『みやま荘』で開催された。出席者数を心配していたが、フタをあけてみると満員の状況となり、一息ついた。

大会は中村公一副代表の司会で始まり、支部代表の挨拶の後、久保田先生による『宇宙的能力の開発と絶対に安全に生きる方法』と題する講演を聞いた。

先生のお話は、常に日常生活の中で実践してられており、毎回説得力に富んで素晴らしいものであった。今回は万物は一体であるという点についてより深いご教示を受けることができた。そして安全に生きる方法については、『万物は絶対に善である』という認識のもとにこのフィードバックを高めるならば、波動が異なるために悪が寄ってこないものであるという事を力説された。実に単純明快なことなのだが、これが実に難しい。久保田先生の迫力に意を強くした次第である。また物事を行なうのに誠実さが必要であることや、常に楽しい気分を保ちつづけることを強調された。あらためて信念の重要性を痛感した次第である。

つづいて遠藤昭則氏による超能力開発の実技指導が行なわれた。短時間ではあったが、最近のUFO目撃談のあと、東京セミナーで指導されたテレパ

シー練習をそのまま指導頂き、中身の濃いものとなった。

お話の中で、熱心にスペースビープルに呼びかけをすれば答えてくれるということや、毎日の練習が能力開発のカギであると説明され、一同目を輝かせて聞いていた。

大会も自己紹介、質疑応答とつづき、大詰めとなったところで、巨大な母船と思われる物体を間近で見たという方の目撃発表が行なわれて大会に花を添えた。この件の詳細な発表は後日に予定している。

五時に大会が無事終了し、六時より夕食会が始まる。和気あいあいたる中を食べ切れぬ馳走を残してホテルの大部屋で二次会に移り、地元産の特殊なワインとブランドーを賞味しながら楽しい語らいで夜をすごし、一時間に解散した。

翌日は薄曇りながらも天候に恵まれ、絶好の行楽日和のなかを、早朝バスで出発し、富山県の黒四ダムへ向かう。ダムの玄関口である扇沢に一〇時に当

▲上から①松本城をバックに原ドクター一家と久保田②松本空港③村井駅前にて④黒部ダム。

撮影/田村恒雄・博田文彦

着後、トロリーバスでダムに出る。人間の偉大な創造力によって建設された巨大なダムの上を歩くと、当時ここで働いた述べ数十万人の人たちの熱意が伝わってくる。その後、安曇野に寄って、大王わさび園で小憩する。

この観光で人間の偉大さを再確認、素晴らしい一日をすごすことができた。ご出席下さった方々に厚く御礼を申し上げる次第である (博田文彦)

今回は大会当日の午前中、松本空港へ案内して頂いた。ここは太平洋戦争末期に私が所属していた松本航空隊の爆撃機基地があったところで、四五年ぶりの再会である。広い草原に昔の面影が若干残っているが、周囲の変貌ぶりに茫然とするのみで、感傷はない。四五五年後にここへ支部大会で来るとは夢想もしなかった自分の運命を黙考しながら佇立する。

終戦直後の昭和二〇年八月二〇日、私は大荷物を背負って村井駅から復員した。ホームで、私が世話になった衛

生係上等兵に丁重な礼を述べて大混乱の列車に乗ったが、座席がないために網棚に腰を下ろし、体をかがめて足を座席の背もたれにのせたまま古屋へ出たのを記憶している。戦争のことは思い出したくないが、これも民族のカルマだったのだろうか。

松本は素晴らしい町だ。大会も上出来だった。皆さん方に深謝したい。

(久保田八郎)



第3回 秋田・青森合同支部大会

- 日 時 平成2年11月3日(土) 午後1:00→5:00
- 会 場 「秋田県社会福祉会館」9F 第3会議室
秋田市旭北栄町1-5 ☎0188(64)2700
※JR秋田駅よりバス10分(山王2丁目下車・真向かい)
- 会 費 ￥2,500(全員記念写真代一送料共一¥800は別納)
- プログラム 1:00 支部代表挨拶 伊藤正治・田村嘉彦
(司会佐藤忠義) 1:10 講演「アダムスキー哲学を生かす方法」
日本GAP会長 久保田八郎先生
2:30 全員記念撮影・休憩
3:10 全員自己紹介・質疑応答
5:00 閉会

今や国内のみならず国際的アダムスキー研究家として第一線で活躍される久保田先生を久々にお迎えして盛大に支部大会を開催することになりました。親しく先生に接して直接ご指導を頂く絶好の機会です。万障お繰り合わせの上、多数ご出席下さい。両支部会員一同心をこめてあたたかくお迎えし、素晴らしい雰囲気づくりに努力します。

- 夕 食 会 6:00→8:30(希望者のみ)
- 会 場 三井アーバンホテル秋田
☎0188(24)4131
大会会場から徒歩5分
- 会 費 ￥6,000
- 宿 舎 三井アーバンホテル
秋田を幹旋。
秋田市大町2-5-1
シングル ￥6,000
ツイン ￥10,000

▼秋田県社会福祉会館

- 観 光 11月4日(日)
男鹿半島寒風山にて
360度回転展望台に
より宇宙との一体化
を体験。参加費未定。
- 申 込 大会・夕食会・宿舎・
観光の申込はハガキ
または電話で下記へ。
10月20日頃までにお
願います。
〒011 秋田市山王新
町15-4
伊 藤 正 治
☎0188(62)2381
- そ の 他 11月月例会は中止し
ます。



(39頁より)二酸化炭素は金星の対流圈内ではきわめて少ない。
普通の雲や風はこの地域で活発であり、地球と同じような気候をつくりだしている。地表の温度と気圧も地球のそれと似ている。海洋(複数)と多数の湖が地表に存在している。
金星は地球の自転と似たような自転

◀ソ連の金星探査機ベネラ4号の着陸カプセルがパラシュートで着陸した光景。ただしここは金星ではない。写真提供APN

周期を持つっており、金星の一日の長さは二六時間である。地球に住んでいる人なら誰でも金星へ行つて、宇宙船の外に降り立つことができるだろう。諸状態が二個の惑星間で類似しているのである。(第10章完。次号は第11章「人間の住む太陽系」)

英文版「UFO contactee」No.6

B5/12頁/コート紙使用/¥500(送料¥175/3冊まで¥250)

世界のUFO研究界で注目的になっている日本GAP発行英文版ユーコンは、Space Brothers派のUFO研究団体や欧米の個人研究家の間でも絶賛。No.6では春川正一氏の宇宙の体験談の連載記事第4回分、アダムスキーの質疑応答、アメリカGAP会長ダニエル・ロス氏のニューズレターからの抜粋、その他の有益な記事写真を満載。重要な保存資料となるものです。久保田八郎・坂本貢一執筆の記事を米人学者が校閲。流麗な英文は英語学習用にも好適です。注文は振替か切手(低額)でどうぞ。＝日本GAP＝

編集後記

★新アダムスキー全集刊行は順調に進展して、一息ついていきます。前号に掲載した新全集の広告とは発行順序が変わりましたので、本号の広告をご参照の上、お間違いなきようにお願いいたします。

★本号記事では「UFO・異星人との遭遇体験記」が圧巻です。これはばう大量のほんの一部分です。こうした勇気ある情報提供者が出現するのを本誌は待ち望んでいます。国内には相当数のコンタクタイが潜在していると思われ、今後とも発掘をつづけます。★昨今UFOの情報が混乱し、何が真実か分からぬという声をよく耳にしますが、これからはやはり自己の内部のテレパシクな印象に従うばかりに方法がないでしょう。UFO問題に関する限り客観的な絶対的基準はない(と思われている)からです。物証主義のこの世界では「見ないことには信じられない」主義が幅をきかせています。それなら外へ出て大空を仰ぎながらUFOを見たらどうですか。そのための指針として「UFOの正体と観測の仕方」を書いてみました。参考になれば幸いです。しかし目撃の成否は本人の価値観をい基本とした想念波にかかっていると云えるかもしれません。難しいところです。

★UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方は面談して下さって結構です(心霊は不可)。

★本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この協力チームに参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。(K)

日本GAP機関誌・季刊 秋季号
UFO contactee 110号

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒133東京都江戸川区本一色1-12-1
電話 03-6511-0958
振替 東京4359112

一九九〇年七月二十五日発行
定価九二七円(本体九〇〇円)・送料二一〇円
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

1990年度

1990 GAP-JAPAN GENERAL ASSEMBLY

新アダムスキー全集刊行記念

日本GAP総会

	総 会	大 夕 食 会
日時	9月24日(月)〈振替休日〉 午後1:00→5:30 (12:30開場)	総会終了後 6:45→9:30
会場	「銀座ガスホール」 東京都中央区銀座7丁目9番15号 ☎(03)573-1871 JR有楽町駅の銀座側下車。駅を背にして右方へ歩き、西武デパートと阪急デパートの間の筒抜け(通称マリオン)を通り抜けて有楽町の大通りへ出ます。左方の銀座通りまで徒歩約3分。三越デパート前の十字路を右折し、銀座中央通り(いわゆる銀座通り)を8丁目の方向へ約250m歩くと、左側に「銀座ガスホール」があります(ヤマハ楽器店の左隣)。入口より奥へ行き、エレベーターで6Fへ上がって下さい。有楽町駅より徒歩約10分。	「ホテル浦島」 2F大ホール 「菊の間」 東京都中央区晴海(はるみ)2丁目5番23号 ☎(03)533-5331 銀座4丁目交差点の銀座4丁目バス停から晴海埠頭行きのバスに乗り、晴海三丁目下車。約10分。タクシー約10分。徒歩約40分。 (ご注意) 夕食会は時間の制限がありますので時間厳守をお願いします。
会費	¥3,800 (会場受付でご納入下さい。ハガキで夕食会の申込をされた方はその代金も併せてご納入下さい) 中・高生は ¥2,000 、小学生以下は無料。	¥8,000 (総会入場時に夕食会の会費を納入済の方は受付でチケットをお見せ下さい。未納の方は受付でご納入下さい)
プログラム	1:00 司会者挨拶 篠 芳史 1:05 講 演 ↓ 「分子生物学的に見た『生命の科学』の素晴らしさ」 〈スライド映写併用〉 2:30 原 永 庫 (医師・日本GAP会員) —10分間休憩— 2:40 講 演 ↓ 「アダムスキー問題の真相と日本GAPの意義」 〈スライド映写併用〉 4:00 久保田八郎 (日本GAP会長) —10分間休憩— 4:10 質疑応答 5:30 終 了	6:45 会長挨拶 6:50 中央アート出版社・吉開社長挨拶 7:00 乾杯音頭 清水 南 祝宴、演芸 9:30 閉会 ●演芸はすべてGAP会員のプロ級が出演。佐藤春雄氏(秋田)の秋田民謡、坂本貢一・茂子夫妻(茨城)のアメリカ民謡、升田裕子氏(広島)のフランス歌曲独唱、ロックバンド「スカウトシップ」(枝川文好、他8名・東京)の楽団演奏等、豪華顔ぶれ。●飛び入り出演はお断り。●今年は素敵な賞品がたまるお楽しみ福引きも行ないます。●夕食会終了後、別な料理店で2次会を開催。会費¥2,000~3,000程度。●夕食会に出席される方は、ある程度きちんとした服装をお願いします。
申込	9月24日夜の夕食会、宿舎希望の方は下記の要領でお申込下さい。 (1)夕食会=ハガキに「夕食会出席申込」と記して下記の申込先へ9月21日までに申込下さい(必着)。電話でも受け付けます。 (2)宿 舎=「東京ホテル浦島」をあつせんします。(夕食会場と同じホテル)。東京都中央区晴海2-5-23 シングル ¥ 6,800 (税、サ、食事別) ツイン ¥12,500 希望者はハガキに①宿泊日②シングル・ツインの別③住所・氏名・電話番号を明記して下記へ9月20日までに申込下さい。 (3)申 込 先=〒150 東京都渋谷区東3-24-9 サンイーストビル2F ワールドセプトラベル社 田中 正 (宛) ☎(03)499-2461 夜間は田中自宅の (0474)77-4728 へ。	

日本GAPの年次総会を今年も開催致します。GAP創立者アダムスキー研究者として国際的に活躍する久保田会長と、医師で会員の原永庫氏の二人によるアダムスキー問題と「生命の科学」の分子生物学的な解説が、いずれもスライド映写により行なわれます。年一度の宇宙的な楽しいイベントと懇親の夕べを満喫して下さい。多数の方のご来場をお待ちしております。(非会員の方も入場できます) 日本GAP役員代表 篠 芳史

＊総会中の写真撮影は可。講演の著作権は日本GAPに帰属します。
 ＊今回は総会翌日が平日で人手不足のため観光は行ないません。ただし都内観光かディズニーランド行きを個人的に希望される方には便宜を図りますから、上記のワールドセプトラベル社の田中宛にご相談下さい。
 ＊総会当日は銀座中央通りは歩行者天国となり、自動車は通行止めになりますが、「ホテル浦島」方面の晴海通りは走行可能です。
 ＊9月の東京月例会は平常どおり、第2土曜日の9月8日に上野公園の東京文化会館で開催します。

本誌バックナンバー掲載記事目録

※印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛ご送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。

No.109

平成2年4月25日発行 ¥900

豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続—G.アダムスキー
UFO、朝霧高原に出現ノ
デザートセンター円盤着陸事件②——久保田八郎
強烈に輝くUFOを見た私たち——川野綾子
オーラ、宝石、超魔術、チャネラー——遠藤昭則/秋山眞人
「アメリカGAP」発足ノ——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑪——ダニエル・ロス

No.108

平成2年1月25日発行 ¥900

地球へ救援に来るUFOと転生の法則——G.アダムスキー
奇跡をもたらす「生命の科学」——久保田八郎
超能力開発の新しい視点——秋山眞人
潜在意識としてのDNA——N.H.M.D.
私は巨大な母船を見た——小瀬村美美子
私についてきた光るUFO——郡司典子
GAP海外旅行で目撃した数々のUFO——中根 豊
ロイよ、来て助けておくれノ——久保田八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠⑩——ダニエル・ロス

No.107

平成元年10月25日発行 ¥900

テレバシー開発法とUFOの実態——G.アダムスキー
マチュピチュとナスカの謎——久保田八郎
私はペルーでUFOを見た——富岡設子
アダムスキーに会った唯一の日本人⑥——向井 裕
超能力開発の基礎レッスン——齊藤庄一
宇宙哲学を生かした超能力開発法——遠藤昭則

No.106

平成元年7月25日発行 ¥900

金星から知的メッセージを受けたマリナー2号——G.アダムスキー
アダムスキーに会った唯一の日本人②——向井 裕
宇宙哲学で奇跡を起こす方法——久保田八郎
ヒーリングとテレバシー——遠藤昭則
テレバシー現象の医学的考察——N.H.M.D.
UFO-宇宙からの完全な証拠⑨——ダニエル・ロス

No.105

平成元年4月25日発行 ¥900

デザートセンター円盤着陸事件—久保田八郎/篠芳史/坂本貢一/茂子
アダムスキーに会った唯一の日本人①——向井 裕
過去生透視法とその実例②——遠藤昭則
輝く星々の彼方へ——齊藤庄一
長野県に巨大UFO出現!——博田文喜
UFO-宇宙からの完全な証拠⑧——ダニエル・ロス

No.104

平成元年1月25日発行 ¥900

UFO問題と世界の運命——久保田八郎
アダムスキーの宇宙的カルマと異星人の援助——アリス・ボマロイ
デザートセンターで円盤着陸痕跡発見ノ—安藤雄雄/久保田八郎
過去生透視法とその実例——遠藤昭則
UFO-宇宙からの完全な証拠⑦——ダニエル・ロス
GAP活動の原理——ダニエル・ロス

No.103

昭和63年10月25日発行 ¥900

アダムスキーの体験は真実だったノ——アリス・ボマロイ
我らの惑星に愛と希望を——久保田八郎
カイロ上空に輝くUFOが出現——伊東芳和
私のUFOコンタクトと宇宙的目覚め——富岡設子
UFO-宇宙からの完全な証拠⑥——ダニエル・ロス

No.102

昭和63年7月25日発行 ¥900

UFO目撃で驚嘆、大変化した私——後藤泰二
仙台市上空にUFO長時間出現——遠藤昭則
富士山周りでテレバシーに伝えるUFO群——長沼宏志
ミラクルワードとイメージ法で奇跡を起こす——田中 正
良い想念であなたの環境は良くなる——ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑤——ダニエル・ロス

No.101

昭和63年4月25日発行 ¥900

宇宙的家族のUFO目撃の日々——坂本茂子
精神的指導者に対する警告——G.アダムスキー
円盤の惑から手を振る「異星人」——齊藤庄一
長野県に出現したUFOの大群——博田文喜
頻繁なUFO目撃と超能力体験——佐々木八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠④——ダニエル・ロス

No.100

昭和63年1月25日発行 ¥900

UFO問題とアダムスキー——久保田八郎
富士山二合目から目撃したUFO——遠藤昭則
私はこうして超能力を開発した——坂本正廣
アメリカの不思議な土地——水野和彦
UFO-宇宙からの完全な証拠③——ダニエル・ロス

No.99

昭和62年10月25日発行 ¥700

UFO-宇宙からの完全な証拠②——ダニエル・ロス
山中湖畔で空中を飛んだ自動車ノ——清水 南
富士山にUFOが大挙出現——清水敏恵
〈写真〉大分市上空のUFO
アダムスキーの大地とマヤの国へ——久保田八郎

No.98

昭和62年7月20日発行 ¥700

木星の衛星イオに古代都市跡を発見ノ——
UFO-宇宙からの完全な証拠①——ダニエル・ロス
静岡市上空にUFO頻繁に出現——遠藤昭則
太陽系惑星にまだ仲間がいる?
連夜のテレバシー送信に応じて出現した円盤——片岡 豊
万物の実体と想念の重要性——知念清邦
私は別な惑星へ行ってきたノ(最終回)——春川正一

No.97

昭和62年4月20日発行 ¥700

驚異の「生命の科学」と円盤大接近——伊藤達夫
八王子市でUFOを撮影——降旗和彦
別な惑星の偉大な人類と文明——G.アダムスキー
私は別な惑星へ行ってきたノ④——春川正一

No.96

昭和62年1月20日発行 ¥700

私のオーラ透視とテレバシー現象——清水 南
京都市上空にUFO5回出現——久保田八郎
想念放射、透視、UFO目撃——遠藤昭則
UFOと心霊は無関係——G.アダムスキー
私は別な惑星へ行ってきたノ③——春川正一

No.95

昭和61年10月20日発行 ¥700

茨城県千代田村のUFO——日本GAP茨城支部
アダムスキー問題に対する考察——内田格男
私のUFO目撃と不思議な体験——中嶋順子
ジャンボジェットに並行して飛んだ円盤——久保田八郎
私の別惑星訪問体験とアダムスキーの真実性——春川正一

No.94

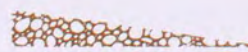
昭和61年7月20日発行 ¥700

テレバシーで飛来した真っ黒い円盤——堀江健一
八丈富士山麓でUFOを撮影——谷口美雄
地球を救う愛の想念放射運動——山崎清美
母船の周囲には人工大気層がある——G.アダムスキー
私は別な惑星へ行ってきたノ②——春川正一

No.93

昭和61年4月20日発行 ¥700

月面にいた2機のUFOノ——笠原弘可
超低空に出現した大型円盤と黒い人影ノ——伊藤達夫
私も光体を見た——G.アダムスキー
多くの館——G.アダムスキー
質疑応答——G.アダムスキー
私は別な惑星へ行ってきたノ①——春川正一



支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第2土曜日 午後1:30→6:00 ※8月のみは第1土曜日(4日)に変更。会場も皇居北の丸公園の「科学技術館」第1会議室(6F)に臨時変更。 ※9月から平常通り第2土曜日に文化会館で開催。	上野公園内「東京文化会館」4F会議室。 ☎03-828-2111。JR上野駅「公園口」下車。改札口の真向かい。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-651-0958	会場費 ¥500 セミナー受講料 ¥1000 計¥1500	1:30→2:10 会員による体験講演。 2:15→3:30 久保田会長による講義。 テキスト=「生命の科学」 テレパシー開発法、テレパシー練習、近況報告、自己紹介、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	¥300	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他=東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市弁天3丁目「新潟市青年の家」 ☎025-244-6766。JR新潟駅より徒歩3分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同 上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※8月と9月のみは、8月5日(日)、9月9日(日)に国際センタービルで開催。	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141併。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468	¥300	同 上
仙台支部	毎月第3日曜日 午後1:10→4:20 ※7月のみ7月29日(第5日曜日)に変更。 ※8月より毎月第3日曜日に変更。	仙台市青葉区1番町4丁目「141(イチヨンイチ)ビル」内5F「エル・パーク仙台セミナー室」☎022-268-8300。仙台駅よりバスで県庁市役所前下車、三越デパート隣。 連絡先=笠原弘可 ☎022-295-0725	¥300	同 上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0263-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥300	同 上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同 上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00 ※8月より右記の通り会場のみ変更。	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎0166-61-0044	¥500	同 上
青森支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室。 ☎0177-34-0163。 連絡先=田村嘉彦 ☎0177-38-0416	¥500	同 上
沖縄支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	具志川市栄奥野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先=比嘉政広 ☎09893-3-2889	¥500	同 上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥200	同 上
横浜支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市民文化会館」7F、703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎048-866-7048	¥500	同 上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎0292-73-1903	¥300	同 上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先=博田文喜 ☎0263-58-8510	¥500	同 上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※代表が長期療養のため月例会は当分休会。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0605(呼・田中)	¥300	同 上
栃木支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先=渡辺克明 ☎0289-62-3319	¥500	同 上
南九州支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2丁目3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111。 連絡先=鶴田清則 ☎0993-25-4398	¥500	同 上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	高松市玉藻町9番10号「香川県民ホール」5F第1会議室。 ☎0878-23-3131。JR高松駅より徒歩7分。 連絡先=関 高明 ☎0878-88-1334	¥400	同 上

絶賛発売中

新アダムスキー全集

全8巻全面改訂・新装普及版刊行開始!

久保田八郎訳・各四六判／新巻数順に順次配本。

超絶した大文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた／UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性和真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最終決定版。

アダムスキー／

① 第2惑星からの地球訪問者 352頁・定価1980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー／

② 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) 192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の開発法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

アダムスキー／

③ 21世紀/生命の科学 208頁・定価1300円(第3回配本)

アダムスキーが他界する前年に出した12分冊の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー／

④ UFO問答100 216頁・定価1600円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混乱した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー／

⑤ UFOの謎 262頁・定価1600円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の事情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

アダムスキー／

⑥ 金星・土星探訪記 350頁・定価1980円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー／

⑦ 21世紀の宇宙哲学 148頁・定価1200円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー／

⑧ UFO・人間・宇宙 370頁・定価2200円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関紙に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

【ご注文のしおり】

全国の書店で発売しております。店頭品切れの際は、「巻数・書名・定価・出版社名」をそえて書店にお申込みください。お買い求めにご不便な方、お急ぎの方は、直接出版社に「巻数・書名・定価・冊数・住所・氏名・電話」を明記の上、下記宛にご注文ください。

●ご送金は、便利な郵便振替「口座番号[東京8-66324]」か現金書留または小額の切手(100円以下)でも結構です。その際、定価に送料310円を加算した金額をお送りください。

●〒104 東京都中央区京橋3-7-13 CAP 中央アート出版社

TEL.03-561-7017(代表) FAX.03-561-7018(営業)

A あつたも超能力者に「れる」/ テレバシー能力開発用ESPカード

テレバシーと透視力開発用のESPカードはアメリカのテューク大学で科学的に開発されたゼナーカードです。5種類の図形カードが各5枚ずつ、計25枚入っています。これを用いて多種の練習により人間に内在する超能力の開発に絶大な役割を果たします。堅牢な厚紙製。重量40gの軽量、ポケットに入れて常時携帯して下さい。



25枚1セットケース入り 使用説明書付き
¥900 送料¥120(2~5個¥175)



①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウエルのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判・カラー写真) [上半身写真もあり。定価¥600]
②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービ判・カラー写真)上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。

①¥600 送料¥120 } 一括注文の場合送料¥120
②¥300 送料¥62 }

C 大いなる信念と勇気を与えるGAP能力開発テープ

毎月行なわれている日本GAP東京本部月例研究会のなかから、日本GAP会長・久保田八郎先生が宇宙的フィーリングをもってアダムスキーの名著を解説した講義などが収められたテープ。ドライブ中や、通勤・通学電車内で、あるいは就寝前に聞いたりすれば絶大な信念と勇気がわき起こります。

■日本GAP東京本部月例研究会録音テープ①

内容=久保田会長による『生命の科学』(G. アダムスキー著)解説講義/近況報告/質疑応答(一部)

テープ1本(120分) ¥1300 送料¥200

※このテープは日本GAPでは取り扱いません

■日本GAP東京本部月例研究会録音テープ②

内容=テープ①の内容+遠藤昭則講師によるテレバシー実践講義・テレバシー練習(テキスト付)/質疑応答(全部)

※お申し込みの際はテープ①または②の別をご明記下さい。

テープ2本(90分×2本) ¥1900 送料¥250

◆申込先◆ 〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202 松村 芳之 ☎03-653-9387 振替・東京0-162644

会員募集

日本GAPはUFO研究界の大先駆者・久保田八郎が故アダムスキー氏と提携して1961年に創立したわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究大集団/多数の会員と共に宇宙的人間を目指そう/入会案内書をハガキで日本GAPへ申し込もう!

—日本GAP—

D



—あなたに贈るカルマをもらおう—
日本GAP
〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
TEL:03-651-0958

GAP特製 テレホンカード

第3弾テレホンカードは好評裡に品切れ。ここにデザイン一新の上GAPが放つ第4弾! アダムスキーの肖像写真を入れた優美なデザインによる宇宙的波動を放つこのカードを持つだけでも、高次元なフィーリングが起こって良きカルマをつくり出します。

1枚¥1500 送料10枚まで¥62

E

会員バッジ



実物大

ジョージ・アダムスキーが金星人から与えられた唯一のバッジと形、色、色全く同様に複製した径18mmの丸い優美なバッジです。薄青色地に金色のシンボルマークが浮彫りされており、縁も金色です。表面には透明樹脂が掛けてありますからキズがつかず、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏側が心棒ネジどめ式、女性用は裏側が安全ピン式です。ぜひお求め下さい。ご注文のさいは男性用・女性用の別を明記して下さい。

(無断複製を禁じます)

1個¥2000 送料4個まで¥120

F

—幸せを呼ぶ—

GAPシール

シールを製作しました。WITH COSMIC CONSCIOUSNESS (宇宙の意識と共に) の文字がシンボルマークを取り囲む優雅なデザイン。径6cm、5cm、4cm、3cm、2cmの5枚1セット。青と赤の2種類の表紙。自動車の窓、運転台、カバン、書籍・ノートの表紙、その他の持ち物に貼っておけばいつも宇宙的フィーリングに満ちて気分さわやか。良き想念が良き物事を招きよせます。表面光沢。防水加工。裏面のり付。ご注文の際は青、赤の区別をお忘れなく。

1セット¥900 送料5セットまで¥62

◎を除く商品の 申込先・申込方法

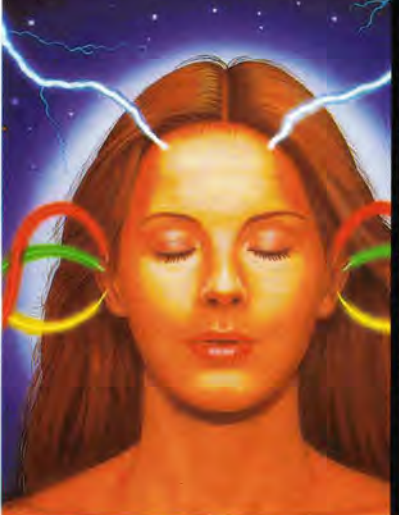
住所・氏名・電話番号・商品名・種類・色・個数等を明記の上下記へ郵便振替または現金書留でお申し込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 日本GAP
振替/東京4-35912 ☎03-651-0958

※商品価格に消費税は含まれておりません。

マインドパワー・潜在能力を開発

「マインドパワーの開発」「充実した人生」
これらを簡単に現実のものにしてくれる驚くべきテープがアメリカからやってきました。
アメリカの著名な心理学者S・ハルパーン博士の開発した「サブリミナルプログラム」がそれ。なにせ美しいBGM音楽を聴き流しているだけで確実な効果があるというのですから、これを利用しない手はありません。



あのハルパーン博士が あなたのために制作

「マインドパワーの開発」「充実した人生」……これらは現実のものにしたい。これはどんな人でも多かれ少なかれ持っている共通の願望でしょう。ところがこの夢をいとも簡単に実現してしまふテープがアメリカからやってきました。それが、アメリカでは知らない人はいないほど有名な心理学者博士ステイヴン・ハルパーン氏の開発した「サブリミナルテープ」です。博士の手になるサブリミナルテープは、米国で昨年一年間だけで五十数万本という驚異的なベストセラーを続け、その確かな効果が実証されています。

BGMとして聴く だけで効果が!!

このサブリミナルテープ、耳に聴くだけで、うっとりするような美しいメロディーの心ゆくたどりとくつろいでく静かな音楽だけで……

（日本の曲でいえば、喜多郎の音楽にイメージが似ている。この音楽だけでもストレスを解消し、気分をさわやかにするすぐれた効果がある。）
博士の開発した他に真似のできない高度な音響テクノロジーと駆使してある心理学的な言葉のメッセージが耳に聴えない周波数に変換されて入っているのです。潜在脳に独特の刺激を与える音楽の波長が、耳に聴こえないメッセージの波長を潜在脳へ送り、植えつけてしまう。
この音楽に交って入っている「耳に聴こえない」心理学的メッセージが、ただテープの音楽を聴いているだけで、潜在能力が開発される。充実した人生へ歩み始める。という現象を引き起こす秘密なのです。
「本を読んだり聴きに熱中している時に、BGM音楽として聴き流しているだけで、夢がかなってしまふ」このアメリカの苦しい科学のプログラムが、これに日本の音程にも利用いただけるようになったのです。

商品お申込みの方へ案内書請求の方に試聴用テープを無料進呈!

1 マインドパワー・潜在能力を開発 マインドパワーシリーズMDシリーズ

あなたの心と体をゆつたりともみほぐし、不安、緊張や心と体の疲れを取り除いてくれる宇宙的感覚のα波BGM音楽に、あなたの意識を拡大し、精神力（マインドパワー）や秘められた潜在能力を自然に開発するサブリミナル・メッセージを同調させたのが、このMDシリーズです。会社から帰ってその日の疲れを癒したい時、日常生活のわずらわしさから解放されたとき、静かなBGM音楽を流して気分転換をしたい時……



MDシリーズのお届けするテーマの内容は、●完全なる安らぎ●意識の拡大●大いなる自分との出会い●無限大の心●宇宙意識の目覚め●人間性・人格の向上●愛と慈悲のエネルギー●精神力の強化●偉大な潜在能力の開発●第六感の開発●自由自在な思考力●無限の知恵の獲得

●ステイヴン・ハルパーン博士のプロフィール●

音楽・音・言葉の潜在意識への作用の研究で世界的にその名を知られる心理学者博士。学者であると同時に、理想世界の神秘、そして米国にもちろくヨーロッパ各国にその名を知られ、世界の注目を数多く持っている。博士の音楽は、聴き流すだけでも高く評価されているが、博士の長年の研究の成果が凝縮した「音楽の薬」としての効能も医学・心理・教育関係者の間で高い評価を受け、いろいろな分野で博士の音楽を取り入れている。カイザー・パーネン病院をはじめ全米の一流の医療機関には、博士の音楽を薬品の代わりとして患者に与え、著しい効果を上げている。



今お申込みの方へ案内書請求の方に(先着500名) サブリミナルテープ1本を無料プレゼント中!!

今、お申込みの方へ案内書請求の方へ500名に、ハルパーン博士制作の心身をつくらせ、大脳の活性化にもつとよい、アメリカで人気のサブリミナルテープをプレゼントしています。

2 現状を打破し充実した人生を 充実人生シリーズ(HLシリーズ)

「今のままではいけない!」「もっと充実した人生を送るために何かをしなければ……」そう心の中では感じているけれど、現状を打破する第一歩を踏み出すきっかけを、つかめずに毎日情性に引きずられて何となく過してしまっている、という方にお勧めするのがHLシリーズです。
現状から抜け出し、新しい人生に向けて第一歩を踏み出す動機づけ、毎日がワクワクするような胸のときめきを感じる充実した人生を送るために必要な能力や行動力を自然に身につけられるよう、魂に呼びかけられた美しい音楽にまじったサブリミナル・メッセージが、あなたの潜在意識にやさしく語りかけます。
就職前や、ちょっとBGM音楽でも流さずかかっていた時にこのHLシリーズを聴いてBGM音楽としてお楽しみ下さい。



HLシリーズのお届けするテーマの内容は、●現状を打破する目標・計画づくりの習慣・情性からの脱却●最高の人生を生きる●自分の可能性を試す●すぐ実行する習慣●必要読書・勉強の実行●毎日ベストを尽くす●プロフェッショナルをめざす●向上意欲の強化●充実した人生を生きる●大いなる未来へはばたく

今なら無料試聴でき特別価格で購入できます

●MDシリーズ●HLシリーズは一年間の会員制の頒布会方式でお届けします。お申込み後、毎月各テーマ別のテープを巻き出すテープによってはお届けしていきます。お支払いは毎月テープ到着後に4,800円（送料300円）。第一回目およびそれ以降もテープ到着後5日間の無料試験期間を設けていますので、気に入らない場合は自由に返品できます。途中退会も自由です。

●今回ご紹介したシリーズ以外にも「高度学習セット」・「魅力的な性格シリーズ」等のシリーズがございます。詳しい案内書をご希望の方は、お電話あるいはおハガキで案内書希望とご申込み下さい。

(受付AM 9時~PM 24時 祭日も受付中)

潜在能力が目覚める 『記憶力・集中力の増大』『知能の向上』
真の自分が目覚める 『恋愛・人間関係成功』『強い自分の養成』

あなたを変える驚異の ヘッドホン

アメリカで数年前から話題になっている、
『大脳の脳波を誘導し、
人間の無限の可能性を引き出す
というヘッドホンが遂に日本へやってきた。
普通のヘッドホンと同じように
音楽等を聴いているだけで、
内蔵されたパルス波発生装置が作動して
大脳を心地よく刺激してくれる。
何度も愛用しているうちに
知らず知らずのうちに潜在能力が開発されたり、
精神力が強化されてしまうというわけ。
一度、試してみる価値はある。



○右耳、左耳片方同時にパルス波を伝達するジャック付
○高音質ステレオヘッドホン仕様
○BGMアダプター付 ○収納ケース付

波の周波数モードの切換えができ、

シンクロ・アルファの多様な効能



『シンクロ・アルファ』と呼ばれるこの特殊なステレオヘッドホン。ヘッドホン内部に組み込まれた特殊な周波数のパルス波発生装置にその秘密がかくされている。使い方はとても簡単。目的に応じて4つの周波数の中からひとつを選び、スイッチを入れるだけ。あとはヘッドホンを装着して、勉強する、雑誌等を読む等くつろぐ、普通のヘッドホンと同じようにラジカセ等に接続して好きな音楽を聴くだけ。(パルス波は耳に全く聴こえないから勉強や音楽鑑賞の邪魔になることはない)
アメリカの有名な医学者、M・ギルラ博士の研究で明らかになった、大脳の脳波を共鳴させる特殊な周波数のパルス波。シンクロ・アルファから発生するこの特殊なパルス波の刺激によって大脳が活性化され、『学習能力向上』『記憶力・集中力の増大』『知能の向上』『精神力・性格の強化』等々の数々の効能が全く努力なしに得られる。

- ① 安眠・深くつろぎ・性格改善
- ② 瞑想・直観力開発・知能開発・精神力強化
- ③ 記憶力・集中力強化・学習能力向上
- ④ 大脳の覚醒・自信・意欲、行動力の強化の4種類の目的に応じた使い分けができる。

『シンクロ・アルファ』の使い方

- ① 自分の好きな音楽を聴く——音楽鑑賞をしながら、潜在脳力開発や自己開発ができる。
 - ② アルファ波音楽テープ、サブリミナルテープ、自己暗示テープを聴く——これらのテープの効果をより一層引き出すことができる。
 - ③ 勉強中に利用する——BGM音楽をかけながら、あるいは全く無音の状態で使用し、学習能力を上げ記憶効果を倍増させる。
 - ④ 読書中や他の事をやっている時に装着する。
- その他、テープ教材の記憶学習用に、安眠誘導用あるいは眠気防止用にと幅広い目的で利用できる。

7日間無料試用できる

この『シンクロ・アルファ』ステレオヘッドホンを今なら7日間無料試用できる。
■価格(消費税3%は別)
一括払 一九八〇〇円(送料八〇〇円)
分割払 三、五〇〇円×6回(送料同)
■申込み方法
商品名・住所・氏名・電話番号・年令・職業・一括分割の別を明記の上、左記までハガキか電話で。

α波音楽テープ無料プレゼント中
今、お申込みの方にもれなく、大脳を活性化させるα波音楽テープを一本無料でプレゼント。
波音楽テープを一本無料でプレゼント。

〒107 東京都港区南青山1-26-4

アメリカンライブラリー社 UFO係

電話 東京 03(479)9864

(受付AM8:PM24日・祭日も受付中)